

マンガ大賞

Cartoon grand prize

2014 マンガ読みが選ぶ2013年の一推!



マンガ大賞2014決定! 選考員コメント掲載!



マンガ大賞2014 大賞受賞作品

ハルタ / KADOKAWA

「乙嫁語り」 森薫

選考員コメント・1次選考

- 遊牧民のお話し。現代社会の中で無くなっていったものがこの物語を通して蘇ります。誇りと尊敬と厳しさと愛。それを書き込まれた美しい画が伝えてくれます。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

- 丁寧な描写と、非常に豊かなキャラクターの表情や動きで、遠い世界のお話なのに、臨場感を持って楽しめます。舞台である19世紀の中央アジアは、ロシアの影響をこれから強く受ける時代に入っていきます。話中でもそのあたりを含んだ台詞もありますので、今後どのような展開をしていくのか、楽しみです。もちろんタイトルの「乙嫁」の生き様が中心となると思いますので、次にどんな素敵な「乙嫁」が出てくるのかにも期待しています。

会社員 / 林礼春

- 一年に一回の刊行なので毎年ドキドキしてます w 去年までだと、双子の話。やんちゃな双子をとおして、出会うことの無い文化に出会えたことに感謝します！

会社員 / 金子幸恵

- 昨年に続いて推薦します。いつ取ってもおかしくないと思われているはず。あとはタイミングと巡り合わせの問題でしょうか……。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田汗太

- 広大な草原で問う家族の物語……かと思いきや、最新刊で見せた、部族間との抗争。シンプルに生きることだけを考えた時代の人々は、作者の筆致と見事に合致し、新しい物語を我々に紡いでくれる。

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

- 広大な大地に生きる人々の生活が、本当にあったように感じられる、ゆったりとした物語。余すところなく描き切る画力が素晴らしいです。

教師 / 持丸宏司

選考員コメント・2次選考

- ここに描かれている感情は、今の日本には無いものだと思います。でもこの漫画があるから。よかったです。子供から大人まで、たくさんの人に読んでもらいたい。大人の方はきっと、「自分の子供に読ませたい」とも思うんじゃないかなあ。それから、本に挟まっている読者アンケートはがきが森薫さんお手製ののでいつもほっこりします。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田美智子

- 中央アジアを舞台にした独特の世界観、多彩な登場人物、変化のある物語。どれをとっても魅力的。巻数を重ねるごとに味が出ているのも良い。発展した日本が失ったものも描かれているように思う。

毎日新聞デジタル (まんたんウェブ副編集長) / 河村成浩

- 一年に一度の中央アジアへの旅を楽しみにしています。美しい絵と文化、ハラハラする展開が楽しみです。

会社員 / 金子幸恵

- すっごい描き込みだわと作品を読み始めて、描き込みとさることながらアミルさんの可愛さや中央アジアの人々の生活や考え方に引き込まれて読み続けていた作品なのですが、最新巻ではアミルの親族との戦いがおこってしまいます。今までの幸せただよう流れが変わったけどやっぱり引き込まれる。どうしてこの作者さんは生まれ育ったことのないはるか遠い国の人々の心理をここまでしっかりと描写できるのだろう…次が楽しみでなりません。

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- 豪華にして華麗、一方でチャーミングで生き活きとしたキャラクター。双子のライラとレイリの結婚式は、本当に楽しかった。

同人誌研究家・マンガ評論家 / 三崎尚人

- 人物から背景まで、細かい描写に、森薫の世界が広がる。中央アジアの生活風景が、手に取るようにわかるのがすごい。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 連続ノミネート中で、だいぶ熟してきた頃かかと思しますので。「どうしても今年」というわけではないですが、そうこうしているうちに機を逸するの何かなと思しますので。

ライター / 芝田隆広

- 「絵と話の両方が魅力的だ」と一言で片付けるのは簡単だけれど、この作品ほどそれを体現している作品はない。絵は時に台詞を一切必要としないほど雄弁に、キャラクターの暮らす風土や人物の心情の機微を描き、ストーリーは日常の小さな喜びから戦争の大きな悲しみまでを丁寧に紡いで、キャラクターたちの人生を体験させてくれる。じれったいほど初々しい恋も、狩ってさばいて料理して食べる命の営みも、すべてが魅力的！

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 結局迷いました。毎年一票の重みがあるなかで、そうだよっぴり最初に思った通りのものにしようとおもいました。そういえば焼き飯は自分で作ってみましたよ。平皿で蓋してさ。読み続けると自分は馬にも上手に乗れるし弓も達人級。最後には山羊にも乗れてしまう気になっています。

ThanksLab. マネージャー / 小林 智之

- 今回の候補作の中では、なんというか、`マンガ的貫禄、の大きさにこの作品に敵うものはないと感じます。『エマ』の時もそうでしたが、私たちが見たことも聞いたこともない19世紀中央アジアの村に、あっという間に連れ去ってくれる作者の描写力と妄想力の凄さたるや…。しかもそれが「ファンタジー」でないことに毎巻舌を巻くばかりです。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田 汗太

- 書店員の立場からすると、もう十分に売れている作品は商売としてすでに上手いといっているので、どうしてもマ이너な作品に表を入れてしまいたくなる。賞をとることによって道が開ける事を祈ってしまう。森薫さんは、マンガ読みにとっては神の如き作家さんだ。それにもう十分に売れていると思う。しかし、普段マンガを読むことのない人にとってみたら無名かもしれない。そんな人にマンガの凄さをしらしめるために、森さんにマンガ大賞を取ってほしい。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

- ノミネートを受け、再度1巻から読み直した。圧倒的な画力、登場人物の描き方、世界観、どれをとっても漫画作品として素晴らしいと感じた。遠い世界の文化も風習も違うところの話だけど、部族という小さなコミュニティーの中での家族やご近所との関係がどこか懐かしい。5巻の見どころは、おてんばな双子ちゃんの結婚式（祝宴）。豪華な衣装、食事、風習などもみていて楽しかったが、たまたま時期的に自分と重なっていたのもあり、嫁へ行くことへの心情の移り変わりに共感した。

主婦（元書店員）/ 赤坂真実

- エントリー常連でありながら大賞未獲得の作品であり個人的には、ここで大賞でないなら殿堂入りとして特別審査員に回っていただくかをしないと、選考規定にある八巻以内を満たすまで一次選考に残り続けるであろう作品ではないかと。惹きつけるストーリー・細密画のような絵・躍動感溢れる描写・愛すべきキャラクターとこれ以上ないくらいの作品なので、今回で堂々の受賞であって欲しい。

住職・ライター / 蟬丸P

- 毎巻、画力パワーに圧倒されています。それにひけをとらないストーリーも秀逸。6巻がでたばかりなのに、もう次が気になる！とっても続きが気になって仕方ないマンガって、最高のマンガの条件だと思います。

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- 1巻から6巻まで一気に読みしてみたが、紙の上に描かれてある全ての線が美しく、力強く、あまりの生命密度に目眩がした。この作者、こんなに刺繍とか描いて病気になるんじゃないだろうか？ ならないんだろうな。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

- 緻密で繊細に紡がれたストーリーと絵がまるでタペストリーのように。素晴らしい！取り扱っているテーマ・時代はややマニアックですが、そこに描き出される人間の姿には現代人にも訴えかけるものがあると思います。とにかく登場人物たち一人一人が人間くさくてキラキラしていて魅力的です。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- 雄大な自然の中で丁寧な暮らしを営む人々。自然や他の生物とともに暮らす毎日の中で、争うのは人間ばかり。そんな最新巻で、より「人として生きていくこと」を問いかけている気がします。動物や布、食べ物など画面のすべてを穴が開くまで見ていたい、そんな作品。

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

- 今の人間が読み取れなくなったものを当時の現地の人たちは聞いて触って感じてきたんでしょう。人間も自然の一部として生きている人たち。分かっているつもりでもそう思えない自分に対して、それを教えてくれたマンガです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

- ゆったりすすんでいた物語が新刊で急展開。目が離せません。圧巻の生活描写はあいかわらず素晴らしいのひとこと。

お菓子研究家 / 福田里香

- 対象を愛し抜く心と、「こう描きたい」を完璧に紙の上に再現できる画力、手を動かし続け妥協なく描き切る情熱。作者のそんな漫画家魂が、ページを開くたびにキラキラとこぼれ落ちるような作品。カルルクとアミル夫婦のピュアだけどそこはかとなくエロティックな感じのさじ加減も絶妙！

ライター / 門倉紫麻

- 一人一人のキャラクターが躍動感にあふれていて、「生きてる」感じが強く伝わってくる作品です。作品の時代・場所などの背景が馴染みの薄いところですが、そのことを超えて、登場人物それぞれが、普通に、悩みながら、あるいは必死に生きている、ということが私を作品世界に引き込んでくれます。また、細部の書き込みの緻密さが、作品によりリアリティーを与えています。

会社員 / 林礼春

- アミルのお兄ちゃんがカッコよすぎる！これからの展開に期待しています。

成田本店とわだ店 / 安田幸

- 以前のマンガ大賞でも投票したが絵も話も綺麗でやっぱり良い。

漫画全巻ドットコム / 安藤拓郎

- 衣、食、住が、私たちよりもっと直接的に生きることと結びついている広大な大地での生活。まず、細部まで描かれた、その日常の生活の輝きに驚かされる。その日常も、平穏で静かな日々が変わらず続くわけではない。突然押し寄せてくる戦火。この一大叙事詩は、マンガの地平をグングン切り開き続けている。

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

- 絵の力がものすごい。単に美しいのみならず、風が、匂いが、歌が、まざまざと感じられ、五感のすべてが揺さぶられる。すごい。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 森薫さんの作品はいつも美しい！生き生きと描かれる動物たち、繊細に表現される織物、透き通るばかりの大自然。緻密な絵柄も、作品の魅力を否が応でも高めてくれます。もちろん、ストーリーも引き込まれます。19世紀中央アジアに暮らす天真爛漫な花嫁アミル（20歳）と夫カルルク（12歳）をはじめ、乙嫁となる女性たちの生き様は、作品を華やかに彩ってくれます。その一方、せまりくる歴史の足音には、その後の流れを知るだけに、切なくなってしまう。せめてその幸せが少しでも続きますように、という祈るばかりです。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 外国の観光客に「なにかオススメはないか？」と尋ねられたら必ず薦める作品です。圧倒的な作者の想いが、念がこもったその描写と表現力。決して手を抜かない、一本一本の線にまで気持ちがかめられた本作、言葉がなくても通じる作品と思っていますし、実際に試し読みされた外国のお客様は必ず買っていきます。この作品が読めることは本当に幸せです。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

- 巻を進めても衰えない、むしろパワーアップし続ける「描きたいものへの愛」に脱帽しっぱなしです。「描き手の幸せ」と「読み手の幸せ」がここまで交差する漫画は稀有ではないでしょうか。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 今回あらためて読みなおしてみても、絵の濃密さと、それに勝るとも劣らない話の筋の素晴らしさ、この2点を共有している稀有な作品であることを再確認した。シルクロード好きとしては目の離せない作品です。

鳥取県立日野高校 / 野間勤

- どんどん引き込まれていきました。人気コミックなのが凄く納得です。続きが早く読みたいです。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

- なんて、20才すぎから30才すぎぐらいまでに結婚するのが、一般的だとされているのか。そもそも、恋愛結婚がなんとなくベターなカンジがするのがどうしてか。そういや、ネクタイをしていればなんで正装なのか、ご存知ですか？あくまでイギリスのある時期の紳士がそういうことをしていて、イギリス人は嘘をつかない、と当時言われていたから、ネクタイは、嘘をつきませんよー、という証拠なんですよ。だから、アレJはイギリス人のコスプレなんだと。……とまあ、私達はわりと、それほど大層な理由のない常識にしばられていまして。そこで、この「乙嫁語り」！家族がわっしわしと大人数で暮らし、当たり前のように借りをして、祭り際には大騒ぎしながら羊をさばいて、娘さんは頬を染めたりしながら布を縫う…！それを「当たり前」の顔をして、登場人物みんなが、飲み込んでいきます。その姿に、我々が生きられたかもしれない、人間の可能性をピンピンに感じてしまうのです。でもそれも、驚異的な、中央アジアと遊牧民への興味と愛情と、それを画面に実現する驚異的な、技術と熱量があったればこそ！！ある大ヒット、マンガ家さんのスタジオのモットーが「コストの高いものを提供する」と聞いて、あー、マスプロダクト、一つのものが大量に複製されて世の中に届けられる人として、これこそあるべき姿！と思っていたのですが、まさに、その実践型！！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

■ 大好きです。

大日本印刷 / 佐々木愛

■ アクションも日常描写もどちらも魅力的。どちらかというと日常の描写が好みだが、最新刊はアクションもカッコいいし、ドラマ的にアミルの実家との悶着に区切りがついて読み応えがあった。カルルクがだんだんとオトナになってきたので、次巻が楽しみである。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ 2013年に新刊が出ているイメージが、あまり無かったのですが、1月発売だったのですね。それを踏まえて、改めて読み直しましたが、やはり圧倒的な描き込み具合に、ただただ溜め息が出ます。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

■ 鉄板だし、他の人が絶賛するし、私が言わずともこの作品の素晴らしさは誰もが認めるところだから。そう判っていても、やはり最後は入れずにはおられませんでした。森薫という稀有な才能が生み出してくれたこの絵物語を、今味わえる至福と言ったら…！一瞬の切り取り方。世界の捉え方。他人の目を通じてそれらを見ているのに、我が事として捉えられるのはマンガという表現ならではと、この著者の表現力ならではと、しみじみ感じざるを得ません。白旗、です。この物語の最後まで読めたら、それはひとつの幸福だと思う。そう信じます。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ 仕事がたてこみすぎて、しんどくて、何もかも放り出したくなったとき、手にとって読み始めると、一瞬で別世界に連れて行ってくれる。弱気になったときに開けば、背中をポンと押してくれる。落ち込んだときに読み返せば、明日はきっといいことがあると信じさせてくれる。強くて凜とした、とてつもなくチャーミングな嫁たちと、ものすごく旨そうなごはんが次々登場。元気な友達にも、元気じゃない友達にも捧げたい。

馬場企画 / 島影真奈美

マンガ大賞2013 ノミネート作品

ヤングエース / KADOKAWA

「僕だけがいない街」三部けい

選考員コメント・1次選考

- 要素に還元するとぜんぜん魅力が伝わらないため、「とにかく読んでみて」しか言えないマンガの典型でした。早く続きが読みたい。

コミックナタリー編集長 / 唐木 元

- 犯人は誰なんだ？とこれからの展開がたのしみな作品。

自営業 / 小野ゆうこ

- よくある " マンガ家志望もの " かと思ったら、超能力でサスペンスでタイムスリップ!? ガンガン物語が加速し、緊張感が高まり、先が読めない。なんだ、これは……！ ぶちまけた伏線の数々をどう回収していくのか、続きが早く読みたくてたまらない。

馬場企画 / 島影真奈美

- 1巻から「この先、面白くなるんだろうな」と予想させる " 何か " がありましたが、その予感の通り2巻で自分の中で爆発しました。独特な視点と独特な描写で引き込まれます。変な表現かもですが、特に魅力的でもなんでもないキャラが多いことが逆に魅力的というか、作品を味を深くしている気がします。今、自分的に「次が一番読みたいマンガ」です。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

- 自分ではコントロールできない、時を遡る能力を持った主人公という設定は、下手をすると都合主義にしかならないが、読んでいてもそう感じない。それだけで作者の構成力のすごさは分かるが、さらに毎回単行本の最終話は次巻への引きになる急展開で終わるなど、読み始めると続きが気になって仕方がないミステリー漫画。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯 洋

- とにかく、次が早く読みたい！と思わせてくれる作品だと思いました。主人公の能力に寄って時間を巻き戻して、過去を変えて現実を修正する力。しかし、原因がわからないとそこを解決できないという万能ではない能力ということもあって、ハラハラしながら読んでしまいます。個性的といった主人公ではないのですが、なんとかしたいとの思いで過去と向き合う姿が面白いです。次の展開が気になって、次の巻の発売が待ち遠しい作品です。

デザイナー / 平沼寛史

- タイトルが地味なので気づくのが遅れたが、ページをめくらせる力は昨年随一とも言える、すごいヒキの作品。ちょっとゲームノベルっぽいダークな時間遡行テーマですが、シナリオが非常にうまい。少々古くさい感じの絵も、情感を盛り上げるのに一役買っている。3巻目が出た今が読み時だと申し上げておきます。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田汗太

- 単なるサスペンスではなく、そこに「愛」がある！よくあるタイムリープ×連続殺人解決もの・・・って設定だけ見ると思ってしまうけれど、読むと全然違っている。主人公や主人公の母、そして友人たちの心の動き。主人公の悟かかつて見落としていた愛に気づくという流れは、物語により一層深みを持たせて、どんどんキャラクターに愛着が湧いてきます。「僕だけがいない街」のタイトルが意味深。先が気になるー！！

会社員 / 西尾美里

- 一次選考にあたり、未読だったコミックスをまとめ読みしたところ、急浮上した超本格サスペンスマンガ。練りこまれた設定や展開に加えて、ページごと訴えかけてくるような強烈な臨場感と疾走感。小ネタに走らず、ごまかしもあざとさもない。正攻法で作中の世界観にグイグイと引きずり込む。さすがというほかない。もしかすると、近年のマンガが失っていた何かを取り戻してくれるかもしれないと期待してしまうほどのスケール感。マンガ好きはもちろん、マンガ嫌いにもぜひすすめたい。現3巻続刊。

(有) 馬場企画 / ライター・編集者 / 松浦達也

- 今、一級のサスペンス漫画。時を超えながら、次第に明らかになっていくストーリー。1巻読み終えた後、「つづきを————！」と悶絶することは多々ありますが、これもまた悶絶しながら地団駄踏んだ一作。(まあ中途半端に続きを知るくらいなら次巻を我慢するけども)

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 良作！

公務員 / 東くるみ

- これもいいですよー。つづきが気になる度でいえば、2013年マンガ大賞対象作品の中ではダントツかなあと。巻がすすむにつれ、私の思惑のななめ上をしてくれるサスペンス感がたまらんです。どうなるんですかね。てか、どう転がるのが正しい物語の収束なんでしょうか？ハッピーエンドともバッドエンドとも予想がつかないこの感じ。きーにーなーるー。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- この話、本当に先が読めない。少しSF的で、推理の要素も入った、だけど、少しずつ自分を変えることで、過ぎてきた哀しい時間をも変えようと奮闘する人間のお話。本当に、どうなっちゃうんだろう……。

啓文堂書店本部 / 山川美香

選考員コメント・2次選考

- あまり読まないジャンルなのでマンガ大賞のため、と読み始めましたがあっという間に3巻まで読んでしまいました。なんなんだろうこの面白さ。続きください！
成田本店とわだ店 / 安田幸
- 完結してから読むのでは遅すぎる！ 謎が明らかになる前の「今」だからこそ面白い本格サスペンス！
Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし
- ゲーム的な楽しみ方ができる漫画です。先が気になるように随所にギミックが散りばめられており何度も読み返し先を想像して、先を読んでみたらまた謎が増えて！を繰り返す漫画です。今季一番“早く先が知りたい”と思わせてくれる漫画です。
デザイナー / 佐藤優
- 現在と過去が錯綜するが、混乱することなくストーリー展開に引き込まれる。人を思いやることが伝わってきて温かさを感じる場面がいくつもある作品。
自営業 / 小野ゆうこ
- 練りこまれた設定や展開に加えて、ページごと訴えかけてくるような強烈な臨場感。小ネタに走らず、ごまかしもあざとさもないのに、どうにも目を離すことができない。作中の世界観にグイグイと引きずり込まれる。もしかすると、近年のマンガが失っていた何かを取り戻してくれるかもしれないと期待してしまうほどの圧倒的なスケール感。次巻が、そして結末がどうなるか楽しみで仕方がない。マンガ好き、マンガ嫌い、どちらにもぜひすすめたい、超本格サスペンスマンガ。
(有) 馬場企画 / ライター・編集者 / 松浦達也
- とにかく面白くて止まらない！テンポもよく、時系列も様々で、いい意味でついていけない。。。そんな裏切られる感じが最高です！老若男女問わずにはまれて熱くなる作品です
フリーアナウンサー / 松尾翠
- 一次選考の時からも自分的に激推ししている作品なのですが、本当に「続きが読みたい」という気持ちが非常に強くなる作品です。今も続きが読みたくて仕方がないです（笑）
超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳
- 今回の選考で唯一ドキドキした作品でした。1巻ではタイムトラベル系かと思いきや、そうでなく。3巻ではまるで小説のような描き方に思わず唸りました。こういう作品が目されるようになるのは嬉しいですね！4巻に期待高まります。
ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利
- SFとサスペンスの見事な融合。もう一度やりなおせばなんとかなるのかならないのか！？全く着地点が見えないだけに、つづきを心待ちにしている作品なんですよ。
オリオン書房ノルテ店 / 池本美和
- なんて説明したらいいのかわからないんだけど、とにかく読んでほしい。そんなマンガの勧め方はするものもされるもの、ごく親しい相手に限る。どちらかという、苦手なやりとり。でも、そう言わずにいられない作品に出会ってしまった。しがたない青年の物語かと思えば、超能力めいた力が登場し、ミステリー要素が加わり、さらには時空を超える。「こんな感じのマンガ」の枠に当てはめるのが難しく、説明するのが難しく、やっぱり「よくわからないんだけど」なんて言いながら誰かに勧めてる。勧めたくなる一冊です。
馬場企画 / 島影真奈美
- 主人公の特殊な力による過去と現在の関係が非常に上手で、とにかく次の話への含みというか期待のもたせ方が非常にうまく、この先の話がどうなるのか、気になってしょうがないです。この黒幕の犯人は誰？と思いつつ、ページをめくってしまいます。あと、お母さんのキャラクターがいいです！とにかく、「次の巻が早く読みたい！」と思わさせてくれる作品です。
デザイナー / 平沼 寛史

- マンガを読んで久々に衝撃受けました。ストーリーもとても面白いのですが、それだけではなくて読むこと自体が普通にマンガ読むのとは違う体験といふのかなんといふか。主人公のモノローグが多いからか、小説を読んでいるような気もするのですが、テンポがよくて確かにマンガなんです。小説とマンガの中間のような絵小説という感じ。練られた物語がこんな体験とともに進んでいくので、もう先が気になって気になって。こんなに続きが気になるマンガあまりないんじゃないと思います。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬 公将

- 今、最も先が気になる漫画。なにより各巻のひきがうますぎる。全力で薦めたいが、この待ちきれない思いを他の人にも味合わせるのは心苦しい。

会社員 / 齋藤 隼

- 先が全く分からないけど、ぐいぐい読み進めさせられてしまう。そして絵が丁寧で綺麗！

医師 / 岸本倫太郎

- 時間を転移するお話に最初は SF や超能力っぽい話なのか？と思ってたんですが、そんなことはないですね。3巻で話が急展開してホントの犯人を追いつめるのにどうなっちゃうの!? 犯人は誰なの??? 絶対すでにココまでの巻で出ている人にいるはずなのに〜。どうやって今の逆境から犯人に辿り着くのか、ドキドキしてます。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城しおり

- 1巻の最初はモノローグが多すぎて大丈夫かなと思ったら、全然展開が読めなくてすごい。どうなっちゃうのこれ。

大日本印刷 / 佐々木愛

- 以前の推薦文にも書いたのですが、この先どうになってしまうのだろう・・・と思わずつぶやいてしまう、まったく先が読めないストーリーが凄い。続きが読みたくて仕方がないです。

啓文堂書店本部 / 山川美香

- 歴史改変 SF? フードナイトのミステリ? 逃亡サスペンス? そのどれでもあり、どれでもない。この先どうなるのか、ただそれだけが気になる。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 毎巻ラストの次巻が気になる構成がうまい。1巻ごとに謎の提示と、ヒント、謎を解決しつつ新たな謎が生まれる・・・を繰り返し飽きさせない。良質のミステリー。とにかく次の巻が待ち遠しい。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯洋

- 同じ時間をやり直す、という設定を巧みに使った緻密なサスペンス。後悔を抱えて生きてきた人間がもう一度「生き直す」機会を得る、というドラマにもなっているところがお見事。ただ、警察やマスコミの描写が作劇の都合でリアリズムを少々犠牲にしている感があって、そこが惜しい。

朝日新聞記者 / 小原篤

- 続きが楽しみな一作。現時点では謎が増えるだけ増えているという感じですが、それがどう解明されるのか楽しみ。今後の展開を皆で見守りましょう。

リプロ池袋本店 コミック担当 / 小池由記

- ほんの数分後の未来が断片的に見えてしまう主人公という設定で、これだけ複雑に物語を交錯させる事が出来るのかという驚きは、レザボアドッグスとパルプフィクションの発表がハリウッドの脚本業界に与えた衝撃のようで、クライムサスペンスとしても一級の作品ではないかと。ややもすると入り組みすぎて読者を放置してしまうような情報量を丁寧に裁き、興味を惹きつつ謎を継続させていく上手さに脱帽です。

住職・ライター / 蟬丸 P

- シンプルに面白い！続きが気になる作品としてはダントツ押し。ちゃんと納得のいく終わり方できるのだろうか・・・それとも・・・早く続きが読みたい！

めがねっ娘教団 大司教 / 田中海渡

- 「そういう展開なんですか …」と思わず呟きたくなる【時が巻き戻る】がこのストーリーの重要なキーワードであるが、読み始めると【もう、巻き戻る事は出来ません …】

コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部 福岡営業所 / 阿部 大介

- このマンガは去年いろんな人に面白い面白いと聞いていたので、この機会にちゃんと読んで良かったです。どうなるか全然分かんない！新しいキャラクターがでてきたら全部犯人に見えてしまう！ハラハラどきどき読みました。これもこれからが気になる～

bar 図書室 店主 / 岡部愛 (のん)

- お、おもしろい……。

文筆業 / 海猫沢めろん

- とにかく読者をハラハラさせる、その技量の高さに圧倒された。まさに「ページをめくる手が止まらない」というヤツ。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 普段、ミステリーやサスペンスなどの小説はあまり読まない自分ですが、この漫画は読み始めたら止まりませんでした。タイムスリップものかぁなんて思いながら読み始めて数分後、入り込んでしまいました。いやいや先は気になるし、ミステリアスな部分は多いし、ドキドキするサスペンスな部分も程よくあるしで、バランスのとれた素晴らしい作品です。小説好きな人も満足出来るんじゃないでしょうか。タイトルの意味も含め、犯人や散りばめられた伏線が回収されていく今後の展開が楽しみでなりません。新刊出る度に前巻読み直しましょう！

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西 良昌

- ドキドキドキドキドキ…まるでサスペンス映画を見ているかのようなスピード感続きが気になって気になって仕方がありませんでもそんなに本屋さんで大きく並んでなかったり置いてなかったりなので、ここでいっちょ、面白さを知ってもらって新刊が手に入りやすくしたい笑

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- 過去に戻ってやり直す・・・だけではなく、過去の事件と、現在がリンクしていて、しっかりと組み立てられたサスペンス要素に引き込まれていく。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- これからの展開が今、一番気になっています！3巻の続きが早く読みたい！そんな飢餓感にも似た感覚を味わいたい人は早く読んで！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- ものすごく面白いのにもものすごく怖くて、続きが読みたいのに読みたくなかった。次第に真実が明らかになる一方で、新たな謎が深まっていく、上質なミステリ。真実は？犯人は？何より、なぜ罪のない少女（たち）が殺されなければならなかったのか？全てが明かされるまで、丁寧にじっくり描いてほしい作品。

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 3巻ラストで「ここで終わるとは殺生な！」と叫んでしまった。人間関係に的を絞ったミステリーなので、絵的な見せ場が作りにくいはずだが、これだけ面白く読ませるのは練り込んだネームのうまさ。（「冗談に決まってるべさ」「バカなの？」等々…）過去の未解決事件にタイムスリップを絡ませたストーリーはやや既視感がありますが、ダークで絶望的な雰囲気の中にも「人を信じる」というテーマがしっかり描かれているのは好感。タイトルは地味だが読めばジワジワ来ます。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田 汗太

- 「なんか、映画っぽいなー。」っていうのが第一印象。過去に時間が巻き戻り、身の回りに起きる事象を予防することができる特殊な才能を持つ主人公。過去と現在がリンクしているのが、同時進行で描かれている。きっといろんな伏線がはられているんだろうけど、どれがそうなのか、どう回収されるのかが全く分からない。とにかく先が気になる。

主婦 (元書店員) / 赤坂真実

- 以前、ある編集さんに聞いたお話で、物語にドラマを生まれる要素として、4つの要素を教えてくださいましたが、それは…成長する物語、恋愛の物語、復讐する物語、謎を解く物語、ということなのですが、この作品は謎を解く要素をベースに、母親と友達を殺した者に対する憎しみ（助けられなかった悔しさ）、その者たちへの愛、そしてそれを通じて成長する心、と様々な要素が絶妙に交じり、本当に読み応えがあるドラマが描かれ、どんどん惹き込まれました。次が楽しみ、早く読みたいという作品です。（「菜々子さん」も大好きです！）

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

- 考え抜かれた設定とストーリーで、どんどん引き込まれました。

公務員 / 東くるみ

- 今一番嵌ってるタイムトラベル(?) サスペンスです。うおおお！どうなるんすか！どうなるんすか！一体犯人は誰っ！？そして結末はどうなるんでしょう！？絵がとにかく上手くて漫画もサクサク読めてみなさんにお勧めしたい作品です。早く続きが読みたいです！

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

- 描くのが難しい、技量が必要とされるタイムリープ作品。本作では再上映(リバイバル)という能力名になっていますが、その能力を頼り、使いながらもそのせいで事件に巻き込まれたり苦悩して行く主人公の心情をとて上手く描き出していると思います。それぞれの時代に、その随所に散りばめられている伏線の量が半端なく、ちゃんと設計図が無いと描けない作品。読み応え十二分です！

バイイングマネージャー / 日吉雄

マンガ大賞2014 ノミネート作品

イブニング / 講談社

「さよならタマちゃん」武田一義

選考員コメント・1次選考

- 「闘病もの」であり「愛妻もの」でもあるが、主人公を取り巻く患者らの人間模様も、抑えた筆致ながら深く温かい。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 感情てんこもり！最後はあたたかな気持ちに。ほっこりした絵の優しい世界から織り成される、病気になる現実のくらしみ、厳しさ。でもその中でがんばる姿にたくさんたくさん元気をもらえます。奥さんとの愛情と絆に毎回涙…。毎日の、ふつうの生活の尊さを教えてくれる一冊です。

フリーアナウンサー / 松尾 翠

- 精巣腫瘍と診断された、当時、職業マンガ家アシスタントであったマンガ家さんによる実話マンガ。かわいらしい絵柄と明るくふるまう作者です。すいすい読めますが、次第にわき上がってくる生きていることのありがたさや、そばにいてくれる人のありがたさ。最後にやってくるカタルシスには、一緒になって泣けるはず。昨年で最も読んでよかったと思えた作品です。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 35歳で突然「精巣腫瘍」を宣告されたマンガ家アシスタントである筆者の、がん闘病体験マンガです。マンガ家ならではの人物描写は、ともすれば暗くなりがちな闘病ストーリーを読みやすくしてくれます。点滴の注射が下手な医者や、抗がん剤治療による吐き気との戦い、副作用でにおいが気になってしょうがないときは、同室の患者さんの食事どころか芳香剤やほのかな体臭まで厳しいこと、等々。体験した者にとってはいろいろ思い出してしまいちょっとつらいこと。ですが、読んだ方にはこの大変さがちょっとでも伝わるかと思います。奥さんや仕事仲間のやさしさ、同室の患者さんたちのユーモラスだけどどことなく寂しい胸の内、同じ病気の青年との出会い等々。患者仲間だけに、亡くなる方もいます。でも、それが現実だと気づかされます。とにかく、少しでも多くの方に手に取っていただきたいですし、特に患者の家族の方は、患者の気持ちが伝わるのではないかと思います。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- シンプルな絵とおちゃらけたタイトルに騙されるけれど、内容はハード。でも安易なお涙ちょうだい物ではない。確かに泣かされる場面は幾度もあるけれど、悲しいよりも嬉しい涙が多い、そんな闘病漫画です。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 精巣腫瘍（睾丸癌）に若くして掛かってしまった本作者である武田先生の闘病エッセイコミックスです。恐怖や葛藤など苦悩は沢山あったと思いますが、誰にでも読めるように良い意味でライトに闘病生活を描かれているので、読者は重くなりすぎず、読むことが出来ます。癌治療の大変さや、それに携わる人と人との関わりも上手く描いた作品です。

まんが王バイイングマネージャー / 日吉 雄

- 精巣ガンの転移が発覚した著者が、闘病を経てマンガ家を目指すエッセイマンガ。生と死の物語であり、夫婦の物語であり、仕事の物語でもある。たった1巻のコミックスに、じつに濃密な物語が詰まっている。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- ある日妻が発見してくれた自分の異変。そこから始まる闘病の日々を支えてくれたのもやはり妻。お互いを見つめあい助け合う夫婦のあたたかさには何度も泣かされました。命に真剣に向き合っている物語なので印象的なせりふが数々ありました。中でもドキとしたのは、主人公の武田さんに勤め先の漫画家の先生がかけた「迷惑かけたくない気持ちもわかりますけど、病気なんだからそれはあきらめませんか」という言葉。家族ではなくても本気で心配し、治ると信じているからこそ言える言葉だなと感銘を受け、またそのように大切に想われている武田さんの人柄の良さが伝わってきました。一年間の闘病生活で自分の命だけでなく周りの同じ病気と闘う人たちの命とも向き合った武田さんから、日々を大切に生きることをあらためて教えられた1冊でした。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 誰かと生きられるというのは、なんて凄いことだろう。今この身体と、この心を持って生きているということ。そして、あなたの傍に居ること。私は生きてきて何度マンガに救われたか判りませんが、これから先のいろんな時も、きっと多くのマンガに支えられていくだろうと、この作品を読んで思いました。声高に薦めたくはなくて、ひっそり、届く人に届くと良いなと思います。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

選考員コメント・2次選考

- 精巣腫瘍と診断された、当時、職業マンガ家アシスタントであったマンガ家さんによる実話マンガ。かわいらしい絵柄と明るくふるまう作者ですいすい読めますが、次第にわき上がってくる生きていくことのありがたさや、そばにいてくれる人のありがたさ。最後にやってくるカタルシスには、一緒になって泣けるはず。昨年で最も読んでよかったと思えた作品です。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- たくさんのかたに読んで欲しいと、心から思いました。絵が可愛いので、ヘビィな内容でも、ドキドキソワソワしないで、じっくり読めるのが良いです。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

- ここ1年で一番ボロ泣きしながら読みました。仕事でアレコレ考えているときにふと手に取って読んで思いっきり泣いて、読後に自分が今大きな病気でないことに改めて感謝して、毎日大事に生きたいな、と思い、これから大切な人が病気になるシチュエーションが増えてきた時に、どう構えるかを考えてみたりしました。誰にも理不尽に襲いかかってくる題材だけに、いろんな思いを人に抱かせるような気はしますが、作者の優しい視点をひとときでも共有して読めれば…。多くの人に勧めたいです。

WEB デザイナー / 河本 智芳

- 実体験の闘病入院生活を描いた漫画。画が可愛いらしいので、内容はつらくなる場面もあったけれど、落ち込むことはなかった。むしろ前を向いて、生きる力を存分にもらった、感じたコミックでした。周りの支えもそうだけれど、同じ病気で入院されている方々との励ましや別れ。自然と涙が溢れた。今自分自身が健康でいられるこの状況を本当にもっと大切にしたいと思う。この感動は忘れられないし、何かに打ち負けそうな時に読み返したい大切にしたい1冊。漫画を超えて、多くの人に手に取ってもらいたい1冊。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西 良昌

- 人は誰も周囲の人に支えられて生きている。支えるのは、その人の変わりはいないから。オンリーワンとはこういうことなんだろう。そう思わせてくれる。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 「闘病もの」であり「愛妻もの」でもあるが、主人公を取り巻く患者らの人間模様も、抑えた筆致ながら深く温かい。

朝日新聞記者 / 小原篤

- (一次投票にもこの作品を推挙したので、以下、一次投票時と同じ文面で失礼します。) ある日妻が発見してくれた自分の異変。そこから始まる闘病の日々を支えてくれたのもやはり妻。お互いを見つめあい助け合う夫婦のあたたかさには何度も泣かされました。命に真剣に向き合っている物語なので印象的なせりふが数々ありました。中でもドキッとしたのは、主人公の武田さんに勤め先の漫画家の先生がかけた「迷惑かけたくない気持ちもわかりますけれど、病気なんだからそれはあきらめませんか」という言葉。家族ではなくても本気で心配し、治ると信じているからこそ言える言葉だなと感銘を受け、またそのように大切に想われている武田さんの人柄の良さが伝わってきました。一年間の闘病生活で自分の命だけでなく周りの同じ病気と闘う人たちの命とも向き合った武田さんから、日々を大切に生きることをあらためて教えられる1冊でした。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 作者の優しさ。作者を取り巻く人達の優しさ。そしてなにより一所懸命な妻の優しさ。涙なしでは読めません！ガンという重いテーマなのにこれほど心温まる気持ちにさせられるとは・・・ほんとにいろんな人に薦めたい！泣くよって。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 命をかけて描いた、ということが伝わってくる。マンガとしても輝いているが、病とそれにまつわる諸々の苦しみの向こうにある希望を感じます。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野 智未

- 一次で自分が選んだ作品が候補に挙がったのははじめてです！折角ですので自信を持って一位で推薦させて頂きま
す。癌というものは、軽微なものでもやがては死へ繋がって行く恐ろし病気です。本作はセリフもさほど多くなく、
ライトなイラストで読み易いながらも、その闘いの壮絶さはずっしりと感じさせる作品です。ただ日々を何となく
過ごしてしまっているなぁという方には是非読んで欲しい一冊。

バイイングマネージャー / 日吉 雄

- これ読んで泣かない人がいるのか。自分の周囲にいる人の大切さを再認識させられる良作。自分としては、マンガ
大賞がなければ手に取ることもなかったであろう作品だけに、是非、私と同様この作品を知らない多くの人に知っ
てもらいたい。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田 淳

- 自分に降りかかった物事を伝える、ってのは、意外なほどに難しいです。その瞬間に味わったビビッドな感情は、
時を経るごとに忘れていってしまう一方で、逆に、事実を伝えてからじゃないと、その感情で共感を得ることはで
きないのに、事実、ある程度時間が経たないと、まだ状況が動いているので、「事実」にすらならない。歴史に
もならず、感情の吐露だけでもない、良質なルポって、力量のある人と、伝えるべき価値のある出来事と、タイ
ミングがすべて揃わないと生まれえない、奇跡的なものなんだなぁ、と思います。がんの発見、抗がん剤治療、それ
を取り巻く人々、それは本人、家族や同じがん患者だけでなく、とりまくお医者さんや看護師さん、職場の人々ま
で含めて、まるっと、伝えられます。特に、その核にある、抗がん剤治療、というものが、フィクションや取材
では絶対到達し得ない、実体験マンガでしかありえないディテールをもって伝えられたことは、歴史上なかったん
じゃないでしょうか。しかも、その伝え方そのものにも悩んだこともぜんぶ描かれていて、これこそ、作家さんが
ベテランの超大家であったとしたら、きっと滲み出してこない空気。それは、一見ほのぼのとした、あの表紙に凝
縮されている、と思います。作者ご本人はもとより、奥さんに、幸あらんことを。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 年を重ねるごとに、ノンフィクション物の漫画の方が印象に強く残る傾向だと思っています。その大半が重いテー
マなので読み終えた後は大概ブルーになるにも関わらず丁寧に丁寧に綴られていて今年一番”きれいな”漫画だっ
たとおもいます。

デザイナー / 佐藤 優

- 自分は、未婚ゆえにどこまで作品の良さを理解できていると言えない部分もあるかもしれませんが、夫婦の関係に
胸うたれました。加えて、それ以外の登場人物たちも非常に命を灯火を揺らして、グッときました。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

- この漫画を読んで以降、ひとつの日課ができた。読んだ方には想像がつかだろう。そう、風呂にはいる度に両のタ
マを確認するようになったのだ。元フランス代表プロフットボーラー、ティエリ・アンリは言っている。「キャ
プテン翼のおかげでサッカー選手になれた」、と。一冊の漫画が人生を変えた好例だ。まさか年齢 30 を数えたころ
に自身の生活に影響を与える作品が登場するとは露ほども思わなかった。漫画ってすごい。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- とりあえず、かな？

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

- たまたま手にとったら面白かった。こういうことがあるからマンガはおもしろい。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山敏樹

- 大声では言いたくない。声高になんてもってのほか。それでも、誰かを大事に想う人ならば。大事にしたい誰かが
いる人ならば。きっと、ここに描かれている気持ちも出来事も、決して他人事とは思えません。そういう人に届く
と良いなと願うので、小さな声で、でもしっかりと。この作品を推したいのです。日常のすごく大きな逃げよう
のない出来事を、それぞれなりにどうにかこうにか引き受けつつも、切迫感もありつつ、どこか抜けた感じで描くそ
の筆致は、重くも軽やかでもある気がします。あなたや、あなたの大事な人がつらい時に、良かったら、読んでみ
てください。おそらくは、あなたの気持ちに寄り添ってくれると思います。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ なんだろう、しみじみと良い。

公務員 / 東くるみ

■ これはコメントできません。漫画を読む人にも読まない人にも、ただただ、そっと目の前に差し出したい漫画です。

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

■ ずいぶん前に買ってあったのに気が重くてずっとページを開けなかったが、一度開いたら最後までおもしろく読ませる、とてもいいマンガだった。入院患者仲間など、周囲の人々がちゃんと「キャラ」として魅力的に作りこんでいるのもよかった。

ライター / 門倉紫麻

■ きっと想像を絶する苦しみがあったと思います。優しさを感じさせる絵やこのタイトルにも関わらず、その大変さが伝わってきました。あまり説明的な部分がなかったのもよかったです。

会社員 / 林礼春

■ 闘病記という感動と同情の器になりやすいジャンルを、ストレートに受け入れ認めて良いのかと迷う気持ちもあるけれど、そうした背景を消してもなお浮かび上がってくるさまざまな感慨がある。不幸を並べれば泣くだろうといった安易さはまるでなし。アシスタント暮らしの長い漫画家がガンに罹り、転移も見つかり治療に臨むストーリー。そこで自身の、不安に苛まれ副作用にのたうちまわる苦闘ぶりをさらけだし、同情だけでなく反発も買うような姿を見せた上で、自分が同じ境遇になったら果たして、どのように振る舞うことになるのだろうかと思案させる。自分と同じ病院に入っていた、治る人もいれば末期で死を待つばかりといった人もいたり、さまざま境遇にある患者たちを描くことによって、人それぞれに人生があり葛藤があって、それでも賢明に生きているんだと気づかせる。とても複雑で奥深い人間の世界を、漫画という技法を使い、親しみやすくてのぞき込みやすくしてみせた作品。漫画の持つとてつもない可能性を改めて感じさせてくれた。

書評家 / タニグチリウイチ

■ 読んでてどんどん泣いてしまった。頑張ってください。武田さん！応援しています。

カメラマン / 平沼久奈

■ (男なら) 誰にでも起こり得る状況で身につまされる内容で一気に読んだ。

漫画全巻ドットコム / 安藤拓郎

■ 思い切り泣いても大丈夫な時間と場所を選んで読んでください。通勤通学の電車の中とか、仕事の休憩中とかに読むと大惨事になります。

金海堂イオン隼人園分店 コミック担当 / 園田美智子

■ 35歳で突然「精巣腫瘍」を宣告されたマンガ家アシスタントである筆者の、がん闘病体験マンガです。マンガ家ならではの人物描写は、ともすれば暗くなりがちな闘病ストーリーを読みやすくしてくれます。点滴の注射が下手な医者や、抗がん剤治療による吐き気との戦い、副作用でにおいが気になってしょうがないときは同室の患者さんの食事どころか芳香剤やほのかな体臭まで厳しいこと、等々。体験した者にとってはいろいろ思い出してしまいちょっとつらいこと。ですが、読んだ方にはこの大変さがちょっとでも伝わるかと思います。奥さんや仕事仲間のやさしさ、同室の患者さんたちのユーモラスだけどどことなく寂しい胸の内、同じ病気の青年との出会い等々。患者仲間だけに、亡くなる方もいます。でも、それが世の中の現実だと気づかされます。少しでも多くの方に手に取っていただきたいと思います

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

■ 吾妻ひでお「アル中病棟」や卯月妙子「人間仮免中」もそうだが、徹底した自己の客観化ができていますので、どんな特異な状況でも納得して読める。自伝は近いと自分語りになり、遠いと偉人伝記のようになってしまい距離感が難しいが、この漫画はちょうど良い距離を保っている。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯洋

- 病気の厳しさを通して、日常のいとおしさや大切なひとといられるじかんの価値を改めて感じさせてくれます。ずっと続くような気がしてしまう『今』をたいせつに生きよう。そして人間ドッグにいこう & 連れて行こうと思います。

フリーアナウンサー / 松尾翠

- 闘病記。三十も半ばを過ぎてもう若くもない人間のひとりとして「病を得る」というのはなるほどこういうものかと、ひどく腑に落ちた漫画でした。他人事だが共感はできるという、ほどよい距離感と絵柄かと。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- 自身の闘病を赤裸々に、文字通り魂をこめて描いた作品。一見ほのぼのした作画も、読み進めるうちに「今、この絵で描く必然性」があることがわかり、「人間仮免中」に通じる鬼気迫るものを感じました。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- この作者が、実際に自分の身に起こった闘病生活を、マンガにしたこの作品。暗い話かなと思って最初読んだのですが、とても心温まる作品でした。病気になって、自分だけでなく、懸命に介護を続ける奥さんの気持ちもまた素晴らしいなと思います。職場の先生やスタッフさんが復帰できるまで、みんなで待っていていたり。病院で共に闘病生活を過ごした、病院仲間の人々の様子まで描いてあり。「ああ。そうだったのか」なんて思いながら読んでしまいました。病気になった人にしかわからない世界。でも、それが作者の視点ながら暖かく伝わってきました。

デザイナー / 平沼寛史

- 絵柄のかわいらしさによって、闘病記の持つ悲壮感ができるだけ軽減されており、まず物語に入り込みやすくなっている。そうやって読者の心をつかんでから、患者、医者、看護師、看病に来る人たちそれぞれのことを丁寧に描いている。抗癌剤の副作用とそれに戸惑う作者自身の様子が抑えたトーンで描かれていて、派手に描かれるよりもかえって心にズシンと来た。

鳥取県立日野高校 / 野間勤

マンガ大賞2014 ノミネート作品

週刊少年マガジン / 講談社

「七つの大罪」鈴木央

選考員コメント・1次選考

- 『七つの大罪』が一人また一人と集まってきていて、それぞれの過去などが今後も気になる。ファンタジー、冒険モノの王道的作品ですが、読み応えあり

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 鈴木央先生の超王道ファンタジー !!!!!!!!!!!!!!! こんな核融合的な素晴らしい組合せがあったなんて辛い。面白すぎて辛い。ディアンヌちゃん可愛すぎて辛い。ディアンヌちゃんの為なら死ねる。刊行ペースが早いので来年投票じゃ間に合わないと思い今回投票させていただきます。今年は5枠じゃ足りない。王道少年ファンタジー枠は7つの大罪ということでぜひ!

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

- 最初は少し「霧田気少年漫画」感がありましたが、巻を重ねる毎に魅力のあるキャラが増えストーリーも色々な角度から見えてきたので俄然面白くなってきました。

派遣 / 栗田さやか

- 少年マンガをずっと描いてきた著者の今までのエッセンスが集約された壮大なファンタジー！まさにTHE ☆少年漫画！読んでいて毎回ワクワクさせるのは本当にすごいこと！巻数も規定内なのでこれがきつとラストチャンス！もっと売れるべき！と思ったので1票入れました。

恵文社通販部 部長兼コミック総括 / 宮川元良

- まさに王道ファンタジー！ストーリーだけでなく、画も非常に上質！素晴らしい！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- 次々に読み進めたくなる怒涛の展開がたまりません。ファンタジー好きの方に、お薦めの一冊です。

教師 / 持丸宏司

選考員コメント・2次選考

- 王道とはまさしくこの漫画のことを指すのだろうか。国を脅かす罪を背負って消えた超人たちがいま、いったい何をしているのかといった問いかけから、意外な姿と真っ当な思考で日々を暮らしている大罪人たちの登場があって、世間で思われているのとは違った事情がそこにあるんだと感じさせ、ではいったい過去に何があって、これから何が起ころうとしているのかを想像させ、わくわくとさせる。実は自分は強いんだという願望を満たしてくれる設定もあれば、自分の強さのはるか上をいく存在がいるとう可能性に気づかせてくれる展開もあって、身を寄せれば突き放され、それでも食らいついていくことで物語を追っていきける。そんな先にいったいどんな物語が待っているのか。世界はどうなってしまうのか。まだまだ端緒に過ぎないストーリーが完結した時に浮かび上がる感慨が、今から楽しみだ。

書評家 / タニグチリウイチ

- 個性豊かなキャラクター、ワクワクするストーリー展開、ちりばめられた伏線、まさにTHE☆少年マンガ！といえる王道ファンタジー！少年マンガ誌4誌に連載を持った氏の実力とキャリアが生み出した一つの集大成だと思います。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- ずっとまんたいのノミネート作は少年漫画が弱くてそこが残念だったけど、ようやくいい作品が登場してうれしい。ト王道を最後まで貫いて、小学生の男の子が喜ぶような作品になってほしい。

大日本印刷 / 佐々木愛

- これぞ王道ファンタジー！！往年のファンタジーファンとしては、久しぶりの胸が熱くなる冒険譚です。国の行く末を憂えた若き王女エリザベスが、伝説の騎士団『七つの大罪』に助けを求めるところから物語は始まります。なぜか10年前から少年の容姿のままの騎士団長メリオダス、残飯処理係で言葉をしゃべる（そしてボケる）豚のホーク、そして個性的な騎士団仲間たち。テンポのいいバトルは見物です。気持ちのいいくらいの剣と魔法の世界は、純粹だったあの頃を思い起こさせてくれます。少年マンガではありますが、昔少年だった大人の方にもオススメの作品です！

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- まさにファンタジー漫画の王道！読み応え十分！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- うおー久々に来た正統派バトル少年マンガ！！

公務員 / 東くるみ

- ディアンヌちゃん押し！！（一次の頃から“ディアンヌちゃん”しか言ってない気がする…）もうとにかくディアンヌちゃん！！あまりにディアンヌちゃんが可愛いすぎて5巻（ディアンヌちゃん表紙）を間違って2冊買ってしまいましたよ、ディアンヌちゃん！！鈴木央先生の描かれる女の子の可愛さは言葉では表現できないですもうもう・・・！超王道ファンタジーです！

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

- 久しぶりに正統派ファンタジーで僕の心に突き刺さる作品が来ました！わくわくしながら続きを読めます。主人公たちの過去から現在にいたるその世界での細かい立ち位置が現時点で読者にはまだはっきりとわからないですが、それ以外の要素で話を引っ張るのでむしろその不明な部分が気になって先を知りたくなります。ディアンヌがかわいすぎて、僕に巨人属性がつきそうですw

メガマソ / 涼平

- ファンタジーノベルの正統派。作画がかわいらしすぎるという気もするが、これからのストーリー展開を期待させる内容。

弁護士（長島・大野・常松法律事務所） / 三村 量一

- 仲間が少しずつ増え、隠された秘密が明らかになっていく、なんとも言えない冒険活劇。子どもの頃に、アーサー王伝説や指輪物語みたいな英雄譚や物語を読んだ時のようにワクワクします。

教師 / 持丸宏司

- 超王道を全速力で走り続けているような、気持ちのいい少年漫画。主人公が最強で、いい奴で、でも謎を秘めている。哀しい恋愛があったり、初々しい恋愛があったり、報われなかった家族愛があったり…とドラマも盛りだくさん。少年漫画らしいお色気要素も好き！

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- ド正統派ファンタジー。だけどそこが良い！年齢・性別を問わずあらゆる人が楽しめる作品だと思います。宗教や神話ネタが沢山ちりばめられていて、分かる人は「おお！」となるのも良い。登場人物（特に女の子！）が素敵なのも良いですね。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- 濃いキャラクター陣の冒険譚というオーソドックスに徹した佳作。近年では珍しい「四大週刊少年漫画誌に連載作を持つ漫画家」の地力を感じさせる。

書評家・ライター / 福井健太

- 超ド直球王道ファンタジー。眠っていた中二病心にいとも簡単に火をつけてくれる作品。

会社員 / 齋藤 隼

- 読み進めるにつれてすっかりキャラが好きになってしまいました。こういう気持ちで少年マンガを読めるのは久しぶりかもしれません。ごちゃごちゃ言う気はまったくなくなる勢いとキャラ立ち。もっと評価されてほしい！そしてこれからが楽しみです。

WEB デザイナー / 河本 智芳

- 社会派マンガや現実を描く作品が多い昨今、久々に楽しみなファンタジーです！

会社員 / 金子幸恵

- 最初ドタバタアクションコメディーなのかと思ったら、結構深い話になってて、これからどうなっていくんでしょう。七つの大罪と呼ばれている彼らが、世界から犯罪者扱いされながらその実、王国の方が悪の非道を尽くしている。彼らはどう戦っていくのか。なぜ彼らが「七つの大罪」と呼ばれるようになったのか本当の理由はまだ出てきていませんが、それが徐々に明かされながらストーリーは進んでいくのでしょうか。外伝のパンの話が見事本編に複雑に絡んできていて、ちょこちょこ出てくる伏線が後にどう繋がってくるのか気になってます。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城 しおり

- 久しぶりにドキドキした、ファンタジー漫画！！テンポがサクサク進んで行くのと、作り込まれた世界観に入り込んでいける作品だと思います。ライジングインパクト好きだったけど、相変わらず女の子のえが可愛いなーと、(*´ω`*) こんな顔しながら読みいってしまいました。

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- これぞまさに王道！の少年マンガ。じょじょに謎が解けていくと同時に、別の謎が立ち上がって話が深まっていくところが最大の魅力だと思います。あと女の子がカワイイのがとても良いです。

啓文堂書店本部 / 山川美香

- さまざまな雑誌を渡り歩いてき、さまざまなジャンルを渡り歩いてきた人ですが、その経験が生かされている作品という印象を受けます。アクション、バトル、ラブコメ、ギャグ、それぞれぬかりなく入っており、しっかり作ってあると思います。週刊誌連載なので来年はノミネート対象外になることもあり、推しておきます。

ライター / 芝田隆広

- 面白いけどそこまでもないよねーと思いながら、6巻まで一気に読みました…。きっとこの後の巻も買い続ける気がします…。推奨コメント？読めば分かる！かな。

リポ池袋本店 コミック担当 / 小池由記

- くつろいで読める少年冒険マンガだと思う。変にギミック気味たところがなく、素直に楽しめる。このまま、まっすぐ展開していつてもらいたい作品。

自営業 / 小野ゆうこ

- なんだかんだ言ってこういう王道ともいえる冒険ファンタジー漫画を待ってました！キャラの立ち具合も然ることながらストーリーの謎も魅力的。そして何より、生き生きと楽しんで描かれているのがすごく伝わってくる作品ですね。

醤油製造業 / 小野塚 博之

- 個人的に鈴木央さん大好きです。マンガ賞とかそういうことでなく、鈴木さんの作品はずっと純粋な『エンターテインメント』なのです。少年マンガの楽しさがギュッとつまっているような作品がどんどん減っていて、小難しく描くことが作品のレベルに、と勘違いしている傾向はやみません。そんな中、ずっとぶれずに少年マンガの王道を描き続けている鈴木さんを読み続けていきたいなぁと思う作品でした。

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

- 初見でした。そしてあっという間に引き込まれた！ かわいいお姫様と守る少年（少年じゃないけど）。少年じゃない少年が秘める謎……。国を護るべき聖騎士内部での不穏な動き。そしてディアンヌかわいいですディアンヌ。続きが早く読みたい！

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

- 何度でも読み返したくなる面白さがある。謎の失速をせず、このままほどよくまとめて完結してほしい。

明文堂書店金沢野々市店1Fフロア長 / 木村俊介

マンガ大賞2014 ノミネート作品

イースト・プレス

「ひきだしにテラリウム」 九井諒子

選考員コメント・1次選考

- 久井先生の頭の中ってどうなっているんだろう？奇想天外、シュール、ギャグ、ロマンス、ファンタジー、、、ありとあらゆる種類の夢をいっぺんにみたような読後感。天才です。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野智未

- すでに発売されている竜にまつわる短編集 2 冊に引き続き今回もとにかく「面白い」の一言。今回はショートショート作品集ということで収録話数も相当多いのに、どれも話の切り口や設定が斬新なので読んでいて全く飽きがこない。九井先生の頭の中って一体どうなってるんだろう・・・天才！

醤油製造業 / 小野塚博之

- ショートショートがこんなにたくさんの世界を見せてくれるなんて…なんだか不思議な、それでもって何故か多幸感のあるお話しばかり。読み終わるのがもったいなくてゆっくりゆっくり読んだ作品です。また、読み終わったあとに表紙の絵の一点一点を見てもう最高です。今年出会ったマンガの中でダントツの一番です。

アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

- どこまでが本気でどこからがおちゃらけているのか、ほんとちっとも解らない。ちょっと著者を問い詰めたくなるほど、読んでいて楽しいんだけど、発想と想像力は奔放で、あまりにも自由すぎて、目眩がしてくる。いいなあ、人間って。そんな気持ちになります。元気がない時に、もしくはちょっと疲れたときなんか、適当に開いたページをつまみ食いでもするように読むのがおススメです。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- これは二週間に一回、web サイトに一本のショートストーリーを上げていく連載だったのですが、連載中この連載が一生続いてくれたら私のマンガ人生は幸せなものだなと思いながら読んでました。なんか考えさせられることを書いておきながら、間抜けさとかおちゃめさとかでさらりと何でもなかったように飄々と話をとじる作者の憎さが好きです。いろんなキャラクターが出てくるけど、どのキャラクターとも友達になりたい！

bar 図書室 店主 / 岡部 愛 (のん)

- 星新一を彷彿とさせる、ピリッとひねりが効いたショートショートが小気味良いです。ファンタジーなんだけど凄くリアルな人物描写だったり、逆にリアル世界の話しのようにいて実はものすごくファンタジーな設定だったり。ぼんやりしている時にフッと頭に浮かんでくる瑣末な妄想を描いたような、不思議なお話しに魅了されます。とにかく沢山の話が収録されているので、どれか一つは必ずビビっとくること間違いなし！

ホビー系会社勤務 / 畑中瀬路奈

- 短編の天才。漫画界のフレドリック・ブラウン

弁護士 (長島・大野・常松法律事務所) / 三村量一

- この 1 冊で何度も九井さんの才能におどろかされる。九井さんのテラリウムでは、魅力的なキャラクターがたくさん栽培されている。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- まさにタイトルのように、たくさんの引き出しがあるタンスから、さまざまなテラリウムの世界が飛び出してくるかのような短編集。ファンタジーからギャグ、SFまで、次に何が出てくるかわからないビックリ箱のような一冊でした。もっともっと読みたい！

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 最高級のショートショート。特に○、△、□を食べる話。フードまんがとして大傑作。

お菓子研究家 / 福田里香

選考員コメント・2次選考

- この短篇集の連載がwebで始まったのは2011年の夏頃でしたので、それから結構な年月が経ちましたがそれでも今このマンガ大賞2014で推したい作家さんです。この方の頭のなかには多岐にわたる興味による知識と発想力、心地の良いバランスのオタク的パロディ、笑いごとと皮肉のセンス、あと抜群の画力で短いお話でもすぐにマンガの中へ引き込んでくれる力があると思います。この短編集の一つに「ノベルダイブ」という言葉が出てくるが、まさにこの漫画をよむと「マンガダイブ」ができて、短い話ながら一つ一つじっくり味わえ楽しめると思います。

bar図書室 店主 / 岡部愛 (のん)

- どこを切っても不思議だが、それでも日常から地続きな感じがするのは作者の観察眼と発想の妙か。「ハルタ」での新連載も、一文無しのダンジョン探索パーティーがモンスターを料理して食うという一風変わった作品。こちらもぜひ。

往来堂書店 / 三木雄太

- 単純に「漫画って面白いよね」と思わせてくれる作品集。バラエティに富んでいて、作品によって絵のタッチが違うのもすごい。初心者からマニアまで楽しめるバラエティギフト漫画。星新一のショートショート、藤子・F・不二夫の短編集と並べて置いて、時々開いては何編かだけ読み返したい、そんな本です。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯洋

- 今回も九井先生のひきだしの多さには驚かされるばかりで文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞受賞も納得。どこかズレてたりすっとぼけてるけど、妙に人間味のあるキャラが作り出す独特のゆるーい雰囲気がとても好きです。中でもねずみ国とうさぎ国のお話はお気に入り。

醤油製造業 / 小野塚 博之

- 正直なところ、薦める相手を選んでしまうかもしれない。薦めたところで、もしかすると受け入れてもらえないかもしれない。…それでも。今判ってもらえなくても、何が何だか受け止めてもらえなくても、眺めてもらうだけでも、何かが伝わるなら。この作品を推す甲斐があるというものだと、悩んだ末に思ったので。私のマンガ大賞2014は、この作品です。人は、考えることができる。想像することができる。その力の、なんと楽しくも強いことだろう！ 見えないものも見ることができ、実在しないものまで紡ぎ出せるその力を。あなたにも、届けられたら嬉しいです。こんなマンガもあるんだよ！

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 「短編」よりももっと短い「ショートショート」の作品集でまとめた本作は、漫画の新しい可能性さえ感じました。この怒涛のアイデアと発想力、もっともっと読みたい！

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 多彩なイメージが詰まったカラフルな1冊。ショートストーリーを連ねるスタイルを通じて、著者のセンスが最大限に活かされている。

書評家・ライター / 福井健太

- 印象的なページが多くて、マンガなのに大量の付箋を貼ってしまった。「恋人カタログ」みたいな情緒あふれるSFが私は好きなんだと再確認させられたし、「代理裁判」も「Bバージョン」の脳内会議みたいで面白かったし、「遠き理想郷」はなんだか作者の創作過程を覗き見するような気分になった。「にゃんソロ」に収録されていた「神のみぞ知る」は1ページ追加されていてなんだかお得な気分になった。こんな短篇ばかりなのにそれぞれが味わい深い。

鳥取県立日野高校 / 野間勤

- この世界観が、とても好きです。あの翻訳機に興味津々です。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

- 「僕だけがない街」とどちらを3位に選ぶかものすごーく迷ったのですが、もう好みでこちらにしました。絵が好き、視点が好き、多くを語らない、描きすぎないのが好き。それこそひきだしにしまっておきたい宝物みたいな小さなお話が詰まった本だなあと感じます。万人に勧めたいとは思わないけど、自分と趣味を分かち合える友人には必ず勧めたいです。

WEB デザイナー / 河本 智芳

- 33編の短編で九井ワールドを見せつけた作品。着眼点と表現力で九井さんの才能を思い知ってください。そして、長編の九井作品も読んで欲しい。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- マンガの表現ってホントにいろんな可能性があるんだなあということが一冊で伝わるナイスな作品。

マンガ研究/ライター / 会田洋

- 過去2作もすばらしかったけど、今回のようなショートショートもすばらしい。絵も画力が高いため作品ごとに変化をつけるのもすごいとしかいいようがない。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- およそこの作者に描けないものなどないのではないかとすら思わせるすまじいイマジネーションあふれる全33編。単行本が出る度にすげーすげー言い過ぎてもう書くことがねーんですよ。今回も前回のすげーを大きく塗り替えてすげーだったので満を持しての初連載も超すげーのことでしょう。存在自体がセンスオブワンダー。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- どの短篇もアイロニカルで質が高い。バリエーションもあって作者の懐の深さが分かる。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

- 毎度毎度、九井諒子さんのアイデアの豊富さ、奥深さには感動させていただいてます。絵も大好き。もっともっと知られてほしい漫画家さん。

シンガーソングライター / 谷澤智文

- 一人の人間がこんなにも多彩な物語を描けるものかと感心しました。絵柄もお話の雰囲気も一話ごとに違うのがすごいです。ほんの数ページであっという間に心が引き込まれてしまいます。(これはネタバレになってしまうのでこまかく言えないのですが)最後まで読み終えた時のちょっとした仕掛けも楽しく、また最初に戻って読み返したくなる本でした。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 天才！天才！天才！！星新一のショートショートのように、時にシニカルに、ときにほんわか。毎度のことながら久井先生の多面性に驚かされます。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野 智未

- たった数ページの中に、壮大な物語だったり哲学だったりSFだったりギャグだったり、とあらゆる物語が描かれている事に驚きます。また、そのどれもが空想の物語なのに、どこか本当にあった話のようなリアリティがある。九井さんの想像力と、構成力に脱帽です。さらっと描いたようなギャグ顔があったかと思えば、西洋の古書に出てくるような緻密で繊細なタッチになったりと絵柄のバラエティの豊かさにも注目です。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- やっぱ、どうしても好き。すばらしいフード短編を内包した珠玉の短編集です。賞には1巻ものはどうしても不利なのですが、だからこそ。

お菓子研究家 / 福田里香

- 第1短編集では「うまいなあ」と思ったが、第2弾で「エモーショナルなものも描く人なのか！」とぐっときて、第3弾の本作ではもう驚くことはないかと思いきや、「それ描くの？そう描くの？」と何度も新鮮に驚かされた。まだまだ驚かせてくれそうで、底知れない感じがする。

ライター / 門倉紫麻

- 多彩な絵柄とシュールな作風が持ち味。ぜんぜんばらばらの作品たちですが、ところどころメタネタをいれてくるのも面白いです。ベタなんですけど「恋人カタログ」みたいな話が好きです。普遍的なテーマを今風の絵柄やさっぱりした作風で特徴的に見せる。。なんとなく、歌詞のテーマにもなりそう。

メガマン / 涼平

- 一つ一つの話に仕掛けと工夫が見られる秀逸な短篇集。一見、意味がわからない話にも、実はテーマが隠されていて、それが理解できた時、ちょっぴり嬉しくなったり。

会社員 / 齋藤 隼

マンガ大賞2014 ノミネート作品

ビッグコミックスピリッツ / 小学館

「重版出来！」 松田奈緒子

選考員コメント・1次選考

- 働くことに素直に一直線の主人公に勇気もらってます。出版業界だけでなく、すべてのお仕事に通じてると思います。読んだ後に、お仕事ががんばろーって思えるマンガです。

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- 作品を作る先生それを支える編集者編集者が営業へプレゼン営業が書店へ売り込み書店のプッシュでお客様が作品に出会うこの流れで携わっているみんなのマンガ。それぞれの考えや気持ち そして作品を世に届ける楽しさが詰まっていて自分もがんばろうと奮いたつ作品です。出来が「しゅったい」と読めるようになりました。それも嬉しい。

アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

- マンガ本だけではなく、この世の多くのものは色々な人がかかわって、色々な想いが結集された結果、世に出てきていると思います。こういったやり取りって結構社会のいたるところでやり取りされていると思うのですが、マンガではあまりスポットが当たることはなかったような気がします。このマンガはそこにスポット当てられていて、サラリーマンとして働く自分には、納得できる話ばかり。自分の働く世界と地続きの世界の話って気がします。会社の新人に実際に社会人として生きていく上で参考になるマンガを勧めるとしたら、どこか別の世界の話に感じるスーパーサラリーマンの話はお勧めしないけど、このマンガは真っ先にお勧めします。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬公将

- 業界の中にいる 1 人としてやっぱり無視できない訳で www 素直におもしろいです !!!

凸版印刷・ディレクター / 紺野慎一

- マンガはどうやって作られるのか？こんなに様々な人が関わっているのか！と思わされる作品。というか、印刷会社の人にまで光を当ててくれて…素晴らしいです！！w 次はどんな人が出てくるのだろう、と楽しみにしてまーす。

会社員 / 金子幸恵

- 書店員として、本に携わる人間として、これはおすすしめなければならぬと感じる作品。本を書く先生、そして編集担当者、そこから部数を決める出版社販売部、印刷会社、そして書店に情報を流す営業部、書籍を卸す取次、そして店頭で販売する書店員、店頭で本に出会ってくれるお客様。本に携わる人は多い。でもそれをチームとして描いてくれることに感動しました。このチームが成立しなければ本は世に出ないし、売れないし、読んでもらえないかもしれない。この漫画は売り手である書店員からすれば勇気とやる気と熱い思いを湧き起こさせてくれる漫画。まだまだ書店は死なない！

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

- 「マンガが売れる」というのは、漫画家さん、編集さん、営業さん、書店員さん、色んな人たちの力の結晶。面白いとおもったものをみんなに知ってもらいたいという、マンガ読みならわかる感覚がプロフェッショナルに研ぎ澄まされ、結集して、結果を生み出していく感じがたまらない！仕事人にエールを送る一冊です！ぐっとくる名言が所々織り込まれているのも、全体のバランスの中でテンポの良さに拍車をかけいて、グイグイ引き込まれる要素になっています！そのあたりもさすがだな、と思いました。

フリーアナウンサー / 松尾翠

- マンガに関わる一人の人間として、裏方の熱い思いを届けたい！

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- マンガに情熱を注いでいるのは、マンガ家だけじゃない。編集者から印刷所、書店員までバトンをつないで、僕らは今、泣いたり笑ったりしてる。マンガに関わる一般人たち、つまり、僕らにとってのヒーローたちの物語です。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 作家、編集、出版社営業、書店員、読者。本を愛する全ての人に読んで欲しい。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野智未

- まだ2巻ですけど、「タイムマシンにお願い！」は秀逸。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- 生み出す側と世に売り出す側、作品に携わる多種多様な人達の漫画はよくあるんですが、松田先生の独特のタッチや言葉に毎回ハッとさせられます。

バンドマン / TA-SHI

- 物語りで感動出来る全てのパーツが揃ったようなマンガ。

医師 / 岸本倫太郎

- 所謂業界モノ漫画ですが、漫画や仕事を愛する人には胸を熱くさせる物がある作品です。まるでスポ魂と言っても良いくらい。読後には不思議な爽快感がある作品です。

ホビー系会社勤務 / 畑中瀬路奈

- 売れたんじゃない、俺たちが売ったんだ！にシビれない書店員はいないでしょう。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション営業管理部 / 大山敏樹

- 燃えるお仕事マンガ。10代どころ『編集王』（土田世紀）を夢中になって読んでいたが、この作品にも同じ熱が通じていると思う。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 「マンガ」に関わる、一書店員として、ぜひ読んでいただきたい作品！

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 3作目をどれにするかは悩みましたがこれで、ちょっとロマンチックすぎるかなという気もしなくはないのですが……。

ライター / 芝田隆広

- 去年、打ち上げで関さんに進められていきなり買って、爆笑してました。そして、不覚にも電車の中でたんぼぼ鉄道のところで涙が出てしまいました。共感しちまったんだろうか、歳だろうか、いろいろダイレクトにきます。小熊がうちの新人にいないかなあ。編集者が作家にサインをせがみにくってのが毎年のマンガ大賞の裏側で実感している部分で自分にはツボでした。

ThanksLab. マネージャー / 小林 智之

- 仕事をするって、生きる事。命を燃やす面白さにじんじんします。しびれる名言もたくさん。

フリーアナウンサー / 松尾翠

- 元気いただけました！本を作るという職業だけの話にはとどまらないと思います。これからお仕事される方、今の仕事にちょっとため息でちゃってる方、読んだら元気になりますよ〜。

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- これはもう、書店員としては共感せざるをえない作品です。もちろん書店員でなくても、本を愛する人、自分の仕事に情熱を燃やす人、また、逆にそれほど仕事に熱心になれていない人の心にも響くマンガであると思います。心ちゃんが可愛くて、頑張れ！頑張れ！と応援したくなります。そしてこの本に重版がかかると思わずニヤリしてしまうので、たくさんの方が読んでくれますように！

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 出版業界はよくわかりませんが、作者が作ったものを売るという仕事は同じなもので、大変共感できました。お店での展開を携帯写真で送られてくるとこなんて、物凄い共感度。仕事に前向きになれるマンガです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

- やっぱ業界モノは、その業界に属していない者から見ると新鮮で興味深い。単純に続きが読みたい、ということもあり、一票。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

- マンガに情熱を注いでいるのは、マンガ家だけじゃない。編集者から印刷所、書店員までつないだバトンを僕らは今受け取って、泣いたり笑ったりしてる。マンガに関わる一般人たち、つまり、僕らにとってのヒーローの物語です。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 出版界の内幕を描いた秀作。悲喜こもごもの舞台裏に触れる意欲作。ただ、主人公の柔道はどこに行った？

弁護士 (長島・大野・常松法律事務所) / 三村 量一

- 昨今の出版業界マンガは漫画家主人公の作品が続いていましたが、久々の編集者 + 出版社マンガであり、てらいの無い王道かつ、人情世話物でもある。書店の棚の前で「なんでこれが売れてるのか分かんねーよ」との声に編集と書店員が「売れているのではない、売ったのだ！」と密やかに胸を張る様に、ベストセラーの陰にはこんなドラマがあったのか！と読み手に思わせるストーリー性の高さや、本の作成に関わる人々の人情の機微や心の綾を丹念に描いた良作。

住職・ライター / 蟬丸P

- 企業で働くのということは、制約やしごらみが多いのですが、その分一人では到底できないようなことができます。個人としてではなく、いろんな部署や同じ部署の先輩後輩と協業して会社として成果を出してゆきます。このマンガは企業で働き、チームとして成果を出す喜びがメインに描かれていて、サラリーマンの自分はとても共感できました。そうそう。こういう時ってたのしいんだよねーって。就職したけれども、なんかつまらないと感じている若手の方は会社を辞める前に、是非一度読んでみるのもよいかもかもしれません。普通にサラリーマンも結構楽しいことあるものですよ。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬 公将

マンガ大賞2014 ノミネート作品

となりのヤングジャンプ / 集英社

「ワンパンマン」 ONE / 村田雄介

選考員コメント・1次選考

- どんな敵でも一撃必殺という主人公の圧倒的強さとワンパターの展開を光らせる圧倒的作画が見事！ストーリーも動きだし、新たな敵が続々とあらわれるものの、主人公サイタマの前ではすべてが一撃である。清々しい！

弁護士（長島・大野・常松法律事務所） / 三村量一

- 「どんな強敵もワンパンで沈む」出オチみたいな強さですが、面白い。画力もストーリーもハイレベルなのに、どこか気楽に読めてしまうところが素敵です。

教師 / 持丸宏司

- 原作も作画も天才的。サイタマの最強っぷりが爽快です。とにかく面白い。ジェノス好きだ！

シンガー / 山野井千佳

- 今季一番、可能性を感じた作品。絵なんかどうでもよくなって、面白ければ漫画はそれで良い！と感じさせてくれるのがWEB漫画の特徴です。その面白いWEB漫画をガチの漫画家がマジで描いちゃうなんて面白いに決まっている！今後も、こういった流れができてくれたらもっと世の中に面白い漫画は増えてくれるはず！

デザイナー / 佐藤 優

- 圧倒的な強さの持ち主【サイタマ】。人々を守るヒーローとしての戦いと、とっても普通に庶民的な普段の生活。カッコよさと面白さのミルフィーユ！たまりません。

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

- どんなに強い敵でもワンパンチでやる気なさに敵を倒すハゲ、いや、サイタマ（ハゲマント）がカッコいい・・・のか？

成田本店とわだ店 / 安田 幸

- コメディタッチのヒーロー漫画として読むもよし、時々カッコいいギャグ漫画として読むもよし。主人公は見た目残念ですが、サブキャラは見た目良いキャラ多し。ただし残念なイケメンですが。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 村田さんの圧倒的な画力に惹かれて手にしたのですが、物語の軽そうに見えてその実色々と考えさせられるところのあるストーリーにすっかりハマりました。そして無免ライダーさんの男前さに惚れました（笑）ジャンプでの連載だったら間違いなく暗殺教室の人気を抜いていたと思います。

派遣 / 栗田さやか

選考員コメント・2次選考

- 【ワンパンマン】ってヒーローなんですよ！？何でしょう！？この全てが裏切られたかのような脱力感は でもこの脱力感が、読んでいる間に心地よさに変わってきます。それが【ワンパンマン】なのです。

コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部 福岡営業所 / 阿部 大介

- マンガってやっぱり面白い！っていう、至高の読書体験を約束してくれるのはこのマンガ。毎日のように多くの作品が生み出されているのに、一步横には、こんなに肥沃な手つかずの大地があったなんて！

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

- ド迫力バトルと脱力ギャグが楽しいのはもちろん、強さとは？ヒーローとは？と考えさせられるところに、深い魅力がある。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- ギャグのようでシリアス、と見せてのやはりギャグ漫画という塩梅が良い。

明文堂書店金沢野々市店1Fフロア長 / 木村俊介

- ふざけているようでどこか切ない。なんでだろう、何故かせつないマンガです。

カメラマン / 平沼久奈

- 4巻辺りまでは投票する気はなかったのですが、5巻が！5巻で俄然これからの展開が気になってしまいました。ワンパンマンが自ら憎まれ役になるセリフを吐く中のジェノスのモノローグが、とてもこれからを楽しみにさせてくれました。

bar 図書室 店主 / 岡部愛 (のん)

- 「ワンパンチ」をテーマに、ここまでよく物語を練り上げたと思う。ギャグとシリアスのバランスも良い。最初はコミカルー辺倒と思っていたら、巻数を重ねると違う顔を見せるのも良い。

毎日新聞デジタル (まんたんウェブ副編集長) / 河村成浩

- まさに画力の無駄遣い！だがそれがいい！

文筆業 / 海猫沢めるん

- ストーリーもおもしろいし絵もすばらしい。WEB版を読んだ人も楽しめるようになるのか、コミック化にあたり、加筆修正や構成を変更するなど、読者を意識したプロの仕事だなー、といつも感心しながら楽しく読んでます。

通販部 部長兼コミック総括 / 宮川 元良

- あまり今までにない設定で思わず笑ってしまいました。。これからどうなるんだ、サイタマ。。

会社員 / 金子幸恵

- …パクリか？と、思ってたタイトルでしたが、読んでみるとなんとという意外な流れ！強くなりすぎるのも考えものだねー。

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- 圧倒的な画力に圧倒されました。凄い。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 単純に笑わせてくれる明るさがあると思う。読後、カラっとした感じを得られることが少ないので貴重な作品。家族で楽しみたい。

自営業 / 小野うこ

- ヒーローもの。ひどく酷薄非情だが、同時にまぬけでもある、という有様が気になって読んでいます。ヒーローに声援を送る、生きた一般人がいる現代の街並みにいまヒーローを描くのなら、なるほどこのまぬけさも、あるいはヒーローの格付けシステムも、必要だよなあ、と。逆にこのまぬけさも、ありとあらゆる格付けも不要なら、誰も居ない廃墟で延々殺し合いを続ける『エグゾスカル零』もなりたつのだろうかと、勝手に思っている。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

- 王道少年漫画はすでに出尽くした。そう感じていたことを否定できない僕だったが、まだまだ可能性はあると教えてくれた作品。アイデア、キャラ設定、伏線の張り方、それぞれが秀逸で、さらに言えるのは、「無理を感じない」ということ。この先も楽しませていただけそう。

シンガーソングライター / 谷澤智文

- WEB漫画でも単行本でも、「面白いものは面白い！」。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- ほんとうにカッコイイとはこういうことさ……。大人も子供もドキドキ夢中になれるニューヒーロー。単なるギャグじゃありません！

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野 智未

- 三つめは約一週間悩みましたが、感覚的に「面白い！」と思うものをチョイスしました。基本ギャグなのですが、主人公以外はヒーロー漫画らしく恰好良くシリアスに戦っているのに主人公だけギャグのように終わってしまう。強すぎるってギャグなのか!?と自問自答しながら読んでおります。テンポの良さ、迫力のバトルシーンの王道ヒーローものですが、そこに主人公を入れてかき混ぜる事によってギャグが発生するという化学反応が新機軸の作品です。

パイニングマネージャー / 日吉 雄

- これぞ、男子まんがというおもしろさ。アメコミ「ウォッチメン」以降。メタ構造を持ったヒーローまんがの傑作。師匠と弟子に萌えますよね、やっぱり、どうしても。いい！

お菓子研究家 / 福田里香

- 王道のマンガと言われそうですが、だからといってこのパターンのヒーローがいたかと言われれば、いなかった！ どうみても最強のサイタマの、報われなさ・後ろ向きな感じ・自分勝手さ。どれをとってもヒーローじゃない！でも、カッコ悪いんだけど、かっこ良いと思ってしまったサイタマに、一票を投じてみたい！この先、サイタマが一番強いのか、サイタマを凌駕する敵が現れるのか、やっぱり気になってしまいます！

デザイナー / 平沼 寛史

- 強くなりすぎた男サイタマの哀愁（笑）

成田本店とわだ店 / 安田幸

- 見た目はゆるキャラ。強さはチート。脱力系ヒーロー（趣味でやってる）の誕生です！

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 何が新しいって、完璧にオチが見えているなかで”プロセス”を楽しむことが主の漫画であることです。展開の仕方も面白く WEB → 漫画化と民主的に「本当に面白いから漫画化」された漫画なので期待感というよりかは安心感と持って読める意味でも、新しい漫画です。

デザイナー / 佐藤優

- 怪人と命がけて戦う他のヒーローに対し、あっさり一撃で撃破する主人公。心に余裕があり過ぎて深刻な感じがしないけど、生活かけて真剣にヒーローしてところが好きです。一撃必殺の面白さを感じます。

教師 / 持丸宏司

- ワンパンでぶっ飛ばすまではただの前戯。…とはいえ web マンガならではのスピード感は初体験。恐ろしく贅沢な大ゴマ使いはドラゴンボールを越える！

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション営業管理部 / 大山敏樹

- 全てのヒーロー物へのアンチテーゼというか、やばいやられちゃうかもしれない、でもどうせ主人公が勝つんでしょ、あーでも負けそう！といったドキドキ感を全て奪った突確的な強すぎるヒーロー。すっきりしていて中毒性があります。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

- 正直出落ちマンガだと思ってました。すいません！基本ヒーローアクションコメディなんですが、以外と人情ものっぽいところもあったりして、老若男女問わず楽しめる作品だと思います。戦闘シーンかっこいいっすねーやっば。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- 主人公の圧倒的な力が持つ爽快感。これぞマンガ。単なるよくあるヒーロー物でもなく、凝った（ひねくれた？）ストーリー展開も楽しい。おすすめ。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

マンガ大賞2014 ノミネート作品

good! アフタヌーン / 講談社

「亜人」 桜井画門

選考員コメント・1次選考

- 最近、おっかない作品が増えたと思う。訳のわからないバケモノが襲ってきたり、絶えず血が飛び散ったり、学生同士が際限なく殺しあったりと、そんな物語がウケている。この話も、それに準じた物語なんだろうと漠然と思っていたら、どうも少し違うようだ。主人公は、いきなり自分が不死の『亜人』になってしまったと気づいた少年。どうやっても死なないということで、捕獲されれば研究材料にされるしかない逃亡を図る。・・・この先はネタバレになるので割愛するが、どうもこの主人公が、一筋縄ではいかないようだ。まだ3巻までしか刊行されておらず、物語はこれから徐々に全貌を見せていくのだろう。とにかく、一度表紙を見たら絶対に忘れないだろう、インパクトのある作品。あ、スプラッタの駄目な人にはお勧めしませんよ！（分かっていると思うけど）

啓文堂書店本部 / 山川美香

- 王道？邪道？そのどちらも含んで新しさと安定感を感じさせてくれる作品です！あえて似たジャンル問われるなら「寄生獣」以来の新しい衝撃作です。まだまだ話は始まったばかりなので、期待感が膨らむばかりです！

デザイナー / 佐藤 優

- 人間に交じって生活している死なない生物【亜人】。実験サンプルとしてとして人間から追われる少年永井圭。周りは敵だらけの中、少年は一体どこに辿り着くのか？迫りくる捕獲網。【亜人】に対する残虐な実験。次々と判明する新事実。目が離せません。

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

- 圧倒的面白さ！表紙のセンスの良さからまずは手に取ってしまいました。主人公の考えの変化、適応、成長。ドキドキしながら毎回読んでます。亜人という存在が今後どう明かされ、どう物語が進み、どう解決していくのか楽しみでなりません。こんな期待値高い作品に出会えた事に感謝！

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

- 1巻を読み終えたら、すぐ続きを買いに行き次々に読んでしまいました。再生することに抵抗なく一回死んでしまう主人公。もし殺されても殺されても、繰り返し生き返るとしたら、当たり前感覚なのかも…。

教師 / 持丸宏司

- SF。「外見は人そっくりだが正体は全く違う」モノが存在するよくあるパターンだ。王道ならではの安定したストーリー展開で、今後への期待も膨らむ。続きを読みたい。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田 淳

- 主人公が実はクズ、という比較的小さめの設定が巻を追うごとにじわじわ効いてきていて、作品の魅力を何倍にもブーストしてくれそうな予感がある。早く続きを読みたい。

コミックナタリー編集長 / 唐木 元

- 設定は今までのホラー系マンガにあるものに近いが、ストーリーの取り回しと黒い幽霊などの設定によって話がどのような方向に進むかわからないところにわくわくします。

メガゾン / 涼平

- 亜人って一体なんなのか、これからの展開が非常に楽しみ。主人公がいいヤツなのか悪いヤツなのかいまいちわからず、とりあえず性格は悪めと判断しました。

成田本店とわだ店 / 安田 幸

選考員コメント・2次選考

- 12巻くらいでぎゅっとまとめてくれたら名作になる予感。

漫画全巻ドットコム / 安藤拓郎

- 斬新な発想のエスパー（ミュータント）もの。画面描写も刺激的。サバイバルものとしても、見所あり。

弁護士（長島・大野・常松法律事務所） / 三村 量一

- 人に『最近面白い漫画ない?』と言われたら、しばらくはコレを進めておけばいいやと思いました。主人公の性格（性根?）が謎なところが意外とお気に入り。

リプロ池袋本店 コミック担当 / 小池由記

- おおもとの設定がすごい魅力あってイイですね。

マンガ研究/ライター / 会田洋

- 新人さんでここまでの漫画を描ける素晴らしさという純粋な思いで選びました。ストーリーの設定の着眼点は今までになく、ゾクゾクッとしました。読んだ瞬間の、すげえ漫画きた！感が半端なく面白かったです。ストーリー展開がゆっくりなのが気になりますが、じっくり味わって、楽しんで、期待して続巻を読み進んでいきたい作品。表紙のインパクトはノミネート作品の中では一番で、読む前からの期待を高めるというのもプラスですね。おすすめしたい作品。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西 良昌

- これは、また、来ましたね進撃の巨人、テラフォーマーズあたりが好きな人に大オススメな漫画怖い、けど、ひきこまれます亜人とはなんぞや!!!死んだらわかる

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- 「生き延びるために死ぬ」シーンのリアリズムと違和感、追いつ追われつの疾走感にゾクゾクさせられる。物語の今後がどうなるのか、誰と誰が敵対して、誰と誰が共闘するのか。そのなかで主人公はどのような立ち位置で自分と向き合い、社会のなかになに身の置きどころをつくるのか。「次はどうなるんだろう」とドキドキさせられる場面多数。

(有)馬場企画/ライター・編集者 / 松浦達也

- 「決して死なない人間」…ふーん。って感じで、最初は読む気もしなかった。しかし、読み始めると先が気になって、最新刊まで一気に読み。平凡に生きてきた主人公の人生が亜人だと分かって一転する…と思っていたのが3巻で「??」ってなって、これからどうなっていくのかわからない。

主婦（元書店員） / 赤坂真実

- 今回は、続きが気になる作品をメインに選んでみました。「死なない人」をめぐって、「ヒト」の本質が見えてくる作品だなーと。直接的なり間接的なりで、こういうのに人生狂わされたりするのっておそろしいことですね。疾走感あふれる展開でよみごたえあり。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- 人が人型なのに人でない、生活に溶け込み日々暮らす彼らが見つかった際、人はどのような行動をとるのか。この漫画の中で人がとった行動は「正義」なのか。今後の展開に期待。

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

- 最初、黒い人間が序盤で出てきたとき、「あれ、霊的なものとかそんな感じでお茶濁すのかな…」とか失礼なことを考えていましたが、読み進めていくと、ちゃんとその辺りの理屈付けやストーリーへの絡み方がはっきりしていて、ほんとにこういう読者の思惑より一歩先にいってくれる作品はそれだけですばらしいと思います！はやくつづきを…

メガマソ / 涼平

- 少しずつ解き明かされる亜人の謎。だが、その情報は、亜人の全体像を理解するには程遠い。主人公を含め、一筋縄ではいかない気配の登場人物たち。どんどん深くなっていく物語の世界。目が離せませんよ！

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

- 特殊能力が発現した途端、世界が反転して、正常人のほうが異常になるという恐怖。

医師 / 岸本倫太郎

- まだまだ謎も多く、続きが気になる作品です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- この1年、ジャケ買いは約半数が失敗です。亜人は初のジャケ買いそしての大当たりでした。まだ全然進んでないところがいい。強い黒い影が銃を構えることに言いようもないドキドキを感じます。

ThanksLab. マネージャー / 小林 智之

- インパクト大の1巻でした。3巻になっても謎だらけ。亜人って何？これからどうなるの？読んでて痛いところがいっぱいですが、とにかく面白い！！

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- 今回の選考作品の中で、一番続きが気になりました。「亜人」というタイトルから、人類によく似た何かと人類の戦い、みたいな話を予想して読み始めたんですが、死なない人とは。

会社員 / 林礼春

マンガ大賞2014 ノミネート作品

1月と7月

「足摺り水族館」panpanya

選考員コメント・1次選考

- ネオガロ系！？すごい新人があらわれた！シュルレアリスムと日本漫画の悪魔合体！誰かの夢の中をさまようような浮遊感とリアリズムが脳内をぐんにやりと曲げる！最高です！

文筆業 / 海猫沢めろん

- 読んでるうちに現実と空想が混在する不思議な世界観とその独特な画風に引き込まれ、まるで自分も異世界にトリップしたような感覚に。目に映るものの正体がかめずに好奇心と恐怖が入り混じってた幼少期の頃のあの何とも言えない感覚というかノスタルジーに襲われました。すごい。

醤油製造業 / 小野塚博之

- 2013年、出会えて一番嬉しかった漫画。奇妙で空想的にもかわらず、驚異的なリアリティを感じる。どこかへ、我々を連れて行ってくれる。

シンガーソングライター / 谷澤智文

- 読んだ直後の自分のtwitterから転載。番号はtweetした順番です。1)は1回目のtweet、計5回にわけてtweetしています。1)いや、ありきたりな言葉で申し訳ないですが、すごいものを読んできました。まさか40を越えて、これだけ新しいものが読める、今迄知らなかったものが読めるとは思いませんでした。2)ラフな感じで描かれたキャラクター、抑揚があるんだかないんだか読めないリアクション、一方で緻密に描かれた背景、その世界。子供の頃、知らないものに触れた瞬間、途惑いみたいなものを思い起こさせます。3)一番言ってはいけない表現のような気がしますが、わかりやすい表現として、その見た感じに「ねじ式」っぽさを感じる人がいるかもしれない。でもなんでしょうね、この作品、なんとなくかわいいんですよ。登場人物が。そこが違うと言うか…。4)「見捨てられたもの／忘れられたもの／新しすぎたもの」帯のアオリとなっているコメントですが、すごく共感できます。5)知らないものに触れた、なにか思い出せそうなそうでないようなものに触れた、疑問や不安、ドキドキ感、そんな様々なものが混じった不思議な感じ。そんな作品です。機会あればぜひ読んでください。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

選考員コメント・2次選考

- 「SF研究会」の頃から、「ASOVACE」や旧版の「足摺り水族館」まで同人誌を買っていて、リアルに友人にオススメしてきたので、そのまま投票します。

マンガ研究/ライター / 会田洋

- マンガ大賞にはこういうインディペンデントなものを推してほしいと思う。

文筆業 / 海猫沢めろん

- いつか私の友人が panpanya 氏の同人誌を指してこう称したことがある。「コミティアの白い恋人」と。なるほどこれは言い得て妙と思わず膝を叩いたものだ。北海道といえば白い恋人。コミティアといえば panpanya。小脇に抱えて歩けば帰りの国際展示場までの無駄に長いコンコースを歩くその足取りも、浮かんばかりに軽やかになるものだ。その反面、手に入れられなかったときの足取りたるや……。私、ASOVACE、2度買い逃してますからね。もう、それこそ両の足を引き摺る思い……。そう、そんなこんなで足摺り水族館。同人誌版足摺り水族館とASOVACE(一日に二冊つくるのが限界という、たまげた本)の合本である。作家 panpanya の初期作品集という位置づけになるだろうか。デビュー作にして初期作品集。はっきり言ってマニアックである。しかも唯一無二最強の個性を放っている。表紙からして、ちかごろでは古本屋でしかお目にかかれなようなビニル製のカバー。さらに直流通。何だこれ、である。何だこれ、が漫画好きの多くの支持を集めてここまで勝ち進んできた。これは是非ともこのまま大賞を掴んでほしい。最高に面白いことになる予感がする。

ヴィレッジヴァンガード ファボーレ店 店長 / 西尾 雄太

- なんとなくかわいい、愛らしい、ラフな感じで描かれたキャラクター、抑揚があるんだかないんだか読めないリアクション、一方で緻密に描かれた背景、その世界。子供の頃、知らないものに触れた瞬間、戸惑いみたいなものを思い起こさせます。「見捨てられたもの／忘れられたもの／新しすぎたもの」帯のアオリとなっているコメントですが、すごく共感できます。知らないものに触れた、なにか思い出せそうなそうでないようなものに触れた、疑問や不安、ドキドキ感、そんな様々なものが混じった不思議な感じ。そんな作品。良いモノに出会えました。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

- うたた寝の中、夢とわかってみている夢のような、とても印象に残る一作でした。こういうマンガにひょいっと出会えるって幸せですね。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 絶妙なアングラ感がたまらない。妄想と現実の間の気持ちいいところをついてきます。ディフォルメされた可愛いやつから超リアルなやつまで、作中には色々な魚が出てくるので魚好きとしては嬉しい限り。あと装丁が凝っていてこれまた素敵。

醤油製造業 / 小野塚 博之

- 「つけ義春っぽいなあ…」と最初は期待せず(失礼)読み始めましたが、「完全商店街」でおっ?と思い、「新しい世界」で背筋が伸び、「イノセントワールド」で白旗あげて降参しました。こういう作品に出会えるからマンガ大賞はやめられない。ただ私の感じた気持ちよさ、面白さは世代的なもの(あるいはマンガ経験値による)かもしれない、万人受けするとは到底思えないのですが…。本当はあまりお勧めしたくない、自分だけの宝物にしておきたい本です。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田 汗太

- 路地を、記憶を使って細部まで描こうとすればするほど、幻想的な雰囲気になってしまう。 わら半紙のような紙に印刷されているのも独特の雰囲気を生み出している。 そんな雰囲気重視の作品集。 深く考えずに気楽に楽しもう。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田 充

- このマンガを読んでも、心細いような、わくわくするような、ささやかな冒険をしてるような気になってきます。冒険の舞台は一見不思議で難解な世界のようにみえるのですが、どこか懐かしくて居心地よいので、とても落ち着くのです。癒しのSFといった感じで、静かに一人過ごす夜にうってつけの漫画です。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬 公将

- 絵のタッチが現実と非現実の区別を曖昧にし、まるで作者の脳内景色を散歩するような気分。疑ってかかるかのような言葉遊びにも頭をくすぐられ、そのうち女のこも可愛く見えるようになってきたらもう虜。

往来堂書店 / 三木雄太

- 古き良きサブカルのタッチを想起させるが、古く見えながらもタッチなどに新しさも。さぞかし面倒だったであろう装丁の細やかな気遣いなど、描き手と版元がこの作品に込めた愛情がひしひしと感じられる。オビにある「見捨てられたもの／忘れられたもの／新しすぎたもの」とはこのマンガ自体のことも感じられるし、読者である僕らに訴えかけたメッセージのようでもある。僕らはどこから来てどこに行くのか。

(有) 馬場企画 / ライター・編集者 / 松浦達也

- 久方ぶりにノスタルジックな気持ちにさせてくれる本に出会った。どこがいいの？と訊かれてどう答えていいのかわからないのだが良いんだなあ。この感じ。こんな気持ちになったのはつげ義春を読んだ以来かもしれない。いろんな人に薦めたいのだがまずはこの気持ち共有できそうな人から薦めてみよう。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 独創的なイマジネーションを昇華し、ビジュアルとテキストで読者を異空間へ誘うファンタジー集。造本に対するこだわりも嬉しい。

書評家・ライター / 福井健太

マンガ大賞2014 ノミネート作品

ハルタ / KADOKAWA

「坂本ですが？」 佐野菜見

選考員コメント・1次選考

- バカバカしい。ストーリーも何もなく、別に次話も楽しみではない。だがちょっとした時間の隙間に何も考えずに読むにはこんなマンガがイイ。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田 淳

- スタイリッシュ

tetote Hair Make Lounge / カ丸 真

- ただのオシャレ系ナンセンス作品と思い、何となく敬遠していたが、読んでみると意外、クールどころか「暑苦しい」感動エピソードが満載。オヤジさえも虜にするとは、何とクーレストな！ あの帯を作った編集者は優秀だなー。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田汗太

- ダサイのに何故か格好良い。スタイリッシュ(笑)な坂本君！

シンガー / 山野井千佳

- 度を越すカッコ良さは、至高のギャグになる！びっくりするほど売れても納得！まさにスタイリッシュ！な一冊。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- 坂本君のぶっ飛んだ行動はどこまで続くのか……息切れ間違いなしのギャグマンガ

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- テルマエロマエの流れに似たシュールすぎる笑い。この漫画が、ギャグ漫画として凄いついというわけではありません。切り口のあり方がギャグじゃないのにギャグに見えるのがこのギャグ漫画の凄さであり、面白さなんだと思います。

デザイナー / 佐藤 優

選考員コメント・2次選考

- お笑い芸人さんを見ていると、最近ちょっと息がつまりそうになることがあります。ネタ、だけではなくてお互いのエピソードを披露し合うような場所で、芸人さんが「あの先輩に世話になっている」「あの人はこんな面白いことがあって、すごくてきだ」みたいなことを耳にすることが少なくないです。考えて見れば、お笑って産業的にコンスタントにつくろうとすれば、そりゃもう、どんな仕事より高度なチームワークが必要なんだから、そうやって人間関係に気を使うのは、当然だと思うのです。が、それって、通常の社会人以上に、社会人じゃないですか？本来、笑いにふれたい！！って思っていて、もう、社会の常識からバッカーンと開放される、そういう快感が核にあると思うのですよ。そこへ行くと、この、「坂本ですが？」は、もう、徹頭徹尾、バカバカしい！！！！作者さんは自分が思いついちゃったから！というギャグを楽しんで紙面に叩きつけまくっているスガスガしさが溢れかえっていて、その作品に登場するカッコつけている坂本くんそのものも、誰かのためにカッコつけているわけではなく、自分がやりたいように行動しているだけ！人間関係を逆算して作った産業ギャグの正反対、人間の発想ってこんなにも自由なんだ！と、我々の事前予測の死角に入りまくる坂本くんたち！！ああ、自由！！友人のお母さんが坂本くんに惚れている回の一コマ一コマや、一箇所、かっこよさの演出のために、「暇」が「いとま」ってルビがわざわざふられていたりして、どんだけ、楽しんで作っているんだと。デトロイト・メタル・シティ以来の力強い爆笑を提供してくれると同時に、ああ！！自由！！という気分を味あわせてくれる、「自由マンガ」です！！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 読むはしから口真似がしたくてたまらなくてうずうずする。メガネ男子を見ると、「ねえ、あのセリフ言ってみて」と強要したくなる。ギャグでゲラゲラ笑うとか、その程度では済まない。頼まれてもいないのに頭の中で反芻し、覚えようとしてしまう。そこにある、夢中にあつてのめりこむ感がなんとも言えず、楽しく懐かしく、誰かと共有したくて、最初の一文に戻る。

馬場企画 / 島影真奈美

- 読み終わった後、ついスタイリッシュをしたくなる。

明文堂書店金沢野々市店1Fフロア長 / 木村俊介

- 芸の世界で「大真面目にやるから面白い」というが、このマンガはまさにその好例。オリジナリティーという意味でも抜群。こんな同級生がいたら、(いろいろな意味で)学校はさぞ楽しかったらあ……と思います。

毎日新聞デジタル(まんたんウェブ副編集長) / 河村成浩

- スタイリッシュ・・・新しいギャグの形か???

本と文具ツモリ / 津守晋祐

マンガ大賞非ノミネート作品

全作品名・選考員コメント掲載

「I (アイ)」いがらしみきお

- 神と信仰を巡る、あまりに重厚・深遠な物語に衝撃を受けた。襟図かずお『14歳』に匹敵する作品と思う。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

「青い花」志村貴子

- 志村さんにしか描けないマンガだと思う。誰にも似ていない、独特の空気感。コマの間。女の子どうしの微妙な関係を描いて秀逸。言葉で言い表しにくい、あいまいな気持ちをうまく表現している。どう決着がつくのかと思っていましたが、納得の終わり方でした。もう続きが読めないのかと思うと寂しい。

主婦 / 安田奈緒美

「アキンボー」下吉田本郷

- 【おじいさん】と【人魚】の組み合わせって見た事ありますか！？予め断っておきますが、決してファンタジーではございません人魚が出てきますが、かなり人間臭いですそんなヒューマンドラマ！？【アキンボ！】愛くるしいのです

コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部 福岡営業所 / 阿部大介

- 最初、人魚のアキちゃんが高校生になって、登場します。この娘が物凄く気が強い(笑)。負けず嫌いな娘です。2話あたりから、おじいさんとアキちゃんの出会いの話が始まりますが、赤ん坊のアキちゃんが、ぶちゃ可愛。愛しくてたまりません。そのうち言葉を覚えて話し始めますが、ますます可愛くて、たまりません。そのうち、おじいさんとの別れがくるんだろうな…と予感がしますが、続きが凄く気になります。目が離せません。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「愛を喰らえ!!」ルネッサンス吉田

- 同人誌時代から、狂おしいばかりの筆致でマンガを描き続けているルネッサンス吉田。2年に1冊のコミックスというマイペースだが、作品がまとまったときの破壊力は計り知れない。そうは言いつつも「エロティクス・エフ」掲載の本作では、以前からの「触るもの皆傷つける」ような鋭さはずいぶんと影を潜めているのだが、それが決して鈍らっているわけではない。作者の確かな成長が感じられる。

同人誌研究家・マンガ評論家 / 三崎尚人

- BLで活躍している作家が増えていますが、この人はもはやジャンルを超えてなにかとがりすぎた表現の先端にいる……。絶望的でささくれたビジュアルと病んだモノログ、だがしかし、それでも生きる！これぞ文学！

文筆業 / 海猫沢めろん

「あそびあい」新田章

- じゅうだい感満載。大切なものに優先順位を付けているだけ。恋とか愛とかわかんねー、歌:) はあ〜☆もったいないっ、もったいない、もったいなーい。なーんでも、もったいないっ、なーんでももったいないから、すっくいあげーたらっ、いちばん大切にきーらわーれるうー。な〜んでだろお、な〜んでだろ、わっかんないけど、謝るよおー。いちばん大切が大切だから、わっかんないけど謝るよお♪

音楽 / 後藤まりこ

「姉の結婚」西炯子

- 主人公であって姉のヨリの女子のこじらせ方が半端ない。もうそれは巻を重ねる毎にどんどんこじらせて…甥の一生のつぐみなんて可愛いくらいの頑固もの。でも、この不器用さ。煮え切れなさ。友人を応援するくらい身近な感じがヨリにはあって…恋愛は別として、ヨリの仕事に関する考え方とかがしっかりしているところがすごく魅力的です。見習わないと！

アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

- 地方、年齢、全てを超えて目の前に「現実の物語」を浮かび上がらせる作者の作品はどれも捨て難い。その中でも特に本作から（勝手に）大人のしたたかさとあきらめを読み取って、大人になってしまったことへの喜び、そしてちょっとした悲しみを享受してしまう。単純に長身・メガネ・コンプレックス持ちの男性が好物というのも……否定できないのだけど。

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

- ひとつひとつの描写や設定にはかなりの危うさがあり、しかも物語の収束に向けてその危険度は増しているように思えるのに、抜群のバランス感覚でそれを積み上げ、アラフォー女子に絶妙な球を投げ続ける西炯子に、ただただ感心し続ける他ない。

同人誌研究家・マンガ評論家 / 三崎尚人

「アノネ、」今日マチ子

- どこが現実、どこが夢。ふたつの間を行き来する、不思議なマンガ。少年と少女の純粹さと残酷さ。強さと弱さ。正気と狂気。希望と絶望。こういう表現方法があるのかと、目からウロコが落ちました。

主婦 / 安田奈緒美

「アホガール」ヒロユキ

- 週刊少年マガジン連載。こちらも苦戦が続くギャグ4コマにあって、非常に目立つ作品。作者は「ドージンワーク」などアニメ化作品を生み出すヒットメーカーだが、他と差別化が図られていて、中身がどんどん面白くなっている。残念系はライトノベルの流行分野だが、マンガにもその波が来て、フィットしている。

毎日新聞デジタル（まんたんウェブ副編集長） / 河村成浩

「甘々と稲妻」雨隠ギド

- 食いしん坊とかわいいもの好きにはたまらんマンガです！つむぎちゃんの可愛いこと！！外食やコンビニ弁当でできた体に、自炊、ちゃんと作ったごはんが沁みること。そして大事な人と一緒に食べることで、そのごはんがもっと美味しくなること大切なものを思い出します。ちょっと恋の香りもしつつ・・今後は楽しみです

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- イケメンメガネの教師のお父さんとそのかわいい娘と教え子のかわいい女子高生と3人で一生懸命つくっておいしく食べるゴハン！3人のくるくると変わる表情も素敵で読んでほっこりをお約束できる、誰かと一緒にゴハンを食べたくなる1冊。合間に描かれたレシピも楽しげで好き。

恵文社通販部 部長兼コミック総括 / 宮川元良

「あやかし古書庫と少女の魅宝」ドリヤス工場

- ジョジョとかインデックスのような異能バトルが水木しげるの絵柄で展開されたらどうなるだろうか。答えはここにあります。マンガは絵柄だけではないのは重々承知しているけれど、絵柄にも負っている部分が相当あるなということが再確認できるマンガでした。

鳥取県立日野高校 / 野間 勤

「アリスと蔵六」今井哲也

- 人智を超えた超能力を持った少女に、自らの人間性だけで向き合う蔵六が魅力的。ハードな設定も見え隠れして今後も楽しみな一作。

映像系ライター / 縣 丈弘

「アル中病棟 失踪日記2」吾妻ひでお

- アル中。その未知なる存在。しかし、彼らは僕らと同じものを大量に共有し、でも、絶対に理解できない気持ちを抱えて生きている、しかも、同じ街で。ひょっとしたら、いやというか確実に、わたしはアル中の人と知らずに会話したり、すれ違ったりしているのでしょうか。普通に会話していた人が、もしかしたら飲むつもりがなかった缶ビールを買ってしまって、それを路上に並べて数時間無言の格闘をしていた人かもしれないのです。

そんなアルコール依存症を、きれいごと、お題目で切り抜ける人もいれば、「ココを出たら絶対に飲むからね！」と宣言している人もいる。そんな人が、セミ閉鎖空間に閉じ込められて、同室の人間のセコさに腹を立てていたり、ある人とある人が理由なく仲良くなっていたり、もう、ごろり、と現実がそこに転がされています。そして、そんなごろりとした現実って、ほおっておくと、寂しくて、不安で、でも、開放感に満ち溢れてるんですよえ……！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 前作『失踪日記』をしのぐ出来ばえ。こうした病気語り系エッセイマンガは本当は難しいと思うのだが、作者の自意識と、観察する対象との距離の取り方が絶妙。可愛い絵と内容のミスマッチにくらくらする。吾妻の純文学マンガの到達点。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田汗太

- 巨匠がまさに身を削って丹念に紡いだ一冊。今年度のコミック界を代表する傑作だ。

書評家・ライター / 福井健太

- 漫画家、吾妻ひでおが過度の飲酒でアルコール依存症になり、あげくに放り込まれた「アル中病棟」での日々の綴った『失踪日記』の姉妹編。アルコール依存症患者として入院し、退院して、そしてこの漫画を書くことができた、というのがたいへんすばらしい。ゆきてかえしり物語。本人含め、アルコール依存症で入院している患者のみみなさまが、それぞれ奇矯で憎みきれない、望んでもなれないろくでなしとして描かれており（ひでえw）やたらキャラが立っているので読んでいてひじょうに楽しい。アルコール依存症あるいは、依存症に関する啓蒙書としても秀逸なのではないかしら。アルコール依存症の夫に悩まされた西原理恵子との対談『実録！ あるこーる白書』と一緒に読むと破壊力倍増。

ソフトウェアエンジニア / 第3齋藤

- 独り街を歩く時のよるべなさ、「地に足がついてない」感じの怖さが、たまらない。

朝日新聞記者 / 小原 篤

「暗殺教室」松井優征

- 一年目に比べかなり認知はあがりましたが……。まだまだこの作品が正統な評価を受けているとは思われません。もっと伸びる！！こんなびっくりするような設定のマンガ見たこと無い……。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- だんだんほのぼのとした話が増えてきたが落ちをどういう方向にもっていくのが楽しみ。

メガマン / 涼平

- 2013年はやっぱコレでいいんじゃないでしょうか？「暗殺」という不穏な言葉を前面に押し出しつつも、楽しく学園ドラマをやっている点に好感。また実際のケンカだのイジメだの、もちろん本当の暗殺だのに使えるテクニクなどはいっさい紹介していないバランス感覚も良い。

ライター / 芝田隆広

- でいすいず、MA・N・GA ☆ノーストレスで読めます。6巻までこのペース、すごいな、と思いますです。

音楽 / 後藤まりこ

- こんな設定は現実的には起こりえない。ってかこの無敵の先生は一体何者だ？そもそも生物なのか？マンガって、こういう非現実的な設定が出来るところもイイ。さて、事実上無敵の相手をどうやって倒すか。今後の展開に期待。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田 淳

- 少年ジャンプらしい。読後感が爽やか。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

「E から弾きな。」佐々木拓丸

- ロックを丁寧に語るという、ロックでないようでロックなおはなし。久しぶりに「楽器やりたい！」と思わせてくれる漫画でした。淡々とした語り口ながらも、よく練りこんであるアングルと台詞回しがたまりません。嘔めば嘔むほど味が染み出てくる、そんな不思議なロックバンド漫画。ロックに生きたいね！

めがねっ娘教団 大司教 / 田中海渡

「苺ましまろ」ばらスィー

- 久々に出た新刊は、以前にも増して面白かったです。2013 年中で、一番笑い過ぎて死ぬかと思わされた作品だと思うのです。もうちょっと発表のペースが早かったら……嬉しいけど笑い殺されてしまってるかもな……と思います。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

「いつかティファニーで朝食を」マキヒロチ

- このマンガを一言で表すと「妙齢の女性は悩みがいっぱいけど、とりあえずメシ食って、満たされてがんばるかと思うマンガ」です。私もね、三十路ウェイに二、三歩足をツッコミ、このままでいいのかな〜とか、幸せって何だろ♪みたく考えるわけです。でも、腹が減っては戦は出来ず。ポジティブにもなれず、ひもじさとあいまって惨めな気持ちになるばかり。ここらで基本の衣食住の大切さを押さえ、前向きにすすみたい！と登場人物の女性達と一緒に頑張ろうと思うのです。

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- 作中の美味しそうなお飯もさることながら、迷いながらも前向きな主人公の姿に、読後感がとても爽快になる素敵な作品です。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

- 様々なシーンでとくべつな朝ご飯を食べに行くおされで美味しいお店もでて参考にもなるかな。と読み始めてみたら2巻でぼろ泣きしました。テーマは朝食だけど、そこには夜通し働いた後の朝食、家族との朝食、いろんなドラマがあり恋愛、結婚、仕事、で悩む人にささります。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「IPPO」えすとえむ

- 職人マンガと呼ばれるジャンルの中で「靴」に特化したマンガに初めて出会えました。製作風景なども静かに、そしていいねに描かれており、靴をつくる人と靴を欲する人、それぞれの気持ちも浮かび上がる。早く続きが読みたい一作。

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

- すごく真面目に世界で一足だけの靴を作ってくれるお店の話。靴だけでなく色んな物を大事に選んで扱うことで自分の人生はかなり豊かになりそうだなあ

カメラマン / 平沼久奈

「いとしのムーコ」みずしな孝之

- 犬って、こんな感じなんだろうなー。お互いの意図は微妙にずれているんだけど、お互いがお互いを大切に思っているから、大筋では当たっていて、意思の疎通が来ている。飼い主と犬の理想形のひとつと思います。

医師 / 岸本倫太郎

- ムーコの可愛らしさは今年も鉄板！何回読んでも、何度でも楽しめるムーコワールド。ムーコの毎日はずっと楽しくて、わたしもマンガの中に入りたくらいです。老若男女がみんなでほっこりできる、こういうマンガの存在は貴重だな～と思います

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- おはなツツヤヤー!!! どんなに疲れていてもムーコを読むと元気になる、そんな栄養ドリンクみたいな存在です。人生で一度でも柴犬に触れたことがある人だったら、一気にムーコのとりこになるはず！

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

「いねむり先生」伊集院静／能條純一

- 「いねむり先生」との邂逅を経て、大きな悲しみを経験した主人公が次第に立ち直ってゆく様子を描いた作品。淡々と描かれる日常が非常に臨場感があって大好きです！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

「イノサン」坂本眞一

- 「孤高の人」から気になっていた坂本眞一先生ですが、ちゃんと読むのは今回が初めてです。緻密な超美麗絵（デジタル作画と知ってびっくり…）に、アクの強いキャラクターたち、そして変態性とイノセントが表裏一体となった世界観にやられました。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 圧倒的な絵柄で描かれる、当時の人々の貧しい暮らし・残酷な拷問や処刑・登場人物の精神世界の表象がすばらしすぎる。主人公シャルルが、ただの臆病な少年から、繊細さゆえに傷つきながらも真実を見据えようとする青年に成長し始めて、ルイ 16 世の処刑にどのように繋がってゆくのか楽しみ。

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 力強さと緻密さが共存した、インパクトのある作品。艶めかしさもあって良かったです。

ライター / 芝田隆広

- 汚いものも美しいものも描く画力にただただ圧倒される。

成田本店とわだ店 / 安田 幸

「異法人」山本松季

- 続きが気になっちゃって、ページをめくる手を止めることができませんでした。バビロニアの王ハンムラビが 21 世紀にタイムスリップしちゃうのですが、しょっぱな、物凄くピリっとした雰囲気、うわ、これどうなっちゃうんだらう…と思って読み続けると、途中やわらかな雰囲気になって、ふむふむと読み続けると、ズガーーーン!!! と落とされます！えええ!? これ、続きどうなるの?????? と気になる 1 冊。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「インベスター Z」三田紀房

- 今一番為になるマンガオブザイヤー。ちょいちょい挟まれる実際の企業情報が投資に秀逸で役に立つ。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

- モーニング連載。投資をテーマにした作品で、根本はドラゴン桜に通じるのだが、最大の違いは、テーマがきちんと大人向けになっているところ。歴史的には、日本人が投資を活用していたのは事実。社会的ブームを起こす可能性もあるかも……しれません。まあ面白いです。

毎日新聞デジタル（まんたんウェブ副編集長） / 河村成浩

「WOMBS」白井弓子

- 設定がどんどん明らかになってきて、同時に謎も増え、ますます面白い！

公務員 / 東くるみ

「ウィッチクラフトワークス」水薙竜

- good アフタヌーン創刊の時から掲載され、ずっと応援してきた作品です！丁度アニメ化もされて今勢いに乗ってマンガ大賞受賞の時が…！学園魔法バトルファンタジーですが、才色兼備で寡黙なヒロイン火々里さんと主人公多華宮君の友達以上恋人未満な何とも言えない関係も楽しめるお薦めの作品！水薙竜先生の人物・背景などの繊細なイラストも世界観を作るのに相乗効果も生んでおります。

まんが王バイイングマネージャー / 日吉雄

「嘘解きレトリック」都戸利津

- 昭和の初期が舞台のお話。嘘がわかってしまう女の子が探偵事務所で助手として働き出すことで事件を解決したり、その中でわかってしまう事への葛藤がおもしろいです。探偵物ですが、推理をするという所より、人として解決していく話は非常に好感を持てます。昭和のレトロな雰囲気が好きの方にはおススメのマンガです！

デザイナー / 平沼寛史

「雨天決行」重本ハジメ

- 伝奇少年マンガの王道的展開に、重本さんの独特の世界観が絡み合うとここまでエンターテインメント性が高まるのかなあと。鈴木小波さんの『セカイのミカタ』を初めて読んだ時と同じような衝撃が走りました。単行本にはなかった前作『鬼さんコチラ』の世界観がちらほら見え隠れしているのが気になって仕方ないです（笑）

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

「ULTRAMAN」清水栄一／下口智裕

- ヒーローものって好きなのですが、あんなに頑張って「世界は救われた！ありがとう○○！！」ってなっても、次の年には新しい奴らがせめてきて大変だなと、小さい頃に思っていました。さめてたけど、その頃から現実との矛盾をちょっと感じてました。私たちは1年間しかヒーロー達の活躍を知らない。でもその後もヒーロー達の人生は続く。その続きを描いたマンガです。ハヤタ隊員の「私がウルトラマンだ。」にすごい萌えた。もっとおじさんが活躍してくれたらええんに。とおもう、二次元おじさまスキーです。なんとか！なんとかできませんかね！！

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

「うどんの国の金色毛鞠」篠丸のどか

- 実家の高松に戻った主人公が、人間に化けた一匹のたぬきの子とも一緒に暮らす話。ストーリーが面白く、ほわっとする展開が好きです。幅広い人が読んでも好まれる作品では無いかと思います。自分の生まれ故郷でもたぬきが山からおりてきてたなーと思い出しました。ほっこり話が好きな人にはおススメです！

デザイナー / 平沼寛史

- 香川といえば、うどんと（妖怪）狸。地元感覚がいっぱいの癒し系マンガ。

弁護士（長島・大野・常松法律事務所） / 三村量一

「エイス」伊図透

- 読み始め、なんて退屈な作品なんだ！と思い一旦本を閉じた。再度読み直すと、平凡な白アリ駆除を生業とし盗聴を趣味とする主人公が、怪しい組織と出会い、事件にまきこまれ、どんどんと話が進んでいく。とても繊細とは言えない味のある絵柄ではあるが、その世界観にひきこまれ、2巻まで一気に読みしてしまった。続きが気になる作品。

主婦（元書店員） / 赤坂真実

「江戸モアゼル」キリエ

- なんだこれ……(°ロ° ; ってなってからの、まさかのラブストーリー路線。そしてまさかの最期ほろりとするいい話。素晴らしく良くまとまった漫画でした。ギャグ？ラブコメ？感動的？エロティズム？(えっ?)全部つまっています。あと、江戸愛半端ないです。江戸愛溢れすぎ。こんな素晴らしい漫画を描いてくれた作者さんが愛しいです。本当に良い漫画をありがとうございました。ドラマ化したら絶対面白いと思います。

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

「エバタのロック」室井 大資

- 今一番終わってかなしいマンガオブザイヤー。ちょいちょい挟まれる痛い音楽業界の人ネタが非常に秀逸。いるいるw

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「エリア 51」久正人

- 同作者の「ノブナガン」がアニメ化で話題になっているが、展開の熱さは現状こちらが上。特殊な世界観と作者独特の画風がマッチしている。

会社員 / 齋藤 隼

- 魍魎魍魎たちが丁々発止で繰り広げる異形のハードボイルドだが、連載開始からまかれ続けたピースが巻を追うごとに化学反応を起こして凄まじい盛り上がり。今これを読まずして何を読む。

映像系ライター / 縣 丈弘

「王国の子」びっけ

- なんと、影武者が中心となるお話です。ある国に息づく残酷なしきたり。王位継承権を持つものには、影武者が必ずつく。主人公のロバートは、芝居小屋で役者をしていたところ声をかけられ、王位継承権をもつ女王・エリザベスの影武者として生きていくことになります。ロバートの主人であるエリザベスの箱入りながらの純粋さが、宮廷内の様々な思惑が交差し、欲望に満ちた人間関係にさらされていくことで、己の身の処し方とともに成長していく過程も気になります。影武者が主人の命を狙ったり、謀略、驕り、犠牲、様々な人間の思惑が交差し、欲望に満ちた人間関係に、手に汗握り、今後の展開が待ち遠しいです。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城 しおり

「王様達のヴァイキング」さだやす

- パソコンやハッキングの専門的知識が無くても、スピード感のあるストーリーがぐいぐい読ませます。少年・是枝と投資家・坂井氏のキャラも立っていて、一話目を読んだだけでわくわくします！是枝が見ている世界と坂井氏が見ている世界、今はまだ交わり始めたばかりだけど、これからどんな風に二人が世界を征服していくのか楽しみです。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 主人公は凄腕ハッカー！！と言えばかっこいいけど、自信がなくて人ともきちんと向き合えなくて、劣等感の塊なのです。だけど大物起業家と出会ったことで変わっていく主人公。これからどう変わっていくのかとても楽しみなマンガです。

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

「狼の口 ~ヴォルフスムント~」久慈光久

- 中世も後期になろうとしている頃のアルプス地方にある関所をめぐる話。非情な関守により関所破りは何度も退けられており、関所破りを企てた者たちへの報復はそれはそれは残酷でそれがこのマンガの一つの見所なんだろう。でも、それだけじゃなくて、最新巻で描かれた関所内で繰り広げられる攻防の躍動感、疾走感は一見の価値あり。

鳥取県立日野高校 / 野間 勤

- 死亡フラグが立っている人も、現状打破の希望に見えた人もどんどん死んでいく展開の中で、ようやく本当の転換期が訪れたように思え、盛り上がりを増している。オビの文句もいつも素敵。

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 5巻分、蹂躪されにされまくり迫害されにされ尽くした、ここまで溜めに溜めた怒りがついに解き放たれようとしている。このカタルシス感たるや！早く続きが読みたい。

コミックナタリー編集長 / 唐木元

「おしゃべりは朝ごはんの後で」秀良子

- 食べ物マンガ全盛のいま、おいしそう、食べたい、とここ最近で一番思った。「おいしさを味わっている人（自分）」の表現 -- ぼろぼろの気持ちと体にすーっとおいしさが染み渡っていく、あるいはおいしさで「パチッと目が明く」 -- が最高にうまいからだと思う。リアルではないのに臨場感のある食べ物の絵もいい。

ライター / 門倉紫麻

「おじょじょじょ」クール教信者

- ここ2年ほどで一気に中堅以上に踊りでたクール教信者の4コマ作品の中の本、高飛車で友人を作れなかったお嬢様であるヒロインと変わり者の同級生が互いの言動に救われながら、かつ愛情を深めていくというギャグのテンポと合間に人情の機微を挟み込んでいく著者の持ち味が生かされている作品

住職・ライター / 蟬丸P

「お前は俺を殺す気か」シギサワカヤ

- 相変わらず、ある意味でうらやましいぞ主人公！美人双子姉妹と仕事から何からナニまでのめくるめく現実ファンタジーが目の前に。まーでも、普通の人ならなかなか精神的にきついかもしれませんけれども。愛の形は人それぞれ。こういうカタチはなかなか見かけないかなと思いつつ、現実小説より奇なり漫画より滑稽なりというフレーズを思い出しました。

めがねっ娘教団 大司教 / 田中海渡

「俺が童貞を捨てたら死ぬ件について」もりた毬太／若林裕介

- 今売れ売れの「僕だけがいない街」に隠れてますが、同じくタイムリプレイもの。かなり出来の良いSFミステリーです。タイトルに惑わされず読んで欲しい。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野智未

「俺物語!!」河原和音／アルコ

- パワーおとろえず突っ走ってるマンガ。男性諸君、女性諸君！男は顔じゃないぞーと大きな声をだして言いたくなります。猛男くんの計算のない素直なところが大好きです。

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- もうホントに登場人物が全員大好き！！こんなに愛すべきキャラばかりというマンガも珍しいのではないかと。みんないい子ばかり！ピュアでまっすぐで、嫌味がない。読むといつも、あったかくてほんわかと幸せな気持ちになります。恋っていいな、と素直に思えるマンガ。

主婦 / 安田奈緒美

- 男前！！

朝日新聞記者 / 小原篤

- 既にいろいろな賞を受けているっぽいので説明は不要かと思うが、久々にハマった少女漫画だ。男こそ、これを読むべきだ。うん。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田 淳

「orange」高野莓

- もともとマーガレットコミックから発売していましたが、つい最近双葉社から新装版で発売し、続きも双葉社から発売するので選びました。とにかく少女コミックの枠を超えた誰が読んでも楽しめるコミックだと思います。未来から届いた自分からの手紙。未来から見て過去の自分に後悔して欲しくないからとかかれていた手紙。その手紙の内容は？ どうして後悔して欲しくないのか？ 未来の自分は後悔してるのか？ そして読んで自分は後悔してる過去があるのか？ 読んでうちに引き込まれていきます。青春 SF ラブストーリー。結末が楽しみな作品です。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

- 少女マンガで久しぶりにストーリーがわくわくするものに出会えた！！ 2巻の最後で、予想外、読んだ時に「えっ！？」て声が出ました。ときめきと、じれったさと、苦しさ、謎、いいバランスです。続きが気になる。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「おんなのいえ」鳥飼茜

- 3年つきあった彼氏に振られ、妹・すみ香と暮らし始める有香（ありか）、29歳。仕事も恋愛もまっさらなところからの再スタート。幸先良く「運命の相手」に出会ったかと想ったら、左の薬指に指輪があるし！ むだに親切だし！！ 一筋縄ではいかないけれど、不幸なことばかりでもない。トラブルてんこもりでも、読後感はいじわり暖かい。

馬場企画 / 島影真奈美

「オンナミチ」北沢バンビ

- 未来からおばちゃんになった自分がやってきて色々20代の自分を導いてくれるのだけど選択によっては未来の自分おばちゃんが綺麗になったりよりおばちゃんになったり。。20代の時の自分の失敗にかさなったり面白いです。

カメラマン / 平沼久奈

- 生き物がなくなった世界でのガール・ミーツ・ボーイ。誰かそばにいてくれることが御の字です。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「オンノジ」施川ユウキ

- とっても理不尽なことがまきおこってるマンガ。ある日、街から誰も居なくなるわ、記憶はなくすわ、せっかく見つけた他の生き物は軽く厨二病はいった元人間、現フラミンゴだわ……。でも、二人がとても幸せそうに見えるのです。途中、オンノジに出会うまでは一人きり。孤独を感じながらもその世界を探索し、面白いことを発見し続ける主人公。二人になってからも関係が少しずつ変わりながら楽しく生きているのです。よくわからないけど現状を受け入れて、そこで出来ることをしてみる。そんな二人に胸キュン。書いてて思ったけど、私が世界だって、理不尽なことはいっぱいあるし、いつだってそれは突然やってくるし、自分が日々感じていることや思っていることが100%本当のことか何てわからない。大勢に中にも孤独で寂しいときはある。社会を変えることは難しすぎて、手持ちのカードで勝負するしかないのさ……。なんだ、大してこのマンガの世界と変わらないな。毎日の生活の中で頭柔らかくして、楽しいことをしてみよう。よりよくするためにポジティブに挑戦することはどのせいかでも同じなのかもしれません。そして技術的にすごいのはこの二人の登場人物だけで四コマが作られているところ。「老人と海」だって、もっと人いっぱいであってよ！！

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- 哀愁のデストピアマンガ。二人が愛おしい。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田 充

- 読んだ直後の自分の twitter から転載。番号は tweet した順番です。1) は 1 回目の tweet、計 12 回にわけて tweet しています。1) どう語ればいんでしょうか…。40 過ぎのおっさんが、胸がいっぱいになって、涙が出てくるこの作品。実はコミックスで読むのが初読でしたが、表紙と帯、あらずじでヤバい予感がしていました。これはすごい作品に違いない…と 2) 誰もいない世界。いきなり無人となった世界に残された少女の物語。少女のボケた行動はとて楽しいし、ほほえましいんですが、でもこの世界は誰もいない世界。そのギャップが哀しいというか、はらはらして、楽しいはずなのに哀しい…。3) 楽しいことやクスリとすることが起これば起こるほど、読んでいて楽しいと思う気持ちと一緒に襲ってくる孤独感。こんな相反する想いをもちながら読んだ作品は初めてです。このボケやネタがよりこの世界の孤独感を際立たせていると思います。4) 誰もいない世界にたった一人残されるといったことは“ない”かもしれませんが…、大切な人や、自分を思ってくれる人が一人もいなくなることは想像できます、というか改めて想像させられました。5) 一緒に想いを共有する人が誰もいない世界…。無人の世界に残された彼女ほどではないにしても自分にそんな孤独が耐えられるのか、いや耐えられない…。読んでいて、胸が締め付けられる思いでした…。6) フラミンゴ・オンノジと出会うことで彼女は孤独から救われますが、そのため孤独になることの恐怖を覚えます。孤独の時には持っていなかった感覚。大切な人を失うこと、大切な時間を、日常を失うことへの恐怖。7) 想いを分かち合えるパートナーとの日常。この日常がいつまで続くのか…、漠然とした不安は今の自分たちにも他人事ではないと思います。8) 一体彼女たちがどうなるのか、すぐにも最後を読みたかった…！この不安から逃げたくて、逃げたくて、焦りながら読んでいたと思います。9) どんな結末でもいいから、早くこの世界から逃げたいと思っていたかもしれません。胸が締め付けられる思い、ドキドキしながらページを、いつもより早い速度でめくっていたと思います。10) 最終回 1 話前。彼女が“日常”の象徴ととらえたモノが壊れる恐怖のシーン。パカな話ですが、いまこれを書いても涙があふれそうです。胸が詰まっています…。11) 無人の世界に限らず、今の世界も理解できないことだらけですし、理不尽でどうしようもないことだけど、でもきっと君がいれば世界は素敵なもので、僕らはなんにでもなれる、世の中、御の字だよと教えられた気がします。12) We can be Heroes 思わずデヴィッド・ボウイの「HEROES」を思い出しました。施川先生、素敵な、大切な作品をありがとうございました。正直、『オンノジ』は破壊力ありすぎる作品です…。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

「かくかくしかじか」東村アキコ

- 少女漫画家を夢見る「あまちゃん」だった「明子」と、「スパルタ」の画家「日高先生」の、笑いあり涙あり、あらゆる世代に読んでほしい女版『まんが道』。やっぱり東村アキコは天才です！

Books アイ苺荷谷店 / 野口忠義

「累」松浦だるま

- 醜悪な容姿を持ち、その容姿ゆえに凄絶ないじめを受ける少女・累（かさね）。あるとき、“伝説の女優”として美しいまま、この世を去った亡き母親が残した 1 本の口紅を手にしたときから、運命が大きく動き始める…。どんでん返しに次ぐ、どんでん返しの妙を楽しみつつも、哀しい。転がり落ちるように進む物語の展開から目が離せない。

馬場企画 / 島影真奈美

- 表紙から受ける印象とは少し違うイメージの絵に最初若干とまどいましたが、このストーリーにはありかな、と思う。新人さんの作品なので、ひとつ間違えばありきたいな話になりかねないですが、続きの気になる伏線も沢山あるので、是非ともがんばってほしいです。

派遣 / 栗田さやか

「カフェでよくかかっている JPOP のボサノヴァカバーを歌う女の一生」渋谷直角

- サブカル皆殺し。砂をつかんで立ち上がれ！…るといいなあ。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション営業管理部 / 大山敏樹

- なにこれ、読んでしまうやんなにこれ、「ああー、、、ちょっとわかるわあ」って自分がやだ、知らんけど知ってる感じもやだ、リアリティーありそうなきさそうなきヤミな感じなんなん、笑ってしまうやん、やだやだ、おもしろいっす

音楽 / 後藤まりこ

- 今一番今までの人生を後悔するマンガオブザイヤー。ちょいちょい挟まれる90年代痛いサブカルネタが非常に秀逸で悶え死にたくなる。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「神様がうそをつく。」尾崎かおり

- 単巻ものですが、これをおすすめしないで終われないので。小学6年生、まだ大人には早いそんな子供たちが、誰にも頼れない中で必死に自分たちの世界を守ろうともがく。主人公であるなつるが好きになった理生には秘密があり、それを知ってしまったなつるはそれもひっくるめて理生を守ると約束する。純粹に、そして健気に。そして一夏の冒険が始まる。それがすぐに終わると知っていたとしても。痛いけど、悲しいけど、救われない漫画ではない。心震わせる漫画ではあるけど、読了感は爽やかだった。主人公たちが、成長して大人になった時幸せであればいいなと願うのみ。久しぶりに愛したコミックです。おすすめ。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

「神様のバレー」西崎泰正

- 一見熱を帯びた『赤』い作品かと思いきや、実はかなり濃い『青』い作品なのだ。『赤』、すなわちスポ根的な熱血タイプの作品ではなく、冷静沈着・計算高い『青』タイプなんです。2巻収録の生徒たちが監督の思惑に気付いた瞬間、読んでいて鳥肌ものでした！きっと『GIANT KILLING』と比較されることが多いでしょうが、似て異なる物語。現在も続く『騙し』に満ちた展開から目が離せません！

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

「鴨の水かき」空木哲生

- 弱小デザイン会社を舞台にしたお仕事マンガ。小さなプロダクションでの「下請け」的仕事を体験したことがある人には「あるある」なエピソードがいっぱい。今風なのにどこかレトロな絵、そしてさわやかなストーリー運びなど、何度読んでもいいなあと思える作品。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「学園恋獄ゾンビメイト」森繁拓真

- 森繁拓真の昔の作品が「となりの関くん」などのおかげもあってついに単行本化。久々に読み返しましたがこれは実に面白かった。やはり昔からセンス良かったんだなと思う。

ライター / 芝田隆広

「機械仕掛けの愛」業田良家

- 機械に気持ちができちゃったらととてもややこしくてはがゆいと思う。

カメラマン / 平沼久奈

「岸辺露伴は動かない」荒木飛呂彦

- 長年コミックスを待っていた身としては、お薦めせずにはられません！ ジョジョを読んでいなくても、ピザールでトリッキーな物語が好きな人は是非一読を。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「きのう何食べた？」よしながふみ

- これを読むと、今すぐに和食を作りたくなります。普通のご飯がやっぱり一番。というだけならただのご飯系日常マンガなんですが、主人公たちが男性カップル、というところが非日常的(?)で、そのギャップの混じり具合が絶妙。いつも次の巻をととても楽しみにしています。二人には幸せになってほしい…。

主婦 / 安田奈緒美

「機動戦士ガンダムサンダーボルト」太田垣康男

- もういろんな人がいじり尽くしたと思わせて、こういう作品がまだ出て来るガンダムの奥深さが凄いのか、そんなテーマからこの作品を生み出してしまう作者が凄いのか。おそらく両方でしょうが、とにかく凄い宇宙世紀の物語りが語られつつあるのは確か。

医師 / 岸本倫太郎

- ガンダムを描かされてるお仕事感も好きだから描いてるだけの自己満感もない。本気でオリジンに勝負挑んでる感じ込みで好き。ガンダム好きな人以外にも届いて欲しいなあ。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション営業管理部 / 大山敏樹

「キミと話がしたいのだ。」オザキミカ

- 猫と話せる主人公のほのぼのの日常ものといったらいいのだろうか。主人公が飼っている「くま」という猫が猫らしからぬ気遣いをしてくれて、彼らのやりとりが癖になる。主人公が猫と話せるだけで、猫が人語を話すというわけではなさそうなので化け猫とは違うんだよなあ。

鳥取県立日野高校 / 野間 勤

「球場ラヴァーズ だって野球が好きじゃけん」石田敦子

- 野球選手がでてこないという不思議な野球漫画。そう、プロ野球ファンのお話です。私自身は最近ほとんど球場に行かなくなってしまいましたが、大洋ファンだった子供時代を思い出します。いい年した大人達がボール一つを追いかけて、見ているだけで大声出して騒いで笑って、そして、涙をぼろぼろ流して泣いて、そんな気持ちの缶詰のような漫画です。連載誌と副題違いで何作かに分かれていますが、自分と年の近い基町姉さん主役の本作をおしえておきます。私の思い出は、田代と遠藤の引退試合でした。

めがねっ娘教団 大司教 / 田中海渡

「きょうは会社休みます。」藤村真理

- 大まかに言えば胸キュン漫画。少女漫画にリアリティを求めてはいけません！何でもかんでも現実的に考えてしまいがちな大人が忘れてはいけないものが詰まっています。「こんな男現実にはいない」とわかっていても、田之倉君と朝尾さんは物凄く格好良いです。

シンガー / 山野井千佳

「ギャングース」鈴木大介／肥谷圭介

- 犯罪者から、悪の手法(タタキ)で大金を手に入れる。それもこれも生活するため。実話を元に描かれる犯罪、手法はリアルで何より主人公たちの生活もリアルに描かれており、とても考えさせられます。大人にこそ読んでいただきたい一冊。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口 健

- 普段こういうマンガはあまり読みませんが、今一番雑誌連載で次が待ち遠しいマンガです。ブサイクな主人公カズキがどんどん格好よく見えてくる!! シビアでヤバイことになってるのに、なんだかズッコケ3人組みたいな楽しさがあって、未来や夢が感じられて、ワクワク毎週楽しみに読んでしまってます。

bar図書室 店主 / 岡部 愛 (のん)

「銀のスプーン」小沢真理

- 家族みんなで読める作品。淡々としたリズムで愛情が描かれている。

自営業 / 小野ゆうこ

「銀のニーナ」イトカツ

- 知人に薦められて読んだのですが、面白かったです。姉の子どもの世話を頼まれた主人公が姉の娘のニーナとの生活をする話。日常を描くこの作品の中で、ニーナの純粋さが主人公に影響を与えていきます。特に大きな事件が起こるといった事はないのですが日常系でほのぼのと読みたい人には、とってもオススメです！

デザイナー / 平沼寛史

「銀河帝国興亡史 ファウンデーション」アイザック・アシモフ / 卯月 / 久間月慧太郎

- アイザック・アシモフ『ファウンデーション 銀河帝国興亡史』のコミカライズ。なぜ今この時期に『ファウンデーション』が漫画化されたのかさっぱりわかりませんが、内容は面白かった。ちゃんと『ファウンデーション』が漫画になってました。原作を読み返したくなって Kindle 版がでてなくて舌打ちするぐらいは原作に忠実でした。続いて欲しい。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

「君は淫らな僕の女王」岡本倫 / 横槍メンゴ

- 今年いちばん売ってやった感満載の作品。純愛エロコメディの王道にして鉄板。実用度と満足度のクオリティの高さ。すばらしいっす。ということなし。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「くーねるまるた」高尾じんぐ

- 今一番美味しそうなマンガオブザイヤー。ちょいちょい挟まれるピンポーレシピが非常に秀逸で腹が減る。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

- やっぱり食漫画は明るく楽しくが良いよね！ポルトガルからやってきた留学生、マルタ。貧乏ではありますが、底抜けに明るい性格と持ち前の食欲で、その辺りで安く買えたり手に入るもので毎週ごちそうを作っています。マルタの食べている時の顔を見ているだけで幸せになれるですよ！誰にでも手に入るレシピが多いので、実戦向きなもの bom！

まんが王バイイングマネージャー / 日吉雄

- まるたさんのピンポーだけど感性ゆたかな日常と、よだれのでそうな工夫ごはんの魅力されっばなしです。かわい〜♪古風な工夫や文芸のマメ知識も盛りだくさん。マンガ版、くらしの手帖！

フリーアナウンサー / 松尾翠

「喰う寝るふたり 住むふたり」日暮キノコ

- 同じ出来事を男性目線と女性目線の双方から描いた漫画。ザッピングストーリーと言われたこの漫画を初めて読んだ時、間違いなくこれは売れる！と思いました。内容も良く、どっちの気持ちも理解、共感できるから読んでほっこりします。気持ちのすれ違いはあったとしても、こうやって読むとどちらも相手を大事に思ってるし、大好きなんだなあと。その気持ちが伝わってくるこの漫画、大好きです！

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

- ありそうで無かった、カップルそれぞれの視点から描くという試みがおもしろくて、そして何故かどちらの立場にもちょっと共感できるという描き方が上手いな～と思いました。親しい人との関係や思いやりのあり方について考えさせられたりもしましたが、重くならず気軽に読める感じもとても良かったです。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 男女の考えの違いって色々あるのだと思います。その違いを知ることはとても楽しい。女サイドと男サイドを両方1度に掲載してあるのって斬新だなあ・・・と思いながら繰り返しよんでました。きっと客観的に漫画で読むからたのしいだけだね！！でも、一緒にご飯食べたり、怒ったり泣いたり笑ったり。二人でいるのっていいねえ。と思える漫画です♪

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 由加理

- めっちゃわかる。私はリツコみたいにできた女ではないが、めっちゃわかる。基本的に二人ともいい人なので気楽に読めるし、男女視点2話セットもわかりやすく読みやすい。仕事で疲れてる時のリフレッシュにおすすめのマンガです。

WEB デザイナー / 河本智芳

「クジラの子らは砂上に歌う」梅田阿比

- 水かわりに砂で覆い尽くされた世界の上に行く巨大な漂泊船に、500人を少し越えるくらい人間が暮らしていて、建物に寝起きし畑を耕し雨水を溜め工作をして生きるための糧を得ていた。泥クジラ。そこに暮らす人の9割ほどには、“情念動（サイミア）”と自らが呼ぶ異能の力が備わっていて、念動力に近いそれを力が必要となる仕事や、砂の海を渡って物資を集めに行くことに使っていた。そんな泥クジラで、というよりそこが世界のすべてだったともいえそうな場所で、14歳の少年チャクロは記録係として、生も死も含めた泥クジラの日常を綴っていた、そんなある日。遠くに島を見つけたチャクロは、仲間たちと砂の海を渡って島に行き、そこでひとりの少女を見つけて泥クジラへと連れ帰る。そして物語が動き出す。外の世界と関わりと持ったことで、泥クジラが存在する意味が、歴史の闇の底から浮かび上がって、平穏だった日常を大きく変える。隔絶された場所だからこそ保たれていた安寧が崩れ、泥クジラの人々を、そしてチャクロの書く言葉を、淡々としたものから感情と慟哭の入り混じったものへと塗り替える。想像力に溢れて驚きと輝きを持った舞台の上、意志に富んで行動力と洞察力に溢れた登場人物たちを得た物語。何が暴かれそしてどうなるのか。これからの展開を期待せずにはおられない。

書評家 / タニグチリウイチ

「クロス・マネジ」KAITO

- 以前、日本橋ヨヲコ先生に「G戦場ヘヴンズドア」についてインタビューした際に、この作品は「やりたいものになれなくても幸せになれるよという事を伝えたかった漫画」ということを伺ったのですが、つまり「夢がかなわなくても幸せになれる」ということなわけですが、この作品の主人公の桜井もサッカー選手として成功するという夢、才能もあって努力もしていたのに、それが出来なくなり、夢がなくなった後に、彼がどう生きていくか、彼がどう成長して行くのか、素敵に描かれています。物語の最初と最後に出てくるパンのエピソードはまさに我々自身、どう生きていくか、という大人になる過程で突きつけられる現実そのもので、その質問に対してこの作品は最後に夢は一つじゃないよ、夢が破れても終わりじゃないよ、という答えを示してくれます。そういった意味では映画「キッズリターン」にも通じますね。そしてなによりも魅力なのは女子ラクロス部の面々。ともかくKAITO先生のマンガ力が毎週、読むたびに上がっていくのを感じました。キャラクターひとりがどんどん魅力的になってきて、まさにマンガ家が成長していく過程を見させていただきました。5巻で終わり、ずっと掲載順が最後だったということでネットでは打ち切りのことを言われていますが、自分は読んでいて、これは編集部と作家が最後まで描ききろうと戦っていたんじゃないか、残り少ない話数でも描きたいシーンを練りに練りこんで、濃密な作品に仕上げたんじゃないか、決して打ちきりなんかではないと思っています。単純に終わらせるんだったら、もっと容赦なく試合前に終わっていたと思います。最後まで描ききろう、という強い想いが感じられましたし、KAITO先生は最後まで丁寧に作品を仕上げ、見事に描ききったと思っています。本作をここまで傑作に仕上げたKAITO先生と編集部には感謝したいと思っています。次回作、とてもとても楽しみです。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

「軍靴のバルツァー」中島三千恒

- 19世紀の架空の西欧王国を中心に、王族間の派閥争いやデモなど戦争と平和の狭間で起こる国家の事件を描く、歴史・戦記ものです。騎兵やゲリラ戦術、兵法部分が非常に巧みに描かれていて、また、揺動された市民のデモ隊を鎮圧する様子など、まるで当時の市民革命を彷彿させるような空気感を感じられるようなストーリー。この時代のお話が好きな方はもちろん、純粋にストーリー重視の方にも読み応えのある一作です。癖のある絵柄ではありますが、作者の画力や物語の構築力がすばらしく、主人公のバルツァー少佐の参謀としてだけでなく、政治家手腕も見せつけられ、この先の展開が非常に気になる作品です。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城しおり

- 「んなアホな」って感じのことも多いのに、「なるほどなー」と思わされるような、不思議な作品だと思っています。丁寧な描写とキャラの生き活きた様が痛快です。そしてカッコいいです。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

「ケンガンアシュラ」サンドロビッチ・ヤバ子／だろめおん

- 作品の端々にサービス精神があふれている王道格闘マンガ。純粋に「強いのは誰か」を決めるっていうシンプルさがいい。エンターテインメントに徹してつくってくれてる作品だなあっていうのが、読んで気持ちいいです。今後もっと魅力的なキャラクターや試合などで、私を楽しませていただければと。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「激辛！カレー王子」加茂誠

- 最強ジャンプに連載中のこの作品。不条理なギャグの切れ味たるや、大人も子供も、のけぞること間違いなし。表紙には大きく「読むな」の文字。すごい！

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

「月刊少女野崎くん」椿いづみ

- 「無骨な男子高校生は乙女な少女漫画家でした。」これだけで、気になる謳い文句。普段4コマ漫画は、ほとんど読んだことがないのですが、電子書籍で立ち読みして、その時点で大爆笑。ツポにはまりました！佐倉千代が野崎君に告白したところ自宅に呼ばれてドキドキ。でも、まさかマンガのアシスタントをさせられるなんて!! 実はなんと野崎君は可憐な少女漫画を描く、大人気作家だった！でも、繊細な乙女心はちっともわかってない、恋愛初心者で天然な野崎君。というあたりがまた何とも言えなくて。どの話も笑いが止まりません。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城しおり

- 四コマ漫画。登場人物が全てボケのため、漫画内ではボケっぱなしのままが多く、画面外で読者が突っ込みながら読む。なので、楽しく騒いでいる人たちを横で見ている感じで、「楽しそう。自分も中に入って一緒に騒ぎたい」と思わせる魅力に満ちている。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯洋

- 4コマまんがから押し。往年の少女まんがの名作「藤臣くんシリーズ」の藤臣くんがもしも少女まんが家だったら？みたいな無骨男子キャラが圧倒的におもしろいです。

お菓子研究家 / 福田里香

- 読んでいると吹き出すので、外出中は恥ずかしくて読めない！

公務員 / 東くるみ

「恋と成」東谷文仁

- 石川・富山県で発行されている『月刊北國アクタス』で連載されている作品であり、失礼を承知で言えば、全国的な知名度はあまり高くない作品かも知れません。でも、それではあまりにもったいない！と思い、候補に選びました。主人公である原我成久（はらがなるひさ）は小学3年生。隣の席でかわいいが口の悪い小松恋路をはじめ、小学3年生とは思えない胸毛の柳田弘、笑い方が気持ち悪い変態の押水誉、先生方もおかしな方ばかり。しかも、主人公原我以外ほぼ全員ボケで、原我は同じコマ内で大人顔負けの突込みをします。とにかくテンポがいい。マンガ誌ではなく月刊誌に掲載されているのですが、かなり濃い作品です。（小声で）一般受けしないかも知れませんが、マンガ好きのみなさんには特にオススメです。北陸にお越しの際は是非手に取ってみてください。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

「コウノドリ」鈴ノ木ユウ

- ドラマ化希望！

漫画全巻ドットコム / 安藤拓郎

- いろんな意味で扱いの難しい「出産」について、こんな風に寄り添いながら描くことができるのかと感嘆した。自分の身に引きつけて読むことも、遠くから眺めて読むこともできる、稀有な作品。「出産」というテーマが我が事の人にも、そうでない人にも読んでほしい。読んだことで私は、肩の力を抜くことができました。ありがたかった。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「高台家の人々」森本梢子

- 各話ごとに笑わせていただきました。ほんわかしました。妄想最高！！

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- 久しぶりに声を出して笑いながら読みました。この方にしかかけない！っていうなんとも間抜けで素っ頓狂な絶妙なバランスですね。相手の気持ちが読めてしまう設定のマンガはいろいろあるけれど、こんなに読めてしまうことよっての辛さを感じないマンガはないですね（笑

b a r 図書室 店主 / 岡部 愛 (のん)

「聲の形」大今良時

- 少年マンガで、鳥肌が立って、心震える作品に久しく出会ってなかった気がします。ぜひ多くの人に読んでほしいマンガです。耳の聞こえない少女と、彼女をいじめてしまった少年。二人の未来が明るいものであることを願っています。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

- 読み切り版がとても凝縮されたものだったので、まさか連載になるとは思っていなかった作品でした。なのでほぼ1巻分たっぷりにのぼされた小学生時代のイジメのシーンは本当に胸糞がわるくなるばかりでモヤモヤしますが、とにかく目が離せません。言葉、描写全てがとても心にささってきます。読んで後悔はしません。

バンドマン / TA-SHI

- 発売前から話題になっていたこの本は、やはり評判どおりの力を持っていた。あらすじを書くのは控えるが、いわゆるいくつかの『タブー』に触れた作品とも言えるかもしれない。そのなかの一つが『いじめ』なのだが、この作品の恐ろしいところは、いじているほうの気持ちも、いじめられているほうの気持ちも、どちらも分かるところだ。ものすごい説得力を持ったまま、物語は数年を駆け抜けていく。果たして、この先どう物語が展開していくのか。話の中心にいるのは、耳の聞こえない少女と、彼女をいじめていた少年。それは、もしかしたら、自分と他人とは違うのだ、ということをもっとも端的に表しているのかもしれない。そして、その両者がどうやって関係性を育んでいくのかを、あらためて描き出そうとしているのかもしれない。そんな気がした。続きがとても楽しみな作品が、また世に出てきた。

啓文堂書店本部 / 山川美香

- 新人漫画賞の入賞作品でありながら「聴覚障害者に対するいじめ」というテーマを理由に掲載が見送られたという経緯を持つ作品。お蔵入りから奇跡の復活掲載を果たした後、セルフリメイク版の読み切り作品として掲載され、さらにリメイクされ連載版に。いずれにも、いじめにあう聴覚障害者の少女も、いじめた少年は登場するし、共通する登場人物も多い。大筋のエピソードも同じであるが、新たな視点を提示し、読む者の心を揺さぶる。読み返すほどに発見がある一冊。

馬場企画 / 島影真奈美

- 『別冊少年マガジン』『週刊少年マガジン』と2回に渡り、聴覚障がい者に対するいじめを描いた読み切りが話題となり、連載スタート。一度完結させた話を読み切りで一度リメイクして、さらに連載向けにもう一度セルフリメイクしての連載という離れ業。フィクション作品であっても、表現手法やモチーフがやり玉に上がりやすいいま、臆することなくこのテーマに取り組んだ作者の意志にも拍手を送りたい。現2巻続刊。

(有) 馬場企画 / ライター・編集者 / 松浦達也

- 小さな動機で、手酷い結果。それが、イジメ。大学にイジメはないのは、閉鎖空間に誰も閉じ込められていないから。閉鎖空間に閉じ込められていなければ、退屈を感じることはない。イジメをする側の動機は、ほんと、退屈しのぎ、ぐらいのことでしかないはず。小人閑居して不善を為す、ではないですが、さほどの悪人が揃わなくても始まってしまうのが、イジメでしょう。でも、それが個人にもたらす、破壊的な結末。ちいさな解決のない不都合にいらつく人々。それを安易な解決を求める聖者気取りには反感を感じる。そのフラストレーションや反発には共感できてしまいます。そう、この作品は、「悪人がいないからおそろしい」。この不都合の連鎖を、どこかで意志の力で止めないと大変なことになる、というのを、静かに、でもポップに、せまってくる作品です。

たった一巻ですごい体験をしちゃっている二人の行く末もきになるのですが、これを読んだ上で、イジメって出来るひと、いるのかなあ。いなくなると、いいなあ。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「刻刻」堀尾省太

- 絶対に有り得ない設定なのに、リアリティーと説得力がすごい。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- 設定がしっかりしてて面白いです。物語も着々と進んでいく。結構むずかしい設定な気がするけどサラッと読めるのは、人物達の表情のリアルさのおかげなんだろうなあ。もっと評価されてもいいと思うので推します。

WEB デザイナー / 河本智芳

「ことりサラリーマン鳥川さん」ものゆう

- 「社畜は読むべき」「まだ家を出ていないのに『おうちに帰りたい…』ってなる人も読むべき」と書いたPOPをつけて店頭で展開しました。ことり…かわいい…。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田美智子

「殺風ガール」真田順子

- デビュー前にコミティアで読んで以来、ずっとずっとおいかけていた真田先生の初コミックス。出ること自体、すごい嬉しかったですが、どの作品もヒロインがバカで、可愛くて、そしておっぱいが大きくて、とてもとても愛おしいです。帯アオリがとても秀逸なのでここに転載させていただきます。「バカで元気で、えっち。ドーナツはおいしいし、でかい乳があれば世界が救えるでも運命の赤い糸は大好きな彼とつながらない。」「今をときめく少女たち、まっすぐにいこう読切連作。」読むと非常に楽しくなる素敵な娯楽作品です。ぜひ次も読みたい作家さんです！

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

「Sunny」松本大洋

- 僕の中で松本大洋さんの代表作です。大傑作。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

「さよならみなさん」西村ツチカ

- 難しいことは考えずとも、構図の面白さだけでマンガはこんなにも面白いのかと思った。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田 充

「さよならソルシエ」穂積

- 時代背景、ドラマ性、展開、まとめ方…。作品としての完成度が高い！これは…映画です！

フリーアナウンサー / 松尾 翠

- ゴッホには弟がいて、とても仲が良かったらしい、という話は、昔どこかで聞いたことがあった。その話が読めるのかと思って読み進めていたら、どこかが違う・・・？そして、まさかの大どんでん返しが起こったとき。この作家さんの才能に脱帽したことでした。全二巻の鮮やかな物語を、ぜひもっと他の人にも読んでほしい。そう思わされた作品でした。

啓文堂書店本部 / 山川美香

- ゴッホ異聞。「そんなことあるわけないじゃん」という話ですが、「そういうことがあってもいいじゃん」と思わせてくれる。2巻でスッキリ終わる歯切れの良さもマル。

ライター / 芝田隆広

- 19世紀末のパリを舞台とした作品。魅力的な主人公とフランスの優雅な描写に引き込まれます。絵画については、詳しくありませんが、この作品を見て、とても興味が湧きました。何よりも、この話をきっかけにして、ゴッホについて知りたくなったというのもこの作品の影響力の強さだと思います。兄弟のやりとり、特別な絆、そして弟の華麗な立ち回りに萌えます。

会社員 / 西尾美里

「34歳無職さん」いけだたかし

- ちょっとだけ切なくてちょっとだけ甘い、ゆるっとした彼女。離婚して仕事もしばらくはお休み。脂も乗っているけどと人生の盛りの時期ではあるけれど、そんな年頃だからこそ、せわしない世間の波間にたゆたってみるのもいいのかもしれないね。忙しいあなたにも、お暇なあなたにも、どちらにもお勧めしたい淡雪のような漫画です。ちゃっ！

めがねっ娘教団 大司教 / 田中海渡

- 一巻を読んだ時には、まさかこんな話になるとは思ってもみなかった。舐めてはいけない、なんてシビアなのかしら。なんともイタい話です。この主人公がこれからどうなっていくのか...最後まで見届けたいです。

b a r 図書室 店主 / 岡部 愛 (のん)

「山賊ダイアリー」岡本健太郎

- 猟師、という今まで知ることの無い職業なのに、なりたくなるマンガ。生きてる物を食べているんだーという実感がわきます。単行本で読んだ方が分かりやすいです。

会社員 / 金子幸恵

- タイトルに付いて「リアル狩猟奮闘記」のキャッチコピーが全てを表しております決して作り込まれたストーリーではなく、あくまでも奮闘記であるためにリアリティが感じられるのですちなみに年の暮れごろのイノシシの雄は食べると臭うとのこと

コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部 福岡営業所 / 阿部大介

- 命をいただいて命をつないでいるということを実感させられます。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

- ワイルドライフを衝撃をもって私達に見せてくれたこの作品ももう4巻。ああ、シカとイノシシは食べるよね！獲ったら沢の水で冷やすんだよね！みたいなことが当たり前になってきている読者の私達の感覚も、だいぶすごいところまで連れてきてもらっちゃってると思いますが、まだまだ出てくる知らない猟師生活。釣りも料理も、全部おもしろいですよねえ……！で、改めて読みなおして、また気づいた新しい魅力が、このマンガの「絵解き」の面白さ。ショッピングセンターの溝に落とししたイノシシを、銃を使わずにトドメをさす、って文章で書いても、マンガが描いていることの何十分の一も伝わりません。木に登った時に取らざるをえない、信じられないようなバカなポーズとか、これ、絵で教えてもらわないと、「絵解き」してもらわないと、なんにも、わからないんですよ。デザイン的な絵の綺麗さとかじゃなくて、マンガじゃないと絶対にかけないんだ！！ってことを、猟師、というすごい生活を、マンガ家、という驚異のコミュニケーションスキルでこちらに伝えてくれる、この作品のすごさに感動。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「さんてつ」吉本浩二

- あまちゃんが大好きで出会ったこの作品。忘れてはならない「震災」そして「三陸鉄道」について描かれています。是非読んで欲しい作品です

有隣堂書店店売事業部仕入販促グループ / 徳永あけみ

「三文未来の家庭訪問」庄司創

- 勇者ヴォグ・ランバを読んで以来、庄司先生の作品のとりこです。衝撃の遭遇でした。ラストのおまけ漫画はとても素敵です。

バンドマン / TA-SHI

- 新しい切り口のSF。一読をお勧め。

弁護士（長島・大野・常松法律事務所） / 三村量一

- 三本の中編を収録しているが、どれも特異な発想を掘り下げて読み応え抜群。貴重な現代SFマンガ。

映像系ライター / 縣丈弘

「四月は君の嘘」新川直司

- いい音楽は感情を刺激する。音楽の「喜怒哀楽」は、西洋音楽を構成する3要素「リズム」、「音色」、「ハーモニー」の一枚外側にこそ色濃くにじむ。現実のコンサートでも、演者の背景や感情が演者のパフォーマンスににじんでこそ、「音」はオーディエンスの心に深く届く。マンガもそうだ。本作では主人公、有馬公生のピアノからも、宮園かをりのバイオリンからも、胸に響く音が聴こえる。つきまとう悲しみがあるからこそ、音は誌面から聴こえてくる。物語の展開は、楽しげで切なく、そして胸を打つ。どうか、悲しい場面の少ない物語でありますように。現7巻続刊。

(有)馬場企画/ライター・編集者 / 松浦達也

「しばたベーカリー」鵜飼りん

- ほのぼの漫画とおもいきやかなりシュールなつつこみありと一筋縄でいかないこの作品。あくまでも犬顔と言い張るしばたさんの背中があまりにも切ない。今イヌ(いやいや犬顔の人間)漫画を推すなら絶対にこれ！間違いなくこれですよ！

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋 修一

「昭和元禄落語心中」雲田はるこ

- 落語に魅入られた男たちの苦悩や葛藤そして孤独。深い人間描写が魅力の作品です。

有隣堂書店店売事業部仕入販促グループ / 徳永あけみ

- 謎だらけだった師匠の過去が明らかになり、現在とリンクしていくことで次第に見えてくる真実がまた魅力的で面白い。戦中戦後の日本において、落語をはじめとした娯楽が庶民の精神的な支柱になっていたことなども、押し付けがましくない程度に描かれていて好感がもてる。

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 読んでいると誌面から落語の声が聞こえる。それだけで十分すごい。落語という魔物に憑りつかれ、人生を狂わされてしまうという物語も、その苦しみが糧となって芸が向上するという、どこまでも逃げられない恐ろしさが伝わってきて、緊張感が切れない。次巻で過去篇は終わるだろうが、それを踏まえ、現代に戻ってどういう展開になるのか、非常に楽しみ。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯 洋

「新黒沢最強伝説」福本伸行

- 続編なんですけど、前作からあまりに時間もたっていますし心機一転ということで投票させていただきました。やっぱり面白いですよ！福本イズムとでも言うんでしょうか、人間のまったく綺麗でないけれども美しいと感じさせてくれる人間の”リアルさ”。笑いと焦燥感がまったく同時にヒシヒシと伝わってくるあたり、黒沢は面白いです。

デザイナー / 佐藤 優

「深夜便」桜玉吉

- 全くの新作のみの新刊は本当に久しぶり。何とかやっていたのかなー…って全然何とかやっていたくないし！！応援するしかないでしょ！！

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション営業管理部 / 大山敏樹

「GB パーク」オノ・ナツメ

- とある街の公園に集まるゲートボールサークルの日常を描いたマンガ。またこれが仲間に入れてほしいくらいのすてきなメンバーで、ニヤニヤ笑える。どんどん楽しくなる。寂しがりやな僕は、ジジイになったらこういうのやろうと決めた。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

「ジゼル・アラン」笠井スイ

- ストーリー・画力共に言うことなしの作品。ジゼルの素直で健気に頑張る姿には毎回感動させられっぱなし。それからキャラのファッションや部屋の小物などに注目してみるのも一興かと。細部に至るまですごく可愛く丁寧に描かれているので見ていて楽しいですよ。

醤油製造業 / 小野塚博之

「実は私は」増田英二

- 週刊少年チャンピオン連載。行き詰まり感があるラブコメの中で、面白さが突出している作品。ヒロインが人ではなく、吸血鬼、宇宙人、狼女にして、かつドジっ子でそろえた作者の目の付け所が見事。絵のタッチも今の流行でないが、他作品との差別化になっている。高いテンションをどこまで引っ張れるかが課題だが、今後は楽しみ。

毎日新聞デジタル (まんたんウェブ副編集長) / 河村成浩

- 吸血鬼や宇宙人、悪魔など人外女性キャラ大集合のラブコメ漫画だが、ラブよりコメの割合がかなり高いので、ギャグ漫画として楽しめる。とにかく登場人物たちが揃って天然。本人たちは真面目なのに、おかしい事態にしかならない。主人公が隠し事が苦手で、すぐに顔に出る性格なのに隠し事をしなければならないというのが本筋のはずだが、他のキャラがボケで主人公が突っ込み役のため、最初のその設定はあってなきが如くになってしまっているような・・・

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯 洋

- 吸血鬼であることを隠しながら学園生活を送らなければならないのに、隙が多いうっかり属性のヒロインと、それを知ってしまい気苦労の絶えない主人公という王道の学園ラブコメ。主人公たちを取り巻くキャラ立ちや距離感なによりも目力のある作画と相まって絶妙な味わいを醸しだしており、秘密の開示やストーリーラインの秀逸さから、万人にお勧めできる逸品かと

住職・ライター / 蟬丸P

- 様々な"人外"たちが入り乱れるラブコメの大収穫。細かいギャグや心理の流れを高密度に（整然と）配するセンスが卓越している。

書評家・ライター / 福井健太

- ドキドキしながら読んでます！

漫画全巻ドットコム / 安藤拓郎

「実在ゲキウマ地酒日記」須賀原洋行

- マンガを読んで、この類の涙を流したのは小林まことの「青春少年マガジン」以来だろうか。作者の奥様であり、1980年代の『気分は形而上』から、氏の作品には欠かせないキャラクターでもあった「よしえサン」がまさか本作の連載中に亡くなられていたとは……。最終回までその事実を明かさず、コミカルな酒飲みエッセイマンガとして、描ききられた気概と覚悟にこうべを垂れつつ、30年来の「よしえサン」ファンとしても票を投じさせていただきます。もちろん、地酒の飲み方&簡単つまみの作り方つき、のんべえエッセイとしても素晴らしい。全2巻完結。

(有)馬場企画/ライター・編集者 / 松浦達也

「ジパング 深蒼海流」かわぐちかいじ

- 名作の予感！

漫画全巻ドットコム / 安藤拓郎

「1/11」中村尚備

- サッカー漫画なのにサッカーシーンが少ない。しかしこの漫画にはそんなシーンもいらぬくらいのドラマがある！そして目頭を熱くさせる何かがある！なぜこの作品が数ある漫画賞に入らないのだろうといつも不思議に思う。そんな隠れた名作、絶対に読んでもらいたい。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋 修一

「女王の花」和泉かねよし

- 中華歴史物テイストのストーリーで、亜国の姫として生まれながら、冷遇されて育った主人公・亜姫（あき）の、「女王」になるまでの成長を描いた作品です。十二国記や彩雲国物語のような主人公の成長、奮闘記でもあります。（本作の方が、シビアナ話を中心だけ）だけど、亜姫が地に足着いているというか、継母から命を狙われたり、人質扱いで他国に送られたり不遇の境遇にありながらも、困難に立ち向かっていきます。展開がすばらしく、この人こんなところで倒れていい訳が！とか、こんなピンチをどう切り抜けるの!?!とドキドキハラハラ一気読みしてしまいます。最新刊が8巻で最後のエントリーですが、早く次巻が待ち遠しいです。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城しおり

「ジョジョリオン」荒木飛呂彦

- 作者の変わらぬ才能に一票。これだけ長いシリーズにもかかわらず、昔からの読者を一切飽きさない。

会社員 / 齋藤 隼

「鈴木さん」ヤマダ

- web 漫画を読み漁っていた頃に出会いました。日常ほのぼの系？コメディ（ラブコメっていう程でもないかな？）なんだけど、思わずニヤニヤしてしまう描写がチラホラ。胸キュンです。キャラクターが可愛い。

シンガー / 山野井千佳

「ストーリー311」ひうらさとる／上田倫子／うめ／おかざき真里／岡本慶子／さちみりほ／新條まゆ／末次由紀／ななじ眺／東村アキコ／樋口橘

- 東日本大震災の被災地へと自ら足を運んだマンガ家たちが、描き上げたドキュメンタリー短編マンガ集。描かれているのは、6歳の少女から、71歳のジャズ喫茶のマスターまでのさまざまな人々。僕たちは「被災者」としてひとくくりに報道された人たちの何を知っているのか。11組のマンガ家が向き合った11の現実。その爪痕を物語にするのに、作家にもどれほどの葛藤があったことか。僕たちは知らなければいけない。そして忘れてはならない。全1巻完結。

(有)馬場企画／ライター・編集者／松浦達也

「ストーリー漫画とっとり」鈴木 聡

- 地元びいき、ステマジャー！といわれても書かずにはおれまい！！地元の鳥取県の作家さんによる1冊ができました。ストーリーは全国からの公募なのですが、地元の漫画家さんが集まってこんな一冊ができたことがたまらんです。鳥取人のいなかっぺとしてはたまらなく感動なのです。地鶏や地酒、食べ物には「地のもの」があります。鳥取県にもいっぱいあります。でも、なんていうか、形のないもので地のもの！ってまだまだないというか。例えば、スポーツで全国大会に行くチームがあったとして、そこに鳥取県で生まれ育った人間がどれだけいるのかという... 県外から来てる人が大半だったりします。もちろん、地元つながりで応援するし、どこの出身でも努力してるのは変わらないのだけど...。でも、やっぱりメイド・イン・とっとりがでると、応援にすごい力いれちゃうんです。この漫画もそんな思いで推したいと思います。砂漠の民一押し！の漫画です。

米子高校漫画研究部顧問／佐川 由加理

「ストラヴァガンツァ」富明仁

- 健康的なスタイルの美少女が主役なのですが、物凄く可愛い顔をしているのに、人前に出るときは仮面をかぶっています。それが物凄くインパクトがあって、つい惹かれちゃいます。最初の話が、ファンタジーな雰囲気なのですが、とたんに緊迫した雰囲気に。しばらく緊迫した雰囲気の話が続いて、ドキドキしながら読んで行くと、クスリと笑っちゃう話が。うーん、2巻はどんな話があるんだ??と、気になる1冊。なぜ仮面をかぶるようになったのかも気になります。

有隣堂町田モディ店／桶谷佳代

「sunao sunao」100%ORANGE

- すごくへんなマンガ。終わり方もへん！巻が進むごとにどんどんへんになっている。「シュール」とかじゃなくて「子どもが思いついたことをやりたい放題やってる」感じが楽しすぎる！一見さらっと描いた「かわいい」絵に見えるが、構図、体の動き、骨格などが、驚くほどの正確さとダイナミックさで描かれており、マンガとしてのワクワクに満ちている。

ライター／門倉紫麻

「すみれファンファーレ」松島直子

- 胸打つ言葉が満載の作品。すみれちゃんに教えられたり、すみれちゃんを応援したくなる。素直になれる作品。

自営業／小野ゆうこ

「戦闘破壊学園ダンゲロス」架神恭介／横田卓馬

- エグさが最高です！

漫画全巻ドットコム／安藤拓郎

「千年万年りんごの子」田中相

- もうほんと！ どうなっちゃうの？！田中相先生のゆったりな絵の中に凶器が！謎もあって 何が起きちゃうのだろうというときどきとどうしたら助かるのかと常に考えながら読み進めていく面白さ。3巻で本当に完結するのか？！早く読みたいです！

アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

- この世界には人にはどうにも抗えない何かがあって、触ってはいけないものがたくさんあるんだと思います。そういうものは怖いけれど、ちょっと心惹かれる。そんな昔の日本にあった仄暗さと美しさをもった世界の中で物語は進んでいきます。世界の闇のようなものに翻弄されながらも、恋愛結婚したわけではない二人が徐々に心を通い合わせてゆく。自分の意志で選択したものではなく、受け入れざるを得なかった制限を受け入れて、その中でも何とかしようと前向きに生きてゆく。その中で少しずつ絆を強めていく二人の姿がとても美しいです。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬公将

- 都会から田舎へお嫁に行った朝日が、禁断のりんごを口にしてしまったことですべてが一変してしまう。「田舎」「伝承」「祭儀」といった民俗学的なワードが好きなので読み始めたが、夫婦のありかたや思いやる気持ちを教えられ、反省やらなにやらで涙が止まらなかった。刊行ペースがゆっくりなのが残念。

主婦（元書店員） / 赤坂真実

「SOUL CATCHER(S)」神海英雄

- 設定のひとひねり感とストーリーの王道部活マンガ感がうまくかみあって読みごたえあり。吹奏楽部員の悩みをひとつひとつ解決して、仲間を増やしていく感じがとてもジャンプ作品らしいなあ。確かに地味さはいなめませんが、もっと売れてもいいのにね・・・と思ってます。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「その女、ジルバ」有間しのぶ

- ひよんなことから熟女バーで働き始めた 40 歳の女性。若さや美しさといったものは通用しない世界で気立てのよさから先輩や、お客さんから可愛がられ自分を取り戻して行く。このマンガを読んでいると、年齢は人生を制限するものではないんだなと思えてきます。心の持ちようと、自分の行動次第でいくらでも人生は変えられるものなんだと。社会的なイメージで自分を制限してしまうのはもったいない。諦めない限り素晴らしい人生は続いてゆく。そんな風に思えるマンガです。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬公将

- 漫画の中の店に行ってみたい、このキャラ達に会いたって思えるマンガってそうそう無いと思います。凄く共感、そして感動できるマンガです。

ブックファースト新宿店 / 渋谷孝

- 人生設計や仕事の先行きに悩む 40 才独身女性である主人公がふと目にした求人は 40 才以下お断りのホステス。従業員の平均年齢は 70 代、伝説のママ・ジルバの店 BAR OLD JACK & ROSE で…とおおまかな説明だけで読みたくなる有間しのぶ節が前回の秀作。一読した後に世のアラフォー女性を癒やすにはここまでしなければならんのかと思うと同時に、人生の先輩でもあるホステスたちに鍛えられていく様子は正当な遅咲きシンデレラストoryでもあり、ホロッともしるといふ複雑な味わいのある作品。

住職・ライター / 蟬丸 P

「續さすらいエマノン」鶴田謙二

- ストーリー、絵の美しさ。そのバランスがここまですぐれた漫画を僕は他に知らない。エマノン・シリーズ、必読です。

シンガーソングライター / 谷澤智文

「大砲とスタンプ」速水螺旋人

- 趣味性の強さと人懐っこさを見事に両立させ、ミリタリーをファンタジーに昇華（けどしっかりミリタリー）させている傑作。

映像系ライター / 縣丈弘

- 1950年代っぽい時代にロシア（むしろソ連）っぽい国とトルコ（中央アジア？）っぽい国が戦争していて、その兵站軍（！）の女性士官を主人公にしたミリタリー漫画。兵站ですよ兵站、ストラテジーですよあなた。丸っこい絵柄で、コマの中が密度高く、コチャコチャと延々と描き込まれてて、それを読み解いていくのが幸せ。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

「高杉さん家のおべんとう」柳原望

- お弁当マンガというジャンルを確立し、レシピ本が出版されたり、タイアップカフェが開かれたり（行きたかったなあ…）と、大きなブームになっています。主人公で大学講師の高杉温巳（はるみ）の言うように、「人はおいしい飯を食べていればたいいのことは乗り越えられるようになるのかな」。従妹の久留里との2人での生活は、視野の狭かった温巳も成長させ、「地理学は人を見る学問ですから」とまで言わせます。中学1年生だった久留里も7巻で高校2年生に。内向的で引っ込み思案な彼女も少しずつ大人になっていきます。これからの展開も楽しみです。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

「たくのこ」花輪園人

- 三人の兄弟が自宅で繰り広げる「アドリブによるごっこ遊び」のマンガです。こう書いてもどんなマンガかピンとこないと思います。このピンとこない感じがこのマンガのキモだったりするのです。類書があまり無いので物語がどういう展開をしていくか不明で、先が読めたとしても、必ず作者はその裏をかいたオチを持ってきます。読んだことのないタイプのマンガなんで、展開にいちいち感心してしまう。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田 充

- わが道をゆく天才肌。次回作ではどんなアイデアで楽しませてくれるのか期待が高まる。個人的には2013年の最高傑作でした。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野智未

「タケヲちゃん物怪録」とよ田みのる

- 日本の物の怪だけでなく、西洋のモンスターまで出てきてもう大変！ 役者が出揃ったところで、今後どういうふうに展開していくのか、とても楽しみ。

月刊ニュータイプ編集部 / 鳩岡桃子

「達人伝」王欣太

- 待ちました。ゴンタ先生の時代物待ちました。そして、めちゃめちゃ面白いです。春秋戦国時代ですよ。群雄割拠ですよ。キングダムですよ。面白くないわけがないじゃないですか。春秋戦国はいまいち地味で三國志の方が有名で人気ですがこの時代には孔子や墨子や現代でも有名な思想家や任侠が産声をあげたプレ三國志ともいえるべき凄い時代です。それを蒼天航路の王先生がまさに天下のツボの人達をつついてつついて暴れさせるとすれば面白くないわけがない！！（二回目）達人伝にキングダムに、知名度が蔓延したならばいつか春秋戦国時代のゲームをコーエーさんが作ってくれるかも…と期待してます。

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

- 人間が発する「凄み」が絵とセリフを通して立ち上ってくる。その凄みは、後に達人として言い継がれた人物だけでなく無名の人の中にもあることがわかる。力強い作品だ。

往来堂書店 / 三木雄太

- 『キングダム』とは反対に、秦による中国統一を、それに抗う側から描いた『達人伝』。王、武人、侠客、料理人、etc. 成長中の主人公以外の登場人物は、一癖も二癖もあって、みんな特濃の【いい顔】をしています。そんな外れ者たちの、どこまでも熱くて、深く、少しユーモラスな闘いが凄い。

喜久屋書店 阿倍野店 店長 / 榎本年孝

「ダメな私に恋してください」中原アヤ

- YOU 連載。「ラブ★コン」などのヒットメーカーの作者を押すのもどうしたものかと考えますが、面白いのでどうしようもありません。女のどうしようもないダメさ加減が、男の自分に共感できるのが謎です。

毎日新聞デジタル (まんたんウェブ副編集長) / 河村成浩

「ちいさこべえ」望月ミネタロウ

- 絵・構図・コマ割りなどマンガ表現を極限まで突き詰めながら、あくまでポップな雰囲気を読ませてしまう著者の力量に感服。すごい。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

「チェイサー」コージイ城倉

- 相変わらずのじわっとくる「気持ち悪さ」(ほめてます) 満載の作品。個性的という言葉はこの人のためにある。手塚治虫という人を99%尊敬していても、1%まじる「アレ？」という感じをこんなにうまく描ける人はいない！ しつこい味わいの絵も最高！

ライター / 門倉紫麻

- 『フィチン再見！』はみんな推すだろうから、あえてこちらに一票。手塚治虫そのものを描かず、手塚にジェラシーを燃やすマンガ家を主役に、その目に映った手塚を描くという回りくどさが秀逸。それでいてきちんと「俺の手塚論」になっている。コージイ先生、さすがのヒネクレ方です！ 愛と憎しみ、嫉妬と崇拜は同じものなんだなあ……。

中央公論新社 文芸局・学芸局次長 / 石田汗太

「チェリーブロッサム！」茶菓山しん太

- 四コマにもこういった賞を取って欲しい！中々ストーリー仕立てになっているわけでもないのに、大賞は取りにくいであろう四コマにも是非表をとということで今回選びましたのは、こちらの作品！園芸部のドタバタ4コマラブ？ コメです。先生の描くキャラの可愛さや、のりにツッコミに楽しく読める一冊です！

まんが王バイイングマネージャー / 日吉雄

「ちちこぐさ」田川ミ

- 電車の中で読んでいて、図らずしも涙してしまった作品でした。不器用な父親・トラ吉とその息子・シロウ、猛禽類の家路の2人と1羽の道中は彼らにさまざまなことを気付かせるものとなり、本当に大切なものを手に入れさせるキッカケとなっていく。ラスト直前の見開きはすべてを物語っていて、最後のページで見られるシロウの満面の笑みへとつながっていくのだなあと思って胸がアツくなり、ポロポロ涙が止まらなくなった次第。きっと今作は田川さんご自身のご家族への思いの結晶でもあるんだろうなあと思います。現在第2部が始まり今後の展開が待ち遠しい1作です！

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

「血潜り林檎と金魚鉢男」阿部洋一

- 唯一無二の個性を放つ作品。連載誌の休載後、長らく沈黙が続いている阿部先生！先生を応援するためにもひとり10冊は買いたい漫画です！

文筆業 / 海猫沢めるん

「チョコストロベリーバニラ」彩景でりこ

- 男同士はかなり凝ったというか、相当に常識外れの価値観の三角関係を描いていて、そして、ポルノシーンもエロエロで、だからこそ大変面白かった。いくらでも恣意的に世界は描けるし、描いてもいいんだよ。

同人誌研究家・マンガ評論家 / 三崎尚人

「月影ベイベ」小玉ユキ

- Jazz の次は伝統芸能のおわら踊り！小玉先生の描く伝統芸能を熱く愛す若者たちがとっても気持ちいいです。音と踊りと活気の熱がすごく感じられる1巻で読み終わるとほくほくします。越中八尾のおわら祭が観にいきたくありません。早く二巻でないかな。

アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

- ドキドキしました。最初の2Pくらいで「あ、これ、絶対おもしろい」って確信出来たマンガ。影響されやすいので、踊れないけどおわらを踊ってみる自分がある。小玉ユキのマンガの女性キャラクターは女性特有のいやらしさがなく、清々しくて好き。このマンガおもしろいです。

音楽 / 後藤まりこ

- 【月影ベイベ】が単に「伝統芸能」と「青春」だけを題材にしていたならばこんなにも引き込まれていただろうかストーリー中に散りばめられた「秘密」が展開を追うごとにじわじわと滲み出てくるあたりが、更なる【月影ベイベ】へと引き込むスパイスになっている

コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部 福岡営業所 / 阿部大介

- こだまさんのマンガはいつも僣ぶ心があっても切ない！！！！

カメラマン / 平沼久奈

- 登場人物が何か共通のものごとに打ち込むことでつながりを得てドラマが動く、という前作のメソッドを引き継いでいるのだが、今回は女の子もプレイヤーのため、より艶っぽい心情がやりとりされていく。各キャラクターの胸に秘められている思いが少しずつ明らかにされるたび、こちらの胸が引き裂かれます。早く続きが読みたい。

コミックナタリー編集長 / 唐木元

「つらつらわらじ」オノ・ナツメ

- 最初読んだ時には顔の判別がつかなくて大変だったけれど、それに慣れてしまえばあとは一気にこの世界にひたれるはず。颯爽とした殿様はじめ各登場人物が魅力的でもっと読んでいたい気がするけれど、この長さで終わっているのもこの作品の一つの魅力なんだと思います。

鳥取県立日野高校 / 野間 勤

「鉄楽レトラ」佐原ミズ

- 言葉のひとつひとつが、痛かったり、泣きそうになったり、読むほどに引き込まれていきます。嫌なことがあっても自分だけじゃない、みんな何かをもってるんだと思えて、がんばろうねという気持ちになります。

福島県いわき市ブッカーエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

「天にひびき」やまむらはじめ

- 音楽マンガはいくつかありますが、『天にひびき』はかなりの硬派の部類。主人公で音大ヴァイオリン科1年の久住秋央をはじめ、どのキャラクターも悩みながらもがきながら、そのときそのときの答えを出して前へ前へ進んでいきます。久住は、9歳のときに同い年の女の子曾成ひびきの指揮者の才能を目の当たりにして以来、少しでも追いつきたいと、ガムシャラに走り続けます。この作品のキャラクターは、どんなに華やかに成功している人でも老若男女、いろいろな壁にぶつかっています。彼らの心理描写が今の自分にとてもしっくり。あれ自分も同じような壁にぶつかって今悩んでいるんだなと思ったり。いつの間にかそうした自問もさせられる作品で、まるで自分もまた青春時代に逆戻りしたかのような錯覚も感じます。しっかり読めばしっかり応えてくれる、そんな作品です。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

「天地明察」槇えびし

- 原作や映画化されたのと違う人物表現の丁寧さを感じる作品。

自営業 / 小野ゆうこ

「テンペスト」阿仁谷ユイジ

- 萩尾望都や竹宮恵子を彷彿とさせる SF。作者の今まで作品とは色が違い、非常に驚かされる。今後もこの路線の漫画を定期的に発表してほしい。

会社員 / 齋藤 隼

「ディーふらぐ！」春野友矢

- アニメ化で勢いがついた事と既刊が8巻になったので、今のうちに推しておこうと思う作品、インテリに評価されるギャグ漫画のような不条理さや絵柄の独特さはなく、丁寧に少年誌のギャグ漫画の形をとっているもののいや、それ普通ネタとしても話しとしても拾わないよね？という題材をキッチリとギャグに料理してしまう、独特の春友ワールドは一読以上の価値があります。

住職・ライター / 蟬丸P

「デストロ 246」高橋慶太郎

- 高橋慶太郎が「ヨルムンガンド」シリーズの完結に続いて描き始めた「デストロ 246」の容赦の無さは、2巻3巻とエピソードを重ねるごとにより鮮明に、より激しくなっていく。女子高生でありながらも、その平穏な日常と不穏な裏家業をかき分けるような作風は行わず、敵と見なせば殺し、ライバルだと見なせばやっぱり殺していく少女たちの姿を、どこまでもどこまでも追いかけて描いていくストーリー。第1巻で抱いた、戦場ではなく東京なり横浜といった身近な舞台で、女子高生という分かりやすい存在が、あり得ない性格とあり得ない体技であり得ない殺し合いを演じることへのギャップはもはや無い。というより無くさせられた。読み終えた時にぎっと誰もが、目の前を歩く女子高生のふところには拳銃が、ふとももにはナイフが忍ばせてあるに違いないと思えるだろう。あるいは猛烈な毒薬が。

書評家 / タニグチリウイチ

- 凶悪で凶暴でクソ恐ろしい3K女子高生の殺し屋たちが、殺して殺して殺しまくり！気に食わないことがあっても少しくらいはガマンしなさい！とか言おうものならきつとあの世行きです。派手な銃撃戦、緊張感あふれる接近戦、スピーディーなアクション！1巻の帯のコピーにもありましたが男はザコ！と思わずにはいられない1冊です。

恵文社通販部 部長兼コミック総括 / 宮川元良

- 人が簡単に死んでゆく漫画は好きではないのにこの作品はなんで好きなのか自分でもよくわかりません。出てくる女の子は可愛いですがアウトレイジ以上に残酷で口悪いです。それなのにこの子達の部下になりたいと考えてしまうのは僕以外にも全国に沢山いるでしょう。

バンドマン / TA-SHI

「デビルズライン」花田陵

- 青年誌なのにも関わらず、そこはかとなく漂う少女漫画臭。だが、そこがいい。女性は好きな人が多い吸血鬼ものというのもポイントが高い。

成田本店とわだ店 / 安田 幸

「テラフォーマーズ」貴家隆／橘賢一

- それぞれのチームの行方がまた複雑に絡み合ってきてまた面白くなってきました。

メガゾン / 涼平

「デンキ街の本屋さん」水あさと

- 自分的には、夏に発売された5巻から急ブレイクした作品です。5巻・6巻では“思わず写メ撮ってしまうコマ”みたいなのが結構ありました。Gメンの「エ●本大好き！」のところが好きすぎて、一時期ケータイの待受画面にしました。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

「東京心中」トウテムポール

- 『君も人生棒に振って見ないか』に出てくる、映画について語られるくだりが実に良いのです。「創る」ことに携わる人にはきっと、響くのではないじゃろか。創らない／創れない私にもその熱は伝わってくるほど高く、そしてだからこそ私は、創る人たちが好きで好きで仕方がないのだと、実感させられた。だからマンガ、好きなんだよなあ。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「となりの関くん」森繁拓真

- アニメ化されてなお良し

tetote Hair Make Lounge / カ丸 真

「トモちゃんはすごいブス」森下裕美

- ああ、とうとう完結してしまった！！魔法も神様もなしに、変態たちは前に進んでいきました。マンガはトラウマが大好きです。昔、こういうことがあったから、この人はこういう行動を取るんですね、という見立てがなければ、ストーリーにはならないんだから、その見方が中心だし、それがつまらないってことはない。ですが、フィクションが、そこで終わってしまったら、作り話の名折れでしょう！この作品、トラウマがものすごい数、描かれます。主要登場人物のほとんどがトラウマ持ち。ただ、そこからです！そのトラウマを持っている人間が、それゆえに不幸になる、トラウマのある自分を哀れんで、同じ場所をグルグルしていたりは、しない。真正面から格闘して勝つ人もいれば、そもそも受け入れちゃって折り合いをつけている人、それをきっかけに恋愛を始める人、トラウマがあったことが途中から気づく人。ただ一人も、トラウマに食われてないんです。考えて見れば、平々凡々と生きている我々にだって、トラウマがないわけじゃない。でも、それを言い訳にしちゃったら、こんな楽しくてイキイキした生活なんて、おとずれないんだよなー、と。トラウマ至上主義に陥りがちな今のマンガ界の中で、こまけえこたあいいんだよ！！と、光ある場所に辿り着いた結末。人は過去に規定されない、未来に生きられる、という作品。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「とりかえ・ばや」さいとうちほ

- 「男女が入れ替わる」という非常によくあるテーマが、時代ものとは言えプレーンな設定でここまで面白くなるのはさすが。時代背景に基づいたそれぞれの心情描写も見事。

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 異国の皇子を描かせたら右に出る者はいない（と勝手に思ってる）さいとうちほが日本の古典作品を漫画化するのは驚き。原作に忠実ながらも、その美しい絵とテンポの良さで、大変読みやすい作品になっている。平安絵巻はゴシップ的な要素が強くおもしろいので、昼ドラをみるような感覚で読めるのも楽しい。

主婦（元書店員） / 赤坂真実

「どーにゃつ」コザキユースケ

- 読めば大爆笑必至のこの漫画。ただのギャグ漫画と思うなかれ！背後に流れているストーリーは奥深く、謎がいたるところに散りばめられている。さすがコザキユースケといったところか。この先どうなるのかまったく予想がつかないがなんだかんだでこのまま何も謎は解決させず終わってしまったりするのかも。それはそれで良し！かな。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋 修一

「同人王」牛帝

- すみません。書店員として失格かもしれませんが。売れるとか流行りだとか読んで欲しいとかじゃない。ただ好きだから。純粹に好きだから一票投じさせて下さい。本当にすみません……！（全裸土下座）「誰にもわかってもらえなくていい。私だけはわかってる」という、はたからきくと痛すぎる感情をまさか自分が抱くようになるとは…同人王、恐るべし……！

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

「どぶがわ」池辺葵

- それぞれの生活に、その人だけの幸せがある。外から誰かが決めるものではない……と、書くといかにも「ほんわか系」のように思えるが、辛口で厳しくてでもあたたかいマンガ。そしてそれが池辺葵作品の魅力！『繕い裁つ人』も同時に読んでほしいですが、完成度の高さを全1冊で味わえるこちらに一票。

ライター / 門倉紫麻

「ドリフターズ」平野耕太

- もうあえて申し上げることもなくなってまいりました。これだけ濃度の高い漫画はそうそう無いのではないかと思います。でも、決して詰め込みすぎているわけでもなく、時々息をつかせてくれる作者の心遣いがにくい。

めがねっ娘教団 大司教 / 田中海渡

「ナナマルサンバツ」杉基イクラ

- クイズ大会の現場感を醸しつつ、マニア以外にも通じる普遍的な面白さを宿した快作。巻数的に今年が（本賞に推せる）最後の機会だろう。

書評家・ライター / 福井健太

- どんなに願っても、桜木花道とバスケットはできませんが、クイズなら、マンガ内の識くんともガチンコ勝負が出来る。マンガのキャラクターとリアルに対戦できる、クイズとマンガの驚異的な相性の良さを発見した、というのは去年も言いましたが、この作品、今年一年でまたさらにクイズの本質に踏み込みました。競技に活かすためではなく、生活の中で得た知識が競技で生きる快感。逆に競技クイズのために身につけた知識が、今度は生活の見え方を一変させる、価値。クイズをきっかけに、「知識」「知る」ということの意味をまざまざと描き出しています。運営側の手間がハンパなくかかることを除けば、クイズは、老若男女にひらかれた、とてもフェアで意味ある競技であることが、この作品は繊細な少年少女、とくに細身の少年たちの艶っぽい絵とともに、愛情持って描かれています。「野球漫画」というジャンルがあるように、「クイズマンガ」がツネにどの雑誌にもひとつはあるぐらいのものになるべきだ、と思わされるぐらい、大きな鉱脈を僕らに提供してくれている作品です。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- クイズ研究会に入部した素人の主人公が成長していくという、文化部青春漫画の王道のど真ん中を堂々と突き進んでいる漫画。読んでいて清々しい、文句のつけようのない、お薦め漫画。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部コミック担当 / 小磯 洋

- ちょっと物語に停滞感があるな……と思っていたフェイズの終幕を経て、またまた面白くなってきた感あります。第二のスタートというか。各キャラの魅力も明確になってきているし、それに呼応してかイラストも個々の味が出て素敵になってきていると思います。作中に出てくるクイズの答えがわかったりすると、地味に嬉しいです。

超ミュージシャン的エンターティナー / 杉本善徳

「逃げるは恥だが役に立つ」海野つなみ

- 偽装結婚をテーマに描いた作品。ベテラン作家だけにきちんと読ませます。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 就職するために結婚する、そんな発想は無かった！今を生き抜く女性に、ちょっとした息抜きに（笑）読んでほしい、そんな本です。

Books アイ苺荷谷店 / 野口忠義

- 派遣切りにあって凹んで正社員になりたーいと叫んだ女子が「契約結婚」に挑むお話。（「挑む」というほど意気盛んではないな「ためしにやってみる」くらいだな。）恋愛、就職、結婚という現代日本が抱えるグダグダへの切り込み方、問題の切口が見事。「契約結婚」の話だからかもしれないけれど、一般的にトーンが理知的なのが素敵。理知だけが人生の全てではないでしょう、という話でもあるから。仕事も同じよね、報酬とやり甲斐だけが仕事の全てではないでしょう？ という話だし、やっぱり仕事だけが人生の全てではないから。恋愛も同じ、結婚も同じ。それら全てへの目線の効かせ方が絶妙だなと。絶妙の切り口。金田一蓮十郎『ラララ』と読み比べると面白いかも。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

「虹の娘」いがわうみこ

- 登場人物はつけまつげ&アイメイク激しいギャル系の方々なのに、こののほほんとした空気感、方言がかもす「地方感」は何なのでしょう。ほかにない、いがわ先生だけが描ける独自ワールド、クセになりそう。クス系イケメン「愛され洋輔」のエピソードは特に最高です。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 一見今時の少女漫画のような絵柄ですが、ストーリーはとても飄々としていて掴みどころがありません。「いるいる、こういうやつ！！」という登場人物ばかりです。中でも『愛され洋輔』という、最高にスカした男洋輔（ファッションナップにドヤ顔で載ってるタイプ）を描いた話は女子必見です（笑）

ホビー系会社勤務 / 畑中瀬路奈

「年々彩々」秀良子

- 落語「貧乏神」と「寿限無」を題材に2in1して換骨奪胎して切ないBLまんがに。新作落語に分類される「貧乏神」はちゃんと使用許可を取ってあるという念の入れようで、ある意味、公式二次創作というか。まさか「寿限無、寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の〜〜〜」という日本一長い名前を読み上げる場面で嗚咽するとは！ あざやかな手腕。

お菓子研究家 / 福田里香

「脳内ポイズンベリー」水城せとな

- 脳内会議やってるわりには、展開が早く、飽きない！

公務員 / 東くるみ

「NOT LIVES - ノットライヴス -」烏丸渡

- 命を懸けて戦わなければならないリアル電脳バトル、それは現実なのか？バーチャルなのか？主人公三神（操縦者）とヒロイン鏡花（アバター）との絶妙な連携を駆使して終わりの見えないデスゲームをクリアして行きます。戦闘時以外の鏡花の魅力にもメロメロできますよ！

まんが王バイイングマネージャー / 日吉雄

「信長のシェフ」西村ミツル／梶川卓郎

- 試練や課題を乗り越えるために料理するのだが、食べる側を思う心棒が丁寧に描かれている作品。

自営業 / 小野ゆうこ

「のぼさんとカノジョ？」モリコロス

- 引っ越した部屋にいた幽霊と一緒に暮らして行くお話ふよふよ浮いた女の子と、主人公。。というような図のマンガはよくあると思うけれど、これは、一切出てこない主人公との会話用に使うホワイトボードに書かれる文字と、顔文字のみ。なのに。なぜか。なぜか。可愛い子しか想像できないから面白い笑

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「初恋モンスター」日吉丸晃

- 1巻の勢いで。げろ吐きそうな新世代少女マンガ (いい意味で)。この絵でこのキャラ。2巻にも期待しています。

音楽 / 後藤まりこ

「バードメン」田辺イエロウ

- まだ謎の多い段階ですが、これはきっと面白くなる、という予感がするので。

会社員 / 林礼春

「バーナード嬢曰く。」施川ユウキ

- オンノジじゃないの! ? と言われそうですがバーナード嬢曰く選択で。あえてのバーナード嬢で。鬱ごはんも凄い漫画です。むしろこの三作品は同時に読むべき。離してカンガエナイ方が絶対いい。その中でもおバカで極端に明るいバーナード嬢は本読みなら一度は通ってるハズの思考を代弁してくれてます。あるあるすぎてまるで見透かされてるようでドキッとします。胸に手をあてて聞いてみてください。バーナード嬢だった人は挙手。かなり上がると思います。あと、神林さんが面白すぎ。

TSUTAYA 佐鳴台店 / 内藤沙織

- もうね、これはずるい。だってド嬢は私だもん! …と言いたくなるほど、身に覚えがあり過ぎる。そうなんです、読んでないのに読んだ気になるんだよ。この本は、そんな私に「それでもいいんだよ」とささやいてくれた、大変ありがたい本でした。うん、本読むの好きです。たくさん読めなくても、読んだ内容をちっとも覚えてなくても、やっぱり読むの、好きなんだなあ。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 知ったかぶりしたがる主人公による名作の名言をネタにした作品ですが、この作品全体がもうツッコミ所満載で、名言がいっぱいです。「今日の早川さん」にも通じるSFネタ、SF好きキャラの神林さんと主人公・町田さわ子のかけあい、ドツキ漫才は本当に読んでいて楽しいです。神林さんが非常にいい人で、どうすれば楽しんで読んでもくれるだろうと一生懸命に考えて、モノローグで語っているのにそれをすべて台無しにするさわ子の容赦なさ。そしてその態度に対する激しいツッコミ。本好きなら読んでいてとても楽しめる作品だと思います。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本浩司

「ハイスコアガール」押切蓮介

- ヒロインがしゃべらなくてもお話は進むし、恋(?)も進むんだなあ。ゲームにはあまり思い入れはないけれど、引き込まれます。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 去年も推しといて今年も推すのは非常にシャクなんですけど、2013年に刊行された4、5巻が面白すぎてもう一回推します。カーチャンかっこよすぎ。ダメなキャラのままいくかと思ったら主人公がちゃんと成長してていい意味で予想を裏切られました。まっすぐで覚悟きめた人間はやはり見えていて幸せです。

WEB デザイナー / 河本智芳

- アラサーにはたまらない時代設定。描かれている時代のゲーセンに興味ない人でもストーリーが面白く、共感できる要素も多いとおもわれます。

メガマン / 涼平

「ハクメイとミコチ」 檜木祐人

- 小人たちがおくるスローライフなファンタジー漫画。箱庭のような暮らしを見ているだけでなんだかウキウキしてきます。小人たちの仕事や日々の暮らし、その世界に暮らす虫や動物たち、そしてそこにある喜び。ディテールが素晴らしく読んでるだけでにんまりなごみます。

恵文社通販部 部長兼コミック総括 / 宮川元良

- ファンタジーの雰囲気はたまりません。背景が物凄く素敵。アニメ化になったら、物凄く良い!!!!!!と思う1冊。海外のコミックファンも驚くだろうな、と思います。ストーリーが、ほのぼのとしています。キャストがそれぞれ2頭身なのがまた可愛い。要所要所に九州の特産がチラホラしていて、これまた心をくすぐられました。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「8月のソーダ水」 コマツシンヤ

- 僕のエレキギターは、全て青緑色をしている。ギターアンプもカラーオーダー品で、着る服の色のチョイスもどうしてもそちらに寄る。青にこだわる僕にとって、違うんだよなと思ってしまう青は、とても多い。しかしながら、この作品の青は、心の底からオススメである。独特の呼吸感も、とても心地よい。こんな漫画が読みたかったのです。

シンガーソングライター / 谷澤智文

「薄花少女」 三浦靖冬

- 子供のころに大好きだった現在 80歳で実家にいるはずのばあやが、突然少女の姿で一人暮らしの青年の目の前に現れる。見た目は少女だが、作るごはんや言動行動の端々からばあやを感じ、二人のやりとりに癒されあたたかい気持ちになる。そして、ばあやが時々エロい。好き！

主婦（元書店員） / 赤坂真実

「薄花少女」 三浦靖冬

- 夏焼鳩子はばあや、御年 80歳が、見た目小学校 2、3年生になっちゃいます。全体の雰囲気が物凄く良いです。はっかばあやが兎に角可愛らしくて、たまりません。今の時代、こんなに強くて、儂い雰囲気の女の子っているのでしょうか…。わくわくします。続きが早く読みたい！

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「BUTTER!!!」 ヤマシタトモコ

- ボールルームと同じく社交ダンス（こちらは部活）のマンガですが、こちらはそれぞれの学生のコンプレックスを丁寧に描いていて、全然スポ根じゃありません。コンプレックスを抱えたままそれぞれ少しずつ、少ししか成長しないリアル感。1年生だけかと思いきや、先輩のコンプレックスまで切り込んでくれておおおっと思いました。いい形で完結して堂々と人に面白いよ！とすすめたいマンガです。

WEB デザイナー / 河本智芳

「ばらかもん」 ヨシノサツキ

- 都会ぐらしの書道家による田舎暮らしのマンガだと 1、2巻の頃は思っていて、楽しみつつもどこか軽く流し読みしていました。でも 5巻くらいからでしょうか、特に転機となった印象的なエピソードがあるわけでもないのですが、自分でも驚くほど読んで楽しいのです。それがその後 3巻以上続いているのでこれはもうまぐれの面白さではないはずです。

鳥取県立日野高校 / 野間 勤

「パレス・メイヂ」久世番子

- 著者の新境地。ちゃんと？少女マンガしているところが凄い。アンケートで1位を取ったと言うのも伊達では無いですね。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「ヒーローカンパニー」島本和彦

- 戦隊モノのパロディーと思わせて（実際は全然違うけど）、新シリーズになってさらなる広がり、奥深さを見せてきた。ギャグや間も円熟の域を感じさせ、それでいて今後のさらなる大きな展開も感じさせてくれて、本当に続きが楽しみです。

医師 / 岸本倫太郎

「羊の木」山上たつひこ／いがらしみきお

- 犯罪者たちがどこまで事件にかかわっているのか、かかわっていないのか、祭りの描写など独特の世界観もあいまって現実にはありえないのにありそうな話に見えてくるから不思議

メガマソ / 涼平

「ヒナまつり」大武政夫

- イクラが食べたくなる

tetote Hair Make Lounge / カ丸 真

- ギャグマンガで面白いのは大体3巻くらいまで、という自分勝手な思い込みが見事にぶち壊された。既にもう5巻なのに笑いの勢いが衰える気配がなく、個人的には間違いなくここ数年で一番面白いと思えるギャグマンガ。メインキャラの面白さはそのままに強烈なサブキャラが話をかき回すことによって生み出される絶妙な笑いが最高。たまにちょっと感動させる話を挟んでくるのもニクイ。

醤油製造業 / 小野塚博之

「日々蝶々」森下 suu

- それぞれの視点から読めるので、内気で不器用な二人の恋の行方を見守りたい、そんな、ほっこりする作品

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 劇中で「ものすごくかわいい！」と評される女の子を「確かにかわいい！」と読者が納得するように描ける、というのはすごいなあ、と思いつつヒロインの絵に見入ってしまいます。

朝日新聞記者 / 小原 篤

「日々ロック」榎屋克優

- 熱いですね、相変わらず熱いです。こういう昭和っぽいの”熱さ”を感じさせてくれる漫画ってもう絶滅危惧種なんですかね・・・だからこそ個人的な感情もあるかもしれませんが本当に応援しています。ここ2年続けて一番面白くあり続けてくれている漫画です。毎回良い意味で期待を裏切ってくれており、この勢いをどこまでも引っ張り続けてほしいです。ただ段々と段々と今までの良かった泥臭さが減少傾向なので・・・今回は次回作につながる前編として投票させていただきます。

デザイナー / 佐藤 優

- 登場人物が生き生きしていて、良い意味で泥臭くて熱い。ロードムービー風の実写映画の監督をやりたい。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

「pupa」茂木清香

- キモい。あらゆる意味でキモい。なのに次を読みたくってしまうこの感じ。アニメ化されたので今後は知る人も増えてくると思うが、おそらく賛否が真っ二つに割れる作品になるんじゃないかな。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田 淳

「プ〜ねこ」北道正幸

- 3年近くぶりの単行本（5巻）を手に取り、思わず候補に選んでしまいました。プ〜ねことは、「定職を持たないネコのこと」。ネコたちを軸に、実に自由に構成された4コマまんがです。主人公は「風助（プースケ）」とその飼主の桃山モモコ。ときどき、4コマではないストーリーマンガもあります（ネコ無関係なもの）。おぼけの白べえ、風助の父「ミネストローネ風パパ」、文豪先生とその書生ネコ。作者の遊び心もときどきあり、山折り・谷折りすると別の話となるオリマンガ、メガネが必要な3Dマンガと、いろいろあります。ただ、1〜3年に一冊のペースなので、単行本でお楽しみいただく方は続きを気長に待つしかありません。6巻は再来年くらいでしょうか。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

「フィチン再見！」村上もとか

- 戦前の漫画史としても面白いし、職業婦人物語としても見て、昭和史としても面白い。色んな世代の人が色んな見方で楽しめる一冊だと思います。

ホビー系会社勤務 / 畑中瀬路奈

「富士山さんは思春期」オジロマコト

- 富士山さんのかわいらしさが一番のポイントなのですが、多分今後、カンバ君のがんばり次第でそれがもっともって引き出されるはず。そういう展開になるはず。という期待をこめて、投票します。

会社員 / 林礼春

- 思春期真っ盛りの中学生の恋愛というキーワードだけでもう甘酸っぱいとか身悶えるしかないじゃないですか。僕のようなおっさんは、この2人の可愛さを、初々しさをニヤニヤしながら読むしかないんです。青春！2人の健全なお付き合いがこれからも楽しみなんです。

恵文社通販部 部長兼コミック総括 / 宮川元良

- 身長181cmの高身長彼女がヒロインの恋愛漫画。設定だけ見ると、まあ普通・・・っちゃあ普通の設定・・・？かぼちゃワイン的な・・・？って一瞬思いますが、読むと甘酸っぱさがすごくてやられちゃいます。富士山さんがとてもいいです・・・地味だけど、明るくて優しそうな雰囲気になりに惹かれます。青春ノイローゼの私たちの心をほのぼのぎゅっと掴んでくれる・・・そんな漫画です。

会社員 / 西尾美里

「flat」青桐ナツ

- 毎年推していますが、本誌の方ではとうとう最終回を迎えました。泣いた…。「flat」をここでおすすめできるのも来年までとなりまして、さみしいですが、これからはずっと大事な作品です。

金海堂イオン準人国分店 コミック担当 / 園田美智子

「ブックイーター」カネタケ製菓

- 面白い！恋愛オムニバス登場人物の会話リアルで引き込まれますみんな自分の中のちょっと暗い黒い部分を理解し愛してくれる人を探しているんだなあ。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「BLUE GIANT」石塚真一

- 『岳』の石塚さんがまたやってくれた！というのが第一印象でした。テーマがJAZZという、読み解くことが困難な『音』を描いているのでそれをどう表現するのがチープなものになってしまうかどうかの境目なのだと思います。今作はそれを『表情』で描いているように思えます。主人公・宮本 大のアツい演奏時の表情もさることながら、彼に感化されていく周囲の人たちの表情が、我々読者が聴き得ない彼の『音』を体感させていくのだと思います。1巻が未来の『モノローグ』で終わるのは本当にズルいと（笑）早く続きが読みたくてしかたないです！

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

「文豪ストレイドッグス」朝霧 カフカ / 春河 35

- 文豪をキャラの名前に使い、文豪の作品名を技名として使っていて、ゲーム感覚で読める作品

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

「ぶらせばくらぶ」奥田亜紀子

- 読みきりで第一話を読んだ時の余韻と衝撃が忘れられず、連載が決まり単行本が発売されると知ったときはガッツポーズしたくなりました。たまらなく好きです。中学生の頃のあの小さい世界で決まってしまう身分制度の中を生きてきたことをなんだか愛おしく思わせる描写が凄いなと思いました。親友が自分が決してなることはないだろうイケてる側にいつかは行っちゃうのがさみしいなんて考えてしまう主人公に心がギュギュ-っとなります。

バンドマン / TA-SHI

- 誇張表現がリアルをえぐる、痛々しい快感にしばれました。主人公のどうしようもなさ、逃げ場のなさに負けずに最後まで読んでよかったです。アクは強いけど、オススメしたい！

WEB デザイナー / 河本智芳

- 「スクールカースト」というテーマがメディアで語られるようになりましたが、漫画ではずっと昔から取り組まれてきたテーマ。この作品も、クラスのヒエラルヒーの「底辺」で生きる子供たちの息詰まるような毎日を、リアルに描いています。作中に登場するどの非リア充たちも愛しくてたまらない。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「ベアゲルター」沙村広明

- でたー！無限の住人が完結した沙村広明の新作はエロバカバイオレンス！勘違いした外国人がつくった謎オリエタルアクション映画のようなすばらしいキッチュさ！いい！！

文筆業 / 海猫沢めろん

「ホームレス大博覧会」村田らむ

- 根本敬「人生解毒波止場」に通じるエッセイマンガ！リアルホームレスたちの生き様をえがいた観察記録！日本の格差社会を知らしめるためにこれをぜひ読んでほしい！

文筆業 / 海猫沢めろん

「宝石の国」市川春子

- マンガ自体はモノクロなのに、色付きに見える、そんな鮮やか・キラキラ感にもう夢中！流麗な戦闘シーンがたまりません。読んでいて、音楽がきこえてくるような、作りこまれた雰囲気と世界観が素晴らしい。宝石たちの学園モノ・・・今一番、雨の日の昼下がりに（現実逃避したいときに）ひとりで読みたい漫画 NO1 です。

会社員 / 西尾美里

- 市川春子は『虫と歌』と『25時のバカンス』の2冊の作品集で、人と人ならざるモノとの関係を描いてきました。この特殊な関係が生み出す感情や思いを、洗練されたデザイン画のようなコマ割りを駆使して描くのがこの作者の特徴です。『宝石の国』においては、もう人間は出てこず、特殊な環境下で生まれた人格を持った宝石たちの物語となっています。宝石たちは基本不死なのですが、28人しか存在せず、彼らを装飾品にしようと襲い掛かる月人との戦いが日常です。宝石の特性ごとに能力や身体の構造に違いがあり、その個性によって生まれる悩みや、キャラ同士の関係性が面白い。宝石たちに性別はありません。この性を超えた愛情がとて胸を打ちます。もう一つ、月人との戦いが素晴らしい。ページ毎、アート作品にも見えるかのような、華麗なアクションシーンが、この作品の最大の魅力となっています。作者独特の台詞回しも健在。とっつきにくい難解さはあるけれど、その壁を越えた先にあるカタルシスを味わってほしい。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田 充

- 雑誌で追っていて、ついに待望の1巻が出た。ますますおもしろい。ストーリーの意外性と画面の魅力が拮抗していて非常にバランスがいい。

お菓子研究家 / 福田里香

- 『虫と歌』に『25時のバカンス』と、描くもののすべてが珠玉という市川春子の新作は、輝く宝石たちを主人公にしたこれも珠玉のストーリー。硬くて。脆くて。柔らかくて。強くて。美しくもあって。恐ろしくもある。そんな宝石たちが人の形となりながら、それぞれの特質を持ったまま滅びかけ、復興の途上にある地上で月よりの侵略者を相手に戦いを繰り広げている。硬さを誇るダイヤモンドに、ねばり強さを持ったボルツ。戦いに優れた能力を発揮する者たちがいる一方で、主人公のフォスフォライトはあまりに脆く、戦いに向かないために記録係となって、宝石の子たちの戦いや日常を綴っていく。色も、形もさまざまにあって、同じ種類でも、ひとつとして同じものはない宝石たちは、人種が違い性別も違い年齢も職業も様々な人間と同様。それらが互いを認め、信じてまとも暮らしている姿から、人の世に区別なく差別もしないで生きていくために大切なことを感じ取ろう。

書評家 / タニグチリウイチ

- まったく新しいSFの世界。描写の美しさにも脱帽。

弁護士 (長島・大野・常松法律事務所) / 三村量一

「補助隊モズクス」高田築

- これは面白い！あまりにも面白いのでいろんな人に薦めまくっている。2巻の続きを読みたい衝動と日夜格闘中！はやくでないかなあ。式神のフィギュア付き限定版とかでちゃったら即買い間違いなしなんだけどなあ。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋 修一

「焔の眼」押切蓮介

- 押切蓮介が好きな人は、この作品も好きではないかと思います！他国に占領されてしまい、その中で悲惨な暮らしを強いられている中で、人知を越えた強さをもつ「クロ」と少女が出会い戦火の中を生きていく話です。クロの生き方に影響されて強くなっていく少女の成長に、この先どうなるのだろうと次が気になってしまいます。序盤のシーンから連想されるクロのこの先の運命はどうなるのでしょうか。描写が人によっては好みがわかれるかもしれませんが、その描写があってこそ引き込まれる感のある作品です。

デザイナー / 平沼寛史

「ボールルームにようこそ」竹内友

- 昨年もノミネートされていましたが、個人的には、昨年の中でもダントツの面白さだったと思っています。今年、4、5巻がでて、さらにパワーアップして、とにかく熱い！！ページを捲る手が、回を追うごとに止まらなくて、どんどん加速していきます！！競技ダンス(社交ダンス)に飛び込んだ主人公・多々良の成長期が止まりません。この先、同級生が新パートナーとなるのか!?ライバルに向かってどこまで駆け上っていくか、楽しみ。とにかく、前向きにがんばろうって気にさせてくれる漫画です。

女優・ナレーター・旅芸人 / 結城しおり

- 巻数が進むごとに読み応えが増してる。どことなく既視感のあるストーリーや展開が気にならなくもないが、今「友達に勧めたくなる漫画」No.1 であることに一点の疑いもない。

凸版印刷・ディレクター / 紺野慎一

- 1～4 巻も熱かった。しかし、5 巻も熱い！そして、ついに千石が踊り出した！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- ひたすら面白い。社交ダンスを通じて主人公が成長していく姿も勿論見所なんだけど、何よりダンスシーンの臨場感あふれる描き方が本当に素晴らしくて、胸熱です！バチバチした緊張感が伝わってくる。ダンサーの色気も半端ないです(笑)。読む度にワクワクさせてくれる大好きな作品。

シンガー / 山野井千佳

- 巻を重ねるごとに魅力を増していくストーリーとキャラクター。変化球が多く見られるマンガ界で、主人公の成長と才能が輝く超王道！

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

「僕は問題ありません」宮崎夏次系

- 前作より格段にマンガが上手くなっている。この感性のまま、どんどん進歩して行ったらすごい作家になると思う。

書楽阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田 充

「ぼくらの17 - ON！」アキヤマ香

- " 俳句甲子園 " 出場を目指す高校生たちの物語。俳句甲子園は実在する。毎年 8 月に愛媛県松山市で開催される、高校生を対象とした俳句コンクールで今年 17 回目を迎える。俳句を詠みあい、質疑をぶつけあう。「片思いの女の子が俳句好きだったから」と俳句愛好会に入ってしまう主人公。17 文字に込められた想いにハッとさせられたり、ドキドキしたり。何度も読み返したくなる一冊。

馬場企画 / 島影真奈美

「僕らはみんな河合荘」宮原るり

- 最近の私に一番「ラブコメ分」を補給してくれている漫画だと思います。「先輩」律ちゃんと宇佐君の距離感がだんだん近づくと、その近づき具合が絶妙。「ラブコメ」の面白さのもっとも肝要な部分こそそこだと思います。早すぎればお手軽な萌え作品、ゆっくり過ぎると進まなくなってマンネリになります。その近づき方が大変程よいので、次を読むのが楽しみで仕方ない。

会社員 / 林礼春

- 基本コメディ漫画は苦手だが、このテンポの良さに完全ノックアウト。ページを捲るごとに爆笑。

会社員 / 齋藤 隼

「魔女と猫の話」四宮しの

- 魔女見習いの少女達がそれぞれのパートナーである猫と心を通わせて成長していく様が純粋に心を打ちます。読み終わったあとはとても温かい気持ちになること間違いなし、良い漫画に出会えたなぁと感じます。

醤油製造業 / 小野塚博之

- これはもう、表紙からして可愛い！お話も可愛い！最後までときめきっぱなしでした。猫たちはちいさな魔女の成長を見守り、励まし、ひとりひとりの絆がたしかに結ばれてゆく。そして彼女たちが成長していく過程がすごく良かったです。少女たちも猫たちも個性的で、次はどんなお話だろう？どんな猫が呼びだされるのだろうか？と、読んでいるこちらドキドキしてしまいました。一話一話をかみしめて大事に読みたくなる一冊。心に一生残る漫画って、こういうあたたかい作品だと思います。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- その世界では、魔法学校に通う少女は13歳になると魔法陣を使って猫を呼びだし、永遠のパートナーにする。でも13歳なんてまだまだ子供。自分に不安もあれば世界に憧れもあって、猫を呼びだしても良いのかと悩み、呼びだした猫が自分の好みではないと迷う。街で慕われている魔法使いのおばあさんとパートナーの黒猫との関係に憧れ、自分もそうなりたかった少女が呼びだしたのは、格好良くないいつもダルそうにしている猫。自分に自信を持ってずつむき気味に歩いている少女が呼びだした猫は、そんな少女をいたわず逆に罵倒して鍛え直そうとする猫。嬉しくない。楽しくない。けれども、そんな猫たちとのつき合いの中で少女たちは知り、読者は知る。自分に欠けているものを猫たちは見せてくれているのだということに。思春期ならではの揺れ動く心をさらけ出し、そして成長していくための道筋を、猫たちが作っているのだということ。猫との絆を描く漫画であると同時に、少女たちの今とこれからを描いた漫画。猫を呼び出せない現実の世界で生きる少女たちは、そこから知ろう、自分にはどんな猫が現れてくれるのかと、そんな猫が自分の欠けている何を埋めなくてはいけないのだと、教えてくれているのかを。

書評家 / タニグチリウイチ

「魔法科高校の劣等生」佐島勤／石田可奈／林ふみの／きたうみつな

- 原作ラノベ未読ながら楽しく読めました。主人公強すぎモチすぎ系作品ですが、中二病的欲望を存分に満足させてくれるのでいいんじゃないかと。

ライター / 芝田隆広

「MAMA」売野機子

- 24年組に代表される古き良き少女漫画が持つ懐かしさと粹組みされていないからこそその自由度の高さを活かした、先の読めないまったく新しい物語になっていると思う。少年たちの無知ゆえの美しさと、かれらを守つ残酷な運命がたまらない。

アニメガ新宿マルイアネックス店 コミック担当 / 小田真弓

- 寄宿舍。少年合唱団。天使の死。大好物がずらり。読まずにいられない。

お菓子研究家 / 福田里香

「漫喫漫玉日記 深夜便」桜玉吉

- ひさびさの単行本リリースが、本当にうれしかった。そして変わらぬ玉吉クオリティに感激。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 精神を病んで消えかけた漫画家、桜玉吉が東日本大震災をイグニッションに復活……？ 復活、たぶん。2012年、2013年にコミックビームに掲載された短編を集めた短篇集。作者本人の危うさがにじみ出る虚々実々の作風は唯一無二。腰を痛めたおっさんが深夜に親子丼を食いに行く表題作「深夜便」は、ホラーとも妄想とも随筆ともつかない言いがたいなにかだが、傑作だと思った。俺たちはなんてこんなにもどうにもならないんだろう？ より鬱の気配が濃いようにも感じる『漫喫漫玉日記 四コマ便』と一緒に読もう！コミックビーム！

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- 「車道を横断するときに100円玉を2枚拾った」たったそれだけを掬い取ってこんなに面白く読ませる。復帰前後については『～四コマ便』に詳しいが、作品を定期的に読めることがとても嬉しい。

往来堂書店 / 三木雄太

「MIX」あだち充

- 超王道ですけどなにか？

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

「みどりの星」真造圭伍

- 少し不思議で胸の高鳴る冒険活劇、これぞマンガ、というメジャー感が溢れていて、たいへんに喜ばしいです。早く続きが読みたい。

コミックナタリー編集長 / 唐木元

「ミュージアム」巴亮介

- 画力、ストーリー構成力、どれをとっても新人とは思えない！まるで映画を観ているような気になります。

三省堂書店そごう千葉店係長 / 内野智未

「みんな！エスパーだよ」若杉公德

- 緊張と緩和のコントラストが絶妙。

PENICILLIN vocal / HAKUEI

「胸が鳴るのは君のせい」紺野りさ

- 絵がかわいくてかっこいいです。少女漫画的、ハリウッド SF 作品、みたいな。このパターンか！と途中でわかってくる、でもそれがいい！！笑片想いからスタートして…のベッタベタ王道な少女マンガです。余計なことを考えずに少女漫画の世界に浸りたい時、ちょっぴりおつかれな時。ありますよね！？そんな時、女子の心にぎゅんぎゅんと安心感をくれる作品です。

フリーアナウンサー / 松尾 翠

「名探偵マーニー」木々津克久

- 女子高生探偵譚の佳作。多彩な " 異端 " の造形にセンスを示すことで、著者らしいユニークな世界が展開されている。来年には9巻（以降）が出ている可能性が高そうだ。

書評家・ライター / 福井健太

「目玉焼きの黄身 いつつぶす？」おおひなたごう

- ビーム連載。タマゴをネタに、ここまで真剣に論じると、自分の行動に照らし合わせてしまう。そういうパワーを持つ作品。難しい話をしているわけじゃないけど、哲学的です。

毎日新聞デジタル（まんたんウェブ副編集長） / 河村成浩

「メロポンだし！」東村アキコ

- 今一番業界に詳しくなれるマンガオブザイヤー。ちょいちょい挟まれるテレビ業界ネタが非常に秀逸。あるある w

京都精華大学特任准教授 / ひでつづ

「モンスター娘のいる日常」オカヤド

- 2013年のファンタジー系人外ヒロインブームの立役者、ネットでは昔から有名でしたが、出版化の底力を遺憾なく発揮して一部の好事家だけのモノであった人外ヒロインを周知させた恐るべき一冊であったかと、連載の都合からハーレム系作品になってしまったのは残念でしたが、結果的に破壊力を倍増させる事になった。

住職・ライター / 蟬丸 P

「ヤマノススメ」しろ

- かわいい絵とほのぼのした雰囲気、登山道具や、山での調理等、わかりやすく山に登るための予備知識が丁寧に説明されています。それだけだと、ただの山のガイドマンガになってしまうのですが、このマンガは人と接するのが苦手で、山が特に好きではない主人公が、徐々に山が好きになり、人とのコミュニケーションがとれるようになっていく成長物語でもあります。そのテンポがとてもゆっくりなので、押しつけがましくなくずっと自分の中にしみ込んでくる感じです。そして、それがとても心地よいのです。これなら自分でもできそうだし、やってみようかなと自然に思えます。登山に興味はなかった私ですが、このマンガを読んで高尾山にいつてしまいました。山に興味がある人すべてにお勧めのマンガです。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬公将

「乱と灰色の世界」入江亜季

- 巻が進んで状況は深刻になってきたが、どんな状況にあってもワクワクがわいてくる（中の登場人物たちにも、外にいる読者にも）のがこのマンガのすごいところだと思う。祈・ブレイク！

ライター / 門倉紫麻

「レイチェルダイアル」皿池篤志

- 一話一話読み応えがあって、どの話も笑いと切なさがバランスよく混在している。変わらないロボットコンビ二人と徐々に成長していくレイチェルをみると、タイトルだけで切ない気持ちになれる不思議。早く2巻が読みたいよ～

bar 図書室 店主 / 岡部 愛 (のん)

「ワールドトリガー」葦原大介

- 私的2013年トップ！葦原さんは『リリエントール』から大好きな作家さんですが、今作はさらに完成度が高まっていると思います。SF考証の確かさもさることながら、実は相当重いテーマを描いているにもかかわらず、キャラの柔軟性というかユルさというか、そういった中和材料がほのぼの感さえ感じさせるのは本当にスゴイっ！でも決して奇をてらった内容ではなく、少年SFマンガのド王道を突き進んでいるのは本当に素晴らしいかと。今年2014年はさらなる注目が集まることでしょう。でもブレないで今の雰囲気を展開し続けてほしいと思います！

ブックファースト新宿店従業員 / 川崎一利

- ほのぼのとした絵柄なのに、なにやら殺伐しているギャップがたまりません。大きく動き始めた物語がどこに向かっていくのか、これから楽しみです。

教師 / 持丸宏司

- 今までのジャンプにはありそうで無かった正統派SF作品です。設定も難解にならないんだけど奥深く、続きが気になる作品。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- SFアクションと銘打ちつつ、水面下の暗躍、もとい人間ドラマのほうが主眼かと。派手さよりもじっくり読ませるタイプの話です。なにしろ一話目見開きイラストの意味が判るのが2巻、主人公の口癖の意味が判るのが3巻と、ストーリー展開が遅い。ジャンプでこれで大丈夫かと、別の意味でもドキドキします。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 地球防衛軍 VS 侵略者(?)の「本格SFアクション」少年マンガ。超おもしろい。設定がこまかくて、読みこむほどに発見がある。いいですね。戦隊ものとしての良さもあるのかなあとか思ったり(ちがうけど)。すげー地味なんですけど、じっくり読む少年マンガってのもありだよなあ。ありですね？これも、もっと売れてほしいタイトルではあります。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「ワカコ酒」新久千映

- なんというおっさんキラーなマンガ。飲んでいるワカコさんを横目に飲みたい。

会社員 / 齋藤 隼

- 一話が非常に短いながらもツボをついたコメント、そして酒呑みならわかるあるある感がたまらなく面白い。「孤独のグルメ」女性酒呑みバージョンといったところか。とにかくそこに居酒屋があるかぎりこの漫画は続くと思うし、読み続けてしまうことだろう。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋 修一

- 女性が一人でひたすら飲み歩く。そんな場面しかないのですが、牡蠣を食べた後に飲む日本酒のおいしさとか、餃子を食べた後のビールの美味しさとか、お酒を飲む人ならわかる！って場面が凝縮されているのです。このマンガ。そして、その瞬間に発せられるぷしゅーという擬音とワカコの表情。このマンガを読むと飲みに行きたくてたまらなくなります。呑兵衛の人、一人飲みデビューしたい女性に特におすすめのマンガです。

国内 Sler システムエンジニア / 廣瀬公将

- 酒が飲みたくなり、美味しいものが食べたくなります。お店に行って一人酒ってのも良いですね。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 料理を題材にした漫画というのが最近流行っていて、すでに一ジャンルを成していると思う。この漫画は、その中に分類されるのだろうけれど、いわゆる『グルメ』な話は一切取り上げられていない。ワカコさんがただひたすら、美味しい酒のつまみを食べに行く話なのだ。さざえのワタの話に大きくなずき、ポテトフライによだれを垂らし、しょうが焼きに身もだえしながら読み進める。どれもこれも本当に美味しそう！そして、デパートの8Fのイタリア料理屋で、まさに今、『えびがオリーブオイルでくつつ煮えたの』を頼みそうになってはっとする、今日この頃なのでした・・・。

啓文堂書店本部 / 山川美香

「惑星9の休日」町田洋

- これ以上ないと思えるほど削ぎ落とされたシンプルな線が作る、清涼感ある素晴らしい決めコマ。今年躍進に期待したいマンガ家です。

往来堂書店 / 三木雄太

- たむらしげるの絵本であり、映像化もされた「ア・ピース・オブ・ファンタスマゴリア」を想起させる、とある惑星での出来事を綴った短編集。ちょっぴり不思議でときどき悲しくもなるけれど、それでも心がほっこりとして来て、これからもゆっくりと進んでいこうという気持ちにさせられる。その惑星の極点にある町は、穴の中にあって日が当たらず、歩く人たちはそのままの姿で氷付けになっている。そこで凍りついた女性に恋をした主人公の男性を描いたエピソードでは、永遠を揺さぶる意味を問われる。まもなく惑星から遠く離れていってしまうという月に、かつて調査で赴いたことがあるという老人が、カフェのウェイトレスに語ったその月での不思議なできごとを描く「衛星の夜」は、驚きの出会いがあって、交わされる心情があって、そして離別があって漂いだした哀しみに涙が滲む。突拍子もなくて唐突なところもあって、それでいて読んでいて面白く説得されるようなところもある漫画たち。けれども、基本はゆるゆるとしてふわふわとした感じに浸り、気がつくとその惑星に暮らしたくなっている。

書評家 / タニグチリウイチ